ソフトウェア バージョン TC5.1
2012 年 3 月

Application Programmer Interface (API) リファレンス ガイド

Cisco TelePresence システム コーデック C20

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

このユーザ ガイドの内容

上部メニュー バーと目次のエントリはすべてハイパーリンクになっており、クリックしてトピックに移動できます。

ユーザ マニュアルの更新バージョンがないか、定期的に Web サイトにアクセスして確認することを推奨します。
▶ http://www.cisco.com/go/telepresence/docs を参照してください。

目次

はじめに

このマニュアルについて 5
ユーザ マニュアル 5
このバージョンの新機能 6
ソフトウェア リリース ノート 6
ソフトウェアのダウンロード 6
新機能および改善点 6
xConfiguration の変更 6
xCommand の変更 7
xStatus の変更 7

API について

API について 9
基本原則 9
API エンジン 9
情報の構築 9
XPath または SimplePath を使用したアドレス指定 10
フィードバック 10
コーデックへの接続 11
XACLI へのアクセス 11
Telnet/SSH ログイン 11
シリアル ポート ログイン 11
シリアル ポートのコンフィギュレーション 11
Reboot 11
ハードウェアおよびケーブル接続 (RS-232) 11
トラブルシューティング (RS-232) 11
値のタイプおよびフォーマット 12
ユーザ コマンド 13
コマンドの主要なタイプ 14
コンフィギュレーション タイプのコマンド 14
コマンド タイプのコマンド 14
ステータス タイプのコマンド 14
特別なコマンド 14
フィードバック タイプのコマンド 14
プリファレンス タイプのコマンド 14
xConfiguration について 15
xConfiguration の動作 16
結果パラメータのリターン 16
xConfiguration ヘルプ 16
xConfiguration 読み取り 16
xConfiguration 書き込み 16
xCommand について 17
xCommand 動作 18
結果パラメータのリターン 18
xCommand のヘルプ 18
xCommand 書き込み 18
xStatus コマンドについて 19
ステータス情報の照会 20
xHistory について 21
xEvent について 22
xFeedback について 23
xPreferences について 24
xPreferences の出力モード 24
SystemTools コマンド 25
XML API サービス 27

xConfiguration コマンドの説明

xConfiguration コマンドの説明 29

xCommand コマンドの説明

xCommand コマンドの説明 65

xStatus コマンドの説明

xStatus コマンドの説明 95

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

付録

起動スクリプト 145
起動スクリプトの追加 145
Cisco TelePresence リモート コントロール 146
リモコン キー マップ 147
接続解除原因タイプについて 148

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

1 章

はじめに

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

このマニュアルについて

このマニュアルは、TC ソフトウェアの Application Programmer Interface（API）の概要を紹介し、次に示すコーデック C シリーズのコマンドライン コマンドのリファレンス ガイドとして役立ちます。

- Cisco TelePresence システム コーデック C20

ユーザ マニュアル

TC ソフトウェアを実行する Cisco TelePresence システムのユーザ マニュアルには、さまざまなユーザ グループに適した複数のマニュアルがあります。

- Video conference room primer
- Video conference room acoustics guidelines
- TelePresence システムのインストール ガイド
- TC ソフトウェアのソフトウェア リリース ノート
- TelePresence システムのスタートアップ ガイド
- TelePresence システム（タッチ コントローラ）のユーザ ガイド
- TelePresence システム（リモート コントロール）のユーザ ガイド
- TelePresence システムのクイック リファレンス ガイド
- TelePresence システムの管理者ガイド
- PrecisionHD カメラのカメラ ユーザ ガイド
- コーデック C シリーズの API リファレンス ガイド
- コーデック C シリーズの TC コンソール ユーザ ガイド
- コーデック C シリーズの物理インターフェイス ガイド
- 認証および安全に関する情報ガイド
- TC ソフトウェアの法律およびライセンス情報

ユーザ マニュアルのダウンロード

▶ http://www.cisco.com/go/telepresence/docs を参照してください。

– 右側のペインで、次の内容を選択します。

- コーデック C シリーズと Quick Set C20 の ***TelePresence ソリューション プラットフォーム。***
- PrecisionHD カメラ、マイクロフォン、Touch ユニットとリモコンの ***TelePresence ペリフェラル。***

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

このバージョンの新機能

ここでは TC5.1 ソフトウェア バージョンで追加または変更された詳細設定および新しい機能の概要について説明します。

ソフトウェア リリース ノート

新情報および変更のすべての概要については、ソフトウェア リリース ノート（TC5）を読むことを推奨します。

▸http://www.cisco.com/en/US/products/ps11424/tsd_products_support_series_home.html を参照してください。

ソフトウェアのダウンロード

ソフトウェアのダウンロードについては、▸http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html を参照してください。

新機能および改善点

Touch 使用時の画面上の会議通知拡張

スケジュールされた会議が終了する 5 分前に通知が画面に表示されます。同じ通知がタッチ コントローラに表示され、ユーザは [Yes] を押して会議を延長することができます。

リモート サイトからの Web のスナップショット

リモート着信ビデオの Web スナップショットを非暗号化コールに使用できます。

Web インターフェイスの拡張

有効なリリース キーのソフトウェア バージョンが [Software Upgrade] ページに表示されます。

システムは、[Maintenance] タブから工場出荷時のデフォルト設定にリセットできます。

ファシリティ サービス

API は、5 つのファシリティ サービスをサポートします。

タッチ コントローラがそれらのうち 1 つを使用します。設定に応じて、上部バナーにヘルプ ボタン(*?*) が表示されます。ヘルプ ボタンを押すと、コール ボタンが表示され、ヘルプ デスク、タクシー、受付といったファシリティ サービスへの短縮ダイヤルとして利用できます。現在のコールは、ファシリティ サービスを呼び出しているときは保留状態になります。

Touch からの追加カメラの制御

ドロップダウン メニューで、接続されているカメラの 1 台をメイン ビデオ ソースとして選択できます。カメラ制御によって、メイン ビデオ ソースとして選択されたカメラを操作します。

タッチ コントローラでサポートされる新しい言語

- デンマーク語
- ノルウェー語
- スペイン語

xConfiguration の変更

新しいコンフィギュレーション

xConfiguration Conference [1..1] Multipoint Mode

xConfiguration Conference [1..1] IncomingMultisiteCall Mode

xConfiguration Experimental Conference [1..1] MultiStream Mode

xConfiguration Experimental Conference [1..1] MultiStream InputCount

xConfiguration Experimental Conference [1..1] MultiStream OutputCount

xConfiguration Experimental Conference [1..1] MultiStream Stream [1..4] Source

xConfiguration FacilityServices Service [1..5] Type

xConfiguration FacilityServices Service [1..5] Name

xConfiguration FacilityServices Service [1..5] Number

xConfiguration FacilityServices Service [1..5] CallType

削除されたコンフィギュレーション

xConfiguration Experimental PacketOverloadHandling WhenDetected

変更されたコンフィギュレーション

xConfiguration Conference DoNotDisturb Mode

旧 : <On/Off>

新 : <On/Off/Timed>

xConfiguration Video Output HDMI [1, 2] Resolution

旧 : <Auto/640_480_60/800_600_60/1024_768_60/1280_1024_60/1280_720_50/1280_720_60/1920_1080_50/1920_1080_60/1280_768_60/1360_768_60/1366_768_60/1600_1200_60/1920_1200_60>

新 : <Auto/640_480_60/800_600_60/1024_768_60/1280_1024_60/1280_720_50/1280_720_60/1920_1080_50/1920_1080_60/1280_768_60/1360_768_60/1366_768_60/1600_1200_60/1680_1050_60/1920_1200_60>

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand の変更

新しいコマンド

xCommand DoNotDisturb Activate
xCommand DoNotDisturb Dectivate
xCommand FacilityService Dial
xCommand Phonebook ContactMethod Modify
xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll
xCommand SystemUnit ReleaseKey List

削除されたコマンド

xCommand Camera ReconfigureCameraChain
xCommand Provisioning CancelUpgrade
xCommand Provisioning CompleteUpgrade

変更されたコマンド

xCommand Boot
追加 : Action: <Restart/Shutdown>
xCommand Experimental TakeWebSnapshot
旧 : SourceType: <localInput/localMain/localPresentation>
新 : SourceType: <localInput/localMain/localPresentation/presentation/remoteMain>
xCommand Phonebook Contact Add
追加 : CallType: <Audio/Video>
xCommand Phonebook ContactMethod Add
追加 : CallType: <Audio/Video>
xCommand Provisioning StartUpgrade
削除 : AutoComplete
xCommand SystemUnit FactoryReset
追加 : TrailingAction: <NoAction/Restart/Shutdown>

xStatus の変更

新しいコマンド

xStatus Conference Multipoint Mode
xStatus Conference DoNotDisturb
xStatus Notifications

削除されたコマンド

xStatus SystemUnitHardware AudioBoard
xStatus SystemUnitHardware VideoBoard

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

2 章

API について

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

API について

基本原則

API の中核となるのは API エンジンです。ここですべての情報が保存され、処理されます。

API エンジンは、RS-232、*Telnet*、*SSH* を使用した *XACLI* という使いやすいコマンドライン インターフェイスによって、または HTTP/HTTPS 経由の XML API サービス（*TXAS*）によってアクセスできます。

API エンジンの使用は、コンピュータでのカタログやファイルの使用と非常によく似ています。すべての情報は、さまざまなインターフェイスからアクセスできる階層ツリー構造に保存されます。

- API エンジンに XACLI（RS-232、Telnet または SSH）を使用してアクセスすると、独自のコマンドライン スタイルまたは XML 形式で情報がフォーマットされます。
- API エンジンに TXAS インターフェイス（HTTP/HTTPS）を使用してアクセスする場合、XML 形式がサポートされます。

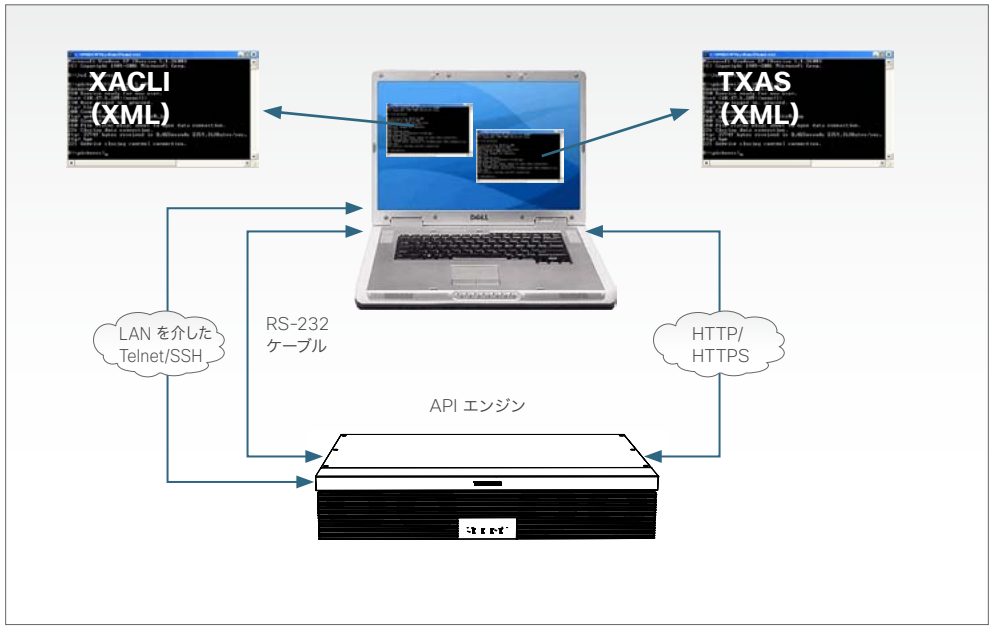
これは、コンピュータのファイル表示と似ています。コマンド プロンプトを使用して Windows コンピュータのカタログにアクセスすると、Windows エクスプローラを使用する場合とは異なるビューが表示されますが、情報は同じです。

Telnet について

Telnet はデフォルトでディセーブルです。Telnet を使用してコーデックに接続する前に、RS-232 または SSH 経由でインターフェイスをイネーブルにする必要があります。

次のコマンドは、[Administrator Settings] メニューまたは API コマンド インターフェイスから設定できます。

- `xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: On`



API エンジン

API エンジンは、シスコのシステムと外部制御アプリケーション間での、簡単ながら高度なマシン相互対話用に最適化されています。

主要機能は次のようにまとめることができます。

1. 情報の構築
2. XPath（XML パス言語）または SimplePath を使用したアドレッシング
3. フィードバック

情報の構築

Application Programming Interface（API）は、2 つのシステム、つまり制御アプリケーションとターゲット システムの間で情報が交換されるゲートと見なせます。

制御アプリケーションは、ターゲット システムに指示を送信し、ターゲット システムは、他のシステムに関連した情報に加えて、これらの指示がどのように実行されるかについての情報を提供します。

その結果、情報の交換は次のように分けることができます。

1. ターゲットから流れる情報。これを読み取り情報（R）と呼びます。（R）を、コマンド テーブルで必要なパラメータを意味する（r）と混同しないように注意する必要があります。
2. ターゲットに流れる情報。これを書き込み情報(W)と呼びます。

情報の主なタイプ

- 読み取り情報（R）
- 書き込み情報（W）
- 読み取り / 書き込み情報（RW）

（R）読み取り情報。これは、システムおよびシステム プロセスに関するステータス情報、つまりシステムによって生成される情報です。

一般的な例は次のとおりです。進行中のコールに関するステータス、ネットワーク ステータス、会議のステータスなど。すべてのステータス情報は階層で構成され、プロセスの変化に応じて継続的にシステムによって更新されるデータベースを構成します。

（W）書き込み情報。これは、アクションを開始するためユーザ / 制御アプリケーションが提供するコマンド情報です。

一般的な例は次のとおりです。コール発信、音量調整、コール切断のシステムへの指示など。

コマンドの後には、通常、特定のアクションが実行される方法を指定する一連のパラメータが続きます。

（RW）読み取り / 書き込み情報。これは、システム設定を定義するコンフィギュレーション情報です。この情報は、ユーザ / 制御アプリケーションで提供と読み取りの両方が可能です。一般的な例は次のとおりです。デフォルト コール レート、シリアル ポートのボー レート、さまざまな機能のイネーブル / ディセーブルの切り替えなど。

コンフィギュレーション情報はすべて階層で構成され、システム設定のデータベースを構成します。ただし、コンフィギュレーション情報については、データベースのデータをユーザ / 制御アプリケーションによってのみ更新できます。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

XPath または SimplePath を使用したアドレス指定

ステータスおよびコンフィギュレーション情報の階層構造でのアドレス指定に、シスコでは簡略 XML パス言語（XPath）および SimplePath という独自の表記（XACLI 使用時のみ使用可能）をサポートします。

これにより、ユーザ / 制御アプリケーションはデータの 1 つの要素（特定のコールのコール レートなど）から、階層のより大きな部分（特定のコールの情報すべてなど）まで、すべてをアドレス指定できます。

XPath の使用方法

1 番目のネットワーク上の 1 番目の DNS サーバ アドレスのアドレス指定：

各レベルはスラッシュ（「/」）で区切ります。項目番号は、次のように要素名の後の括弧内に追加されます。

- Network[1]/DNS Server[1]/Address

例：

```
xConfiguration Network[1]/DNS Server[1]/Address
*c xConfiguration Network 1 DNS Server 1
Address: “test”
OK
```

SimplePath の使用方法

1 番目のネットワーク上の 1 番目の DNS サーバ アドレスのアドレス指定：

レベルおよび項目番号の両方は、次のようにスペースで区切られます。

- Network 1 DNS Server 1 Address

例：

```
xConfiguration Network 1 DNS Server 1 Address
*c xConfiguration Network 1 DNS Server 1
Address: “test”
OK
```

フィードバック

フィードバックは、変更が発生するたびに、シスコのシステムがユーザ / 制御アプリケーションにアクティブに最新のステータスおよびコンフィギュレーション情報を返す非常に強力な機能です。

ユーザ / 制御アプリケーションはステータスおよびコンフィギュレーション階層のどの部分を監視するかを XPath を使用して指定できます。それにより、ユーザ / 制御アプリケーションでは、ターゲット システムから受信する情報量を、特定のアプリケーション用の対象としたい部分だけに制限できます。また、システムを接続するリンクの負荷が軽減されます。

フィードバックは XACLI（RS 232/Telnet/SSH）および TXAS（HTTP/HTTPS）の両方で同時にサポートされます。

システムはコンフィギュレーションを表示するとき SimplePath を使用します。

XPath および SimplePath については後ほどマニュアルのこのセクションで詳しく説明します。

情報の構造化と、XPath および SimplePath によるアドレス指定を組み合わせることにより、検索機能やコンフィギュレーションの複数インスタンスの設定といった強力な機能を形成します。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

コーデックへの接続

XACLI へのアクセス

XACLI は Telnet および SSH によって LAN インターフェイス経由で、または COM ポートと呼ばれるシリアル インターフェイス コネクタにシリアル ケーブルを接続することにより COM ポート経由でアクセスできます。

COM ポート（RS-232）は、コーデックの C シリーズの背面にある D-sub コネクタ（9 ピン、メス）です。コネクタ i は *Camera Control* というテキストがマークされています。

ポートは DCE（データ通信機器）として設定されます。COM ポート（RS-232）は、38400 ボー、8 データ ビット、パリティなし、および 1 ストップ ビットに工場からデフォルト設定されます。このポートは、データ ポートと呼ばれることもあります。

Telnet/SSH ログイン

Telnet はデフォルトでディセーブルです。これは次のコンフィギュレーション コマンドで変更できます。xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: On/Off

- `xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: On`

Telnet/SSH ログイン

- ユーザ名は `admin` です。
- デフォルトのパスワードはブランクです。

シリアル ポート ログイン

シリアル ポートはデフォルトでパスワードによって保護されています。パスワード保護は設定できます。

- ユーザ名は `admin` です。
- デフォルトのパスワードはブランクです。

シリアル ポートのコンフィギュレーション

シリアル ポートのボー レートおよびパスワード保護を設定できます。

ボー レートのコンフィギュレーション コマンドは、次のとおりです。

xConfiguration SerialPort BaudRate: <9600/19200/38400/57600/115200>

- `xConfiguration SerialPort BaudRate: 38400`

ログインに必要なコンフィギュレーション コマンド：

xConfiguration SerialPort LoginRequired: <On/Off>

- `xConfiguration SerialPort LoginRequired: On`

リブート

ボー レートおよびパスワード保護に対する変更を有効にするには、システムをリブートする必要があります。

注：システム ブートのとき、ブート メッセージのボー レートは、コーデックのアプリケーションで設定したボー レートに関係なく、38400 になります。

ハードウェアおよびケーブル接続（RS-232）

RS-232 のピン割り当ては右側の表で定義されています。DTE（データ端末装置）は、シリアル通信が可能な PC またはその他のデバイスの場合があることを確認します。

ケーブル。RS-232 ポートと DTE の間では、ストレート ケーブルを使用する必要があります。下側の表に、コーデック C シリーズを RS-232 経由で PC に接続する場合の推奨ケーブル配線方式を示します。

DTR および RTS は無視されます。RI は使用しませんが、DSR、CD および CTS は常にアサートされます。

トラブルシューティング（RS-232）

PC/ 端末とコーデックのデータ ポートの間で通信を確立できない場合、次の点をチェックします。

1. シリアル ケーブルがストレート 9 ピン - 9 ピン ケーブルであることを確認します。
2. PC/ 端末の RS-232 シリアル ポートのコンフィギュレーションが RS-232 ポートのコンフィギュレーションと一致していることを確認します。
3. PC/ 端末の RS-232 シリアル ポートが正常に動作していることを、別の PC/ 端末にバックツーバックで接続して確認し、両方向に文字を送信します。

COM ポート（RS-232）

ピン	*信号名*	*方向*
1	キャリア検知、CD	DCE から
2	データ受信、RXD	DCE から
3	データ送信、TXD	DCE へ
4	データ ターミナル レディ、DTR	DCE から
5	信号 GND	
6	データ セット レディ、DSR	DCE から
7	送信準備、RTS	DCE へ
8	クリア ツー センド、CTS	DCE から
9	リング インジケータ、RI	DCE から

ケーブル接続（RS-232）DCE <-> PC

DCE 9 ピン	*方向*	*PC DTE、9 ピン*
1 CD	—>	1 CD
2 RD	—>	2 RD
3 TD	<—	3 TD
4 DTR	<—	4 DTR
5 GND	<—>	5 GND
6 DSR	—>	6 DSR
7 RTS	<—	7 RTS
8 CTS	—>	8 CTS
9 RI	—>	9 RI

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

値のタイプおよびフォーマット

システムは、次の値のタイプをサポートします。

- 整数値
- リテラル値
- 文字列値

文字列にはさらにフォーマットと長さを指定する規則を定義できます。整数の入力は、有効範囲に制限がある場合があります。

値のタイプのフォーマット
整数値：<x..y>
整数入力の有効範囲を定義します。x = 最小値、y = 最大値。
<1..100>
リテラル値：<X/Y/../Z>
特定のコンフィギュレーションで使用可能な値を定義します。
<On/Off/Auto>
文字列値：<S: x, y>
このコンフィギュレーションの有効な入力が、最短 x 文字、最長 y 文字の文字列であることを定義します。
<S: 0, 49>

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

ユーザ コマンド

? または help を RS 232/Telnet/SSH を使用して Cisco TelePresence システム コーデック C シリーズへ接続した後に入力することで、システムはサポートされているすべての root コマンドを示します。

Bye

bye コマンドは、コマンドライン インターフェイスを終了します。

Echo <on/off>

エコーが On に設定されている場合、テキストをコマンドライン インターフェイスに入力するとき、キー入力内容が表示されます。

エコーが Off に設定されている場合、テキストをコマンドライン インターフェイスに入力するとき、ユーザ入力は表示されません。

その他のコマンド

他のユーザ コマンドは続くページに記載されています。

```
?

- User Commands -

help        xconfiguration     xfeedback      xgetxml        xhistory
xstatus     xevent             xpreferences   xcommand       systemtools
bye         log                echo

OK
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

コマンドの主要なタイプ

XACLI は API エンジンによってサポートされる情報のタイプを反映する 3 種類の主要なタイプのコマンドに分割されます。

主要なタイプは次のとおりです。

- コンフィギュレーション タイプのコマンド
- ステータス タイプのコマンド
- コマンド タイプのコマンド

コンフィギュレーション タイプのコマンド

コンフィギュレーション タイプのコマンドは、システム設定を定義します。コンフィギュレーション タイプのコマンドは、ユーザによって提供されるか、読み取られます。

例：デフォルト コール レート、シリアル ポートのボーレート、さまざまな機能のイネーブル / ディセーブルの設定など。

コンフィギュレーション コマンドは階層で構成され、システム設定のデータベースを構成します。

サポートされているコンフィギュレーション タイプのコマンド：

- xConfiguration

コマンド タイプのコマンド

コマンド タイプのコマンドは、アクションを実行するようにシステムに指示します。コマンド タイプのコマンドは、ユーザによって提供されます。

例：コールを発信するようシステムに指示する、特定のサイトにフロアを割り当てる、コールを切断するなど。

コマンド タイプのコマンドの後には、通常、特定のアクションが実行される方法を指定する一連のパラメータが続きます。

サポートされているコマンド タイプのコマンド：

- xCommand

ステータス タイプのコマンド

ステータス タイプのコマンドは、システムおよびシステム プロセスに関する情報を返します。ステータス タイプのコマンドは、ユーザによって読み込まれます。

例：進行中のコール、ネットワーク ステータス、会議のステータスなどに関するシステムで生成された情報。

すべてのステータス情報は階層で構成され、常にシステムによって更新されてシステムおよび処理の変更を反映するデータベースを構成します。

サポートされるステータス タイプのコマンド

- xStatus
- xHistory

特別なコマンド

上記のコマンド セットに加えて、XACLI は次の特別なコマンドのセットをサポートします。

フィードバック タイプのコマンド

xFeedback コマンドは、コンフィギュレーションおよびステータス階層のどの部分を監視するか指定するために使用されます。フィードバックは指定された RS 232/Telnet/SSH セッションだけで実行されます。マルチセッションでコーデックに接続する場合、各セッションはフィードバックを個別に定義できます。

これについては、xfeedback で詳しく参照できます。

- xFeedback
- xEvent

プリファレンス タイプのコマンド

xPreferences のコマンドは RS 232/Telnet/SSH セッションのさまざまな優先順位を設定するために使用されます。各セッションはプリファレンスを個別に定義できます。重要：このコマンドには XACLI の出力のフォーマットを定義するさまざまな設定があります。このため、コントロール システムで使用されるパーサーに合わせた設定を定義することが重要です。XACLI はコーデック C シリーズからのデータの解析が非常に簡単になるよう設計されています。

これについては、xpreferences で詳しく参照できます。

- xPreferences

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration について

xConfiguration タイプのコマンドはシステム設定を定義し、ユーザによって提供されるか、読み取られます。xConfigurations コマンドは、階層的なツリー構造に編成されています。

xConfiguration コマンド内でアクセス可能な最上位コンフィギュレーション要素の概要を取得するには、? または help を xConfiguration コマンドの後に次のように入力します。

- `xConfiguration ?`
- `xConfiguration help`

対応する値スペースとサポートされているすべての xConfiguration コマンドの概要を取得するには、?? を xConfiguration コマンドの後に次のように入力します。

- `xConfiguration ??`

xConfiguration コマンドを発行するとき、コマンドは 3 つの部分で構成されます。

1. コマンドのタイプ：xConfiguration
2. パス：アドレス表現、コロンで終了
3. 値：値のタイプ

例：**xConfiguration Audio Input HDMI 1 Mode: On**

```
xConfiguration ?

- User Configurations -
 Audio                  H323                   RTP                    SystemUnit
 Cameras                Network                Security               Time
 Conference             NetworkServices        SerialPort             UserInterface
 Experimental           Phonebook              SIP                    Video
 FacilityService        Provisioning           Standby

OK
```

```
xConfiguration ??

*? xConfiguration Audio Microphones Mute Enabled: <True/InCallOnly>

*? xConfiguration Audio Volume: <0..100>

*? xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume: <0..100>

*? xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone: <Marbles/IceCrystals/Polaris/Alert/Discreet/
Fantasy/Jazz/Nordic/Echo/Rhythmic>

*? xConfiguration Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode: <Off/On>

*? xConfiguration Cameras PowerLine Frequency: <Auto/50Hz/60Hz>

*? xConfiguration Cameras Camera [1..1] Brightness Mode: <Auto/Manual>

*? xConfiguration Cameras Camera [1..1] Brightness Level: <1..31>

*? xConfiguration Cameras Camera [1..1] Whitebalance Mode: <Auto/Manual>
.
.
.
OK
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration の動作

xConfiguration タイプのコマンドはシステム設定を定義し、ユーザによって提供されるか、読み取られます。

結果パラメータのリターン

3 種類の操作を xConfiguration で実行できます。

コンフィギュレーション ヘルプ

- コンフィギュレーションの値スペースが返されます。

コンフィギュレーション読み取り

- *c は読み取りクエリーの結果を返す場合に使用されます。

コンフィギュレーション書き込み

- コンフィギュレーションの設定（書き込み）のリターン結果パラメータなし。
- パスによって定義された設定にこの値を書き込みます。

xConfiguration ヘルプ

システム設定のヘルプを利用するために、ヘルプ クエリーを使用できます。パスを入力し、？ または help を続けます。

- `xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery ?`
  パスによって定義された設定に関する情報を返します。
- `xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery help`
  同上。

xConfiguration ヘルプの例：

xConfiguration のヘルプを表示するには、? または help をコンフィギュレーション パス（アドレス表現）の後に次のように入力します。

xConfiguration <address expression> ?

```
xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery ?
*? xConfiguration H323 Profile [1..1] Gatekeeper Discovery: <Manual/Auto>

OK
```

xConfiguration 読み取り

値を読み取るときは、コンフィギュレーション読み取りを使用します。詳細レベルはパスによって次のように定義されます。

- `xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery`
  パスによって定義された設定の現在の値を返します。

xConfiguration 読み取りの例：

システムからコンフィギュレーションを読み込むには、パス（アドレス表現）に続けて root コマンド（xConfiguration）を次のように入力します。

xConfiguration <address expression>

```
xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery
*c xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery: Manual
** end

OK
```

xConfiguration 書き込み

システム設定を定義するとき、コンフィギュレーション書き込みを使用します。構造が右側の例で説明されています。

- `xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery: Auto`
  パスによって定義された設定にこの値を書き込みます。

xConfiguration 書き込みの例：

コマンドを発行するには、有効なパス（アドレス表現）に続けて root コマンド（xConfiguration）を入力します。次のように、値が追加される前に、パスがコロンで終了される必要があります。

xConfiguration <address expression>: <value>

```
xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery: Auto
** end

OK
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand について

xCommand タイプのコマンドはアクションを実行するようにシステムに指示します。xCommand タイプのコマンドは、ユーザによって提供されます。

サポートされる xCommand タイプのコマンドの概要を知るには、? または help を xCommand の後に入力します。

- xCommand ?
- xCommand help

対応する値スペースとサポートされているすべての xCommand コマンドの概要を取得するには、?? を xCommand の後に入力します。

- xCommand ??

コマンドと ? または help を入力するとき、使用可能なパラメータのリストが表示されます。必須パラメータはパラメータ名の後ろの (r) によって識別されます。

```
xCommand ?

- User Commands -

 Audio                Camera               FarEndControl        Preset
 Bookings             Conference           HttpFeedback         Provisioning
 Boot                 Dial                 Key                  Security
 Call                 DTMFSend             Message              Standby
 CallLog              Experimental         Phonebook            SystemUnit
 CamCtrlPip           FacilityService      Presentation         Video

OK
```

```
xCommand ??

xCommand Audio Microphones Mute
xCommand Audio Microphones Unmute
xCommand Audio Sound Play
    Sound(r): <Busy/CallWaiting/Dial/KeyTone/Ringing/SpecialInfo/TelephoneCall/VideoCall>
    Loop: <On/Off>
xCommand Audio Sound Stop
xCommand Bookings List
    Days: <1..365>
    DayOffset: <0..365>
    Limit: <1..65534>
    Offset: <0..65534>
xCommand Bookings Clear
xCommand Boot
    Action: <Restart/Shutdown>
.
.
.
OK
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand 動作

xCommand タイプのコマンドは、特定のアクションを実行するようにシステムに指示するために使用されます。

結果パラメータのリターン

次の操作は xCommand で実行できます。

コマンドのヘルプ

- 値スペース付きで戻り値のリストが返されます。

コマンド書き込み

- *r は書き込みコマンドの結果を返す場合に使用されます。

xCommand のヘルプ

設定のヘルプを利用するために、ヘルプ クエリーを使用できます。パスを入力し、？ または help を続けます。

- `xCommand Dial ?`
  一連の戻り値を返します。右側の例を参照してください。
- `xCommand Dial help`
  同上。

xCommand ヘルプの例

xCommand のヘルプを表示するには、? または help をコマンド パス（アドレス表現）の後に次のように入力します。

xCommand <address expression> ?

```
xCommand Dial ?
xCommand Dial
    Number(r): <S: 0, 255>
    Protocol: <H323/Sip>
    CallRate: <64..6000>
    CallType: <Audio/Video>
    BookingId: <S: 0, 255>

OK
```

xCommand 書き込み

コマンドを実行すると、システムは、一連の戻り値を返します。構造が右側の例で説明されています。

- `xCommand Dial Number: 12345`
  コマンドを実行し応答を提供します。右側の例を参照してください。

応答は、デフォルトで標準 XACLI ステータス フォーマットと同じ形式になっています。XML ステータス フォーマットもサポートされます。

xPreferences セクションで、XML に関する詳細を参照できます。

xCommand 書き込みの例

必須パラメータだけの番号をダイヤルする場合：

```
xCommand Dial Number: 95458458

OK
*r DialResult (status=OK):
    CallId: 2
    ConferenceId: 1
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus コマンドについて

xStatus タイプのコマンドは、システムおよびシステム プロセスに関する情報を返します。ステータス タイプのコマンドは、ユーザによって読み込まれます。

すべてのステータス情報は階層で構成され、常にシステムによって更新されてシステムおよび処理の変更を反映するデータベースを構成します。

サポートされる xStatus タイプのコマンドの概要を知るには、? または help を xStatus の後に次のように入力します。

- `xStatus ?`
- `xStatus help`

結果パラメータのリターン

次の操作は xStatus コマンドで実行できます。

xStatus 読み取り

- *s は xStatus 読み取りクエリーの結果を返す場合に使用されます。

```
xStatus ?

- Status -

 Audio                  H323                   Security
 Call[...]              HttpFeedback[1..4]     SIP
 Camera                 MediaChannels          Standby
 Conference             Network                SystemUnit
 Diagnostics            Preset[1..15]          Time
 Experimental           Provisioning           Video

OK
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

ステータス情報の照会

xStatus タイプのコマンドは、システムおよびシステム プロセスに関する情報を返します。すべての情報や一部の情報を照会できます。

ステータス情報をアドレス指定するにはアドレス表現に続けて xStatus コマンドを入力します (XPath または SimplePath)。

情報のすべてまたは一部をアドレス指定する xStatus 読み取りコマンドを設定できます。右側の例を参照してください。

xStatus を使用したステータス情報のアドレッシング

システムからステータスを読み込むには、次のように root コマンド (xStatus) に続けてパス (アドレス表現) を入力します。

xStatus <address expression>

例 1 : すべての進行中のコール情報を照会:

```
xStatus Call
*s Call 3 Status: Connected
*s Call 3 Direction: Outgoing
*s Call 3 Protocol: “sip”
*s Call 3 RemoteNumber: “firstname.lastname@company.com”
*s Call 3 CallbackNumber: “sip:firstname.lastname@company.com”
*s Call 3 DisplayName: “firstname.lastname@company.com”
*s Call 3 TransmitCallRate: 768
*s Call 3 ReceiveCallRate: 768
*s Call 3 FacilityServiceId: 0
*s Call 3 Encryption Type: “None”
*s Call 3 PlacedOnHold: False
*s Call 3 Duration: 9
** end

OK
```

例 2 : コールのプロトコルを照会:

```
xStatus Call Protocol
*s Call 3 Protocol: “sip”

OK
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xHistory について

xHistory タイプのコマンドは、システムで発生したことについての情報を返します。履歴タイプのコマンドは、ユーザによって読み込まれます。

すべての履歴情報は階層で構成され、常にシステムによって更新されてシステムおよび処理の変更を反映するデータベースを構成します。

サポートされる xHistory タイプのコマンドの概要を知るには、? または help を xHistory の後に入力します。

- xHistory ?
- xHistory help

結果パラメータのリターン

xHistory ログ

- *h は xHistory ログ照会の結果を返す場合に使用されます

```
xHistory ?

- History -

   CallLogs

OK
```

xHistory CallLogs の例

```
xhistory
*h xHistory CallLogs Call 1 CallId: 13
*h xHistory CallLogs Call 1 Protocol: “h323”
*h xHistory CallLogs Call 1 Direction: Incoming
*h xHistory CallLogs Call 1 CallType: Video
*h xHistory CallLogs Call 1 RemoteNumber: "h323:firstname.lastname.office@company.com"
*h xHistory CallLogs Call 1 CallbackNumber: "h323:firstname.lastname.office@company.com"
*h xHistory CallLogs Call 1 DisplayName: "firstname.lastname@company.com"
*h xHistory CallLogs Call 1 CallRate: 768
*h xHistory CallLogs Call 1 DisconnectCauseValue: 2
*h xHistory CallLogs Call 1 DisconnectCause: “Normal”
*h xHistory CallLogs Call 1 DisconnectCauseType: RemoteDisconnenct
*h xHistory CallLogs Call 1 DisconnectCauseCode: 16
*h xHistory CallLogs Call 1 DisconnectCauseOrigin: Q850
*h xHistory CallLogs Call 1 StartTime: “2012/02/14 11:04:14”
*h xHistory CallLogs Call 1 Duration: 184
*h xHistory CallLogs Call 1 Encryption: “None”
*h xHistory CallLogs Call 1 BookingId: “”
...
*h xHistory CallLogs Recent 6 CounterMissed: 0
*h xHistory CallLogs Recent 6 Counter: 3
...
*h xHistory CallLogs Outgoing 30 Counter: 1
...
*h xHistory CallLogs Received 40 Counter: 1
...
*h xHistory CallLogs Missed 50 Counter: 2
*h xHistory CallLogs Missed 50 NewCounter: 0
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xEvent について

xEvent タイプのコマンドは xFeedback で使用可能なイベントに関する情報を返します。

サポートされるイベントの概要を取得するには、? または help を xEvent の後に入力します。

- xEvent ?
- xEvent ??
- xEvent help

結果パラメータのリターン

- *es は xEvent クエリーの結果を返す場合に使用されます

```
xEvent ?
  *es Event Audio
  *es Event Bookings
  *es Event CallDisconnect
  *es Event CallLog
  *es Event CallSuccessful
  *es Event CallTransfer
  *es Event CameraPresetActivated
  *es Event CameraPresetListUpdated
  *es Event FeccReceive
  *es Event IncomingCallIndication
  *es Event KeyDown
  *es Event KeyRelease
  *es Event KeyRepeat
  *es Event OutgoingCallIndication
  *es Event SStringReceive
  *es Event Shutdown
  *es Event SoftwareUpgrade
  *es Event Standby
  *es Event WebSnapshotTaken
  ** end
OK
```

xEvent IncomingCallIndication の例

```
xevent IncomingCallIndication ??
*es Event IncomingCallIndication RemoteURI
*es Event IncomingCallIndication DisplayNameValue
*es Event IncomingCallIndication CallId
** end

OK
xFeedback register Event/IncomingCallIndication
** end

OK
*e IncomingCallIndication RemoteURI: “h323:559216” DisplayNameValue: “firstname.lastname@company.
com” CallId: 11
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xFeedback について

xFeedback はコーデック C シリーズの強力な機能です。これにより、変更がシステムで発生した場合に、自分が必要とする通知をサブスクライブできます。

- これは、誰かがシステムの名前を変更したというようなコンフィギュレーションの変更の場合があります。
- リモート コントロールからのキー押下などのイベントである場合もあります。
- または、コールの接続または接続解除など、システムの状態の変更である場合もあります。

xFeedback コマンドは、設定およびステータス階層のどの部分を監視するかを指定するために使用され、指定された RS 232/Telnet/SSH だけで発行されます。

マルチセッションでコーデックに接続する場合、各セッションはフィードバックを個別に定義できます。

注意：制御システムが処理できるよりも多くのフィードバック情報を提供する可能性があるため、すべてのステータス変更を登録することは推奨されていません。

```
xFeedback ?

xFeedback help:
  xFeedback register XPathExpression[1..255]       - Registers feedback on expression
XPathExpression.
  xFeedback deregister XPathExpression[1..255]     - Deregisters feedback if registered on
XPathExpression.
  xFeedback deregisterall                          - Deregister all expressions.
  xFeedback list                                   - Generate list of currently registered
XPathExpressions.
  xFeedback help                                   - Display this help text.
```

xFeedback の例

```
xFeedback register Status/Audio
** end

OK
xFeedback register Event
** end

OK
xFeedback list
Event
Status/Audio
** end

OK
xFeedback deregister Event
** end

OK
xFeedback list
Status/Audio
** end

OK
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xPreferences について

xPreferences のコマンドは RS 232/Telnet/SSH セッションのさまざまな優先順位を設定するために使用されます。

各セッションはプリファレンスを個別に定義できます。

重要： このコマンドには XACLI の出力のフォーマットを定義するさまざまな設定があります。このため、コントロール システムで使用されるパーサーに合わせた設定を定義することが重要です。XACLI はコーデック C シリーズからのデータの解析が非常に簡単になるよう設計されています。

サポートされる xPreferences コマンドと値スペースの概要を得るには、? または help を xPreference の後に入力します。

- `xPreferences ?`
- `xPreferences help`

```
xPreferences ?

xpreferences usage:
 xpreferences outputmode <terminal/xml>
 xpreferences apiversion <1/2>
OK
```

xPreferences の出力モード

- 端末：回線ベースの制御システムで使用するための回線ベース XACLI 出力
- XML：XML を理解する制御システムで使用するための純粋な XML 出力。**注意：** このモードは、ソフトウェア バージョン 1 では試験版と見なす必要があります。この形式は、次のバージョンで変更されます。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

SystemTools コマンド

systemtools コマンドは、コーデックの管理コントロールに使用され、コマンドライン インターフェイスでだけ使用できます。

必須パラメータ (山カッコ) : <text>
オプション パラメータ (角カッコ) : [text]

サポートされるコマンドの概要を知るには、「systemtools ?」と入力します。

例:

```
systemtools ?
authorizedkeys
license
network
pairing
passwd
pki
rootsettings
securitysettings
securitystatus

OK
```

コマンドの使用方法を知るには、コマンドの末尾に疑問符を追加します。

例:

```
systemtools authorizedkeys ?
usage: authorizedkeys <add <method> <key>
[comment] | delete <id> | list | clear>

OK
```

systemtools authorizedkeys add <method> <key> [comment]

コーデックに ssh キーを追加します。

method(r): 使用される暗号化方式。ssh-rsa または ssh dss。

key(r): ssh 公開キー ファイルに存在する公開キー。

comment : オプションのコメント。

systemtools authorizedkeys delete <id>

id で指定されているコーデックの特定の ssh のキーを削除します。

id(r): 許可キー リストに表示される ID。

systemtools authorizedkeys list

コーデックの ssh キーをリストします。

systemtools authorizedkeys clear

コーデックのすべての ssh キーを消去します。

systemtools license list

コーデックのすべてのライセンスを示します。

systemtools license show <name>

ライセンス ファイルの内容を示します。名前によって定義されます。

name(r): ライセンス ファイルの名前。

systemtools network ping <hostname>

Network デバッグ コマンド。

hostname(r): ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network traceroute <hostname>

Network デバッグ コマンド。

hostname(r): ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network netstat

Network デバッグ コマンド。

systemtools pairing unpair

Cisco TelePresence タッチ コントローラとのアソシエーションを削除します。

systemtools passwd

ログイン ユーザのパスワードを変更します。

systemtools pki list

存在する場合、コーデックの証明書および CA リストを一覧表示します。

systemtools pki delete <cert-name>

存在する場合、コーデックの証明書および CA リストを削除します。

cert-name(r): 証明書の名前。

systemtools rootsettings get

systemtools rootsetting の現在の設定を取得します。

systemtools rootsettings on [password]

root ユーザの可用性を制御するコマンド。

すべてのポートで root ユーザにシステムへのアクセスをイネーブルにします。

password: root ユーザのパスワード。

systemtools rootsettings serial [password]

root ユーザの可用性を制御するコマンド。

シリアル ポートで root ユーザにシステムへのアクセスをイネーブルにします。

password: root ユーザのパスワード。

systemtools rootsettings off

root ユーザの可用性を制御するコマンド。

すべてのポートで root ユーザにシステムへのアクセスをディセーブルにします。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

systemtools rootsettings never

root ユーザの可用性を制御するコマンド。

注意： root ユーザは完全にオフになります。

root ユーザを回復するには、出荷時デフォルトへのリセットが必要です。xCommand SystemUnit FactoryReset を参照してください。

systemtools securitysettings jitc

セキュリティ要件をセットアップして JITC に合わせます。

コーデック上でパスワードおよび PIN ポリシーの強制を設定します。

systemtools securitysettings isjitc

現在の設定が JTIC に従っているか確認します。

systemtools securitysettings default

セキュリティ設定をデフォルトに戻します。

systemtools securitysettings ask

個別のコンフィギュレーションを照会します。このコマンドを発行する場合、各ポリシーが個別に表示されます。

- 現在の値を保持するには、Enter キーを押します。
- 特定のポリシーを変更するには、番号を入力して Enter キーを押します。
- デフォルト値「0」は、制限がないことを示します。

Max failed login attempts [0]?
- ユーザ設定が非アクティブになるログイン失敗回数。

Suspend-time after max failed login attempts (minutes) [0]?
- 最大ログイン試行失敗回数を超えた後、ユーザが非アクティブに設定される分数。

Max simultaneous sessions total [0]?
- Web に同時にログインできるユーザの最大数および ssh/Telnet に同時にログインできるユーザの最大数。

Max simultaneous sessions per user [0]?
- ユーザ 1 人あたりの最大同時セッション数。

Number of passwords to remember [0]?
- 新しいパスワードが異ならなければならない、以前のパスワードの数。

Number of PINs to remember [0]?
- 新しい PIN が異ならなければならない、以前の PIN の数。

Maximum time between password renewals (days) [0]?
- ユーザが更新時間内にパスワードを変更していない場合、ユーザは非アクティブに設定されます。

Minimum time between password renewals (hours) [0]?
- ユーザはこの制限内でパスワードを一度だけ変更できます。

Maximum time between PIN renewals (days) [0]?
- ユーザが更新時間内に PIN を変更していない場合、ユーザは非アクティブに設定されます。

Minimum time between PIN renewals (hours) [0]?
- ユーザはこの制限内で PIN を一度だけ変更できます。

Maximum time between logins (days) [0]?
- ユーザがこの制限内にログインしていない場合、ユーザは非アクティブに設定されます。

Max consecutive equal digits in PINs [0]?
- PIN の同一数字の最大連続桁数。

Minimum number of digits in PINs [0]?
- PIN の桁の最小数。

Maximum number of digits in PINs [0]?
- PIN の桁の最大数。

Max consecutive identical characters in passwords [0]?
- パスワードの同一文字の最大連続数。

Minimum number of characters in passwords [0]?
- パスワードの最小文字数。

Maxmum number of characters in passwords [0]?
- パスワードの最大文字数。

Minimum number of lower-case letters in passwords [0]?
- パスワードの小文字の最小数。

Minimum number of upper-case letters in passwords [0]?
- パスワードの大文字の最小数。

Minimum number of numerical characters in passwords [0]?
- パスワードの数値文字の最小数。

Minimum number of special characters in passwords [0]?
- パスワードの特殊文字の最小数。

Minimum number of character groups in passwords [0]?
- パスワードの文字グループの最小数。

Minimum number of character changed from previous password [0]?
- 以前のパスワードから変更する文字の最小数。

systemtools securitystatus

コーデックのセキュリティ ステータスを表示します

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

XML API サービス

TXAS は、(transceiving) XML 形式で符号化された情報を送受信するためにシスコの装置によって提供されるサービスです。

API は転送メカニズムとして HTTP を使用し、通常の Web ポート (80) に接続します。TXAS は URL が要求を一意に識別するベアボーン HTTP 要求でアクセスできます。

ベアボーン HTTP/HTTPS アクセス

ベアボーン HTTP モードは、特定の要求を識別するために一意の URL を使用します。HTTP 本文の内容は XML ドキュメント(またはその一部)です。

ベアボーン HTTP アクセスは、GET 要求内のクエリー文字列 (URL の「?」以降) で引数を渡すことによって、またはフォーム データの POST の「application/x-www-form-urlencoded」コンテンツ タイプ メソッドを使用して (各引数は、名前「=」および値で始まり、パラメータは「&」(および opt NL) で区切られます) 実行されます。

getxml

/getxml 要求は、要求に渡されるロケーション パラメータに基づいて XML ドキュメントを返します。表現と一致する要素 (またはドキュメント全体) が返されます。

不正な XPath の表現に対しては、<XPathError> 要素を持つ <Fault> 要素が返されます。

```
getxml
REQUEST:
  /getxml
PARAM:
  location = XPath expression
```

formputxml

これは、POST 内で最も役立ちます (GET の URL の文字数制限 255 を拡張するため)。これはコンフィギュレーションまたはコマンド ドキュメントを投稿して、コンフィギュレーションを設定するか、コマンドを発行します。

getxml と同様に、1 つの単一パラメータで符号化されたデータ URL フォーム データを持ちます。ドキュメントのコンテンツ タイプは「application/x-www-form-urlencoded」タイプで、本文がそれに応じて符号化されている必要があります (たとえば、最初の行は xmldoc=<then the document> になります)。

```
formputxml
REQUEST:
  /formputxml
PARAM:
  xmldoc   = “an XML document of Configuration, Directory or Command”
```

putxml

putxml は formputxml+ と同様に、BODY 全体を引数 (つまり xmldoc パラメータの内容) として使用します。現在のところチェックはありませんが、コンテンツ タイプは「text/xml」または「application/xml」(または「text/plain」) である必要があります。(障害の原因となる application/x-www-form-url 符号化を除きます)。

```
putxml
REQUEST:
  /putxml
PARAM:
  HTTP BODY as argument
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

3 章

xConfiguration コマンドの説明

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration コマンドの説明

続くページに、xConfiguration コマンドの完全なリストを示します。例では、デフォルト値または値の例のいずれかを示します。

マニュアルの更新バージョンがないか、定期的に Web サイトにアクセスすることを推奨します。
▶ http://www.cisco.com/go/telepresence/docs を参照してください。

オーディオ コンフィギュレーション 32
xConfiguration Audio Microphones Mute Enabled 32
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode 32
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone 32
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume 32
xConfiguration Audio Volume 32

カメラのコンフィギュレーション 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Backlight 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Brightness Level 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Brightness Mode 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] DHCP 34
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Flip 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Focus Mode 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Gamma Level 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Gamma Mode 33
xConfiguration Cameras Camera [1..1] IrSensor 34
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Mirror 34
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Whitebalance Level 34
xConfiguration Cameras Camera [1..1] Whitebalance Mode 34
xConfiguration Cameras PowerLine Frequency 33

会議の設定 35
xConfiguration Conference [1..1] AutoAnswer Delay 35
xConfiguration Conference [1..1] AutoAnswer Mode 35
xConfiguration Conference [1..1] AutoAnswer Mute 35
xConfiguration Conference [1..1] DefaultCall Protocol 36
xConfiguration Conference [1..1] DefaultCall Rate 36
xConfiguration Conference [1..1] DoNotDisturb Mode 35
xConfiguration Conference [1..1] Encryption Mode 36
xConfiguration Conference [1..1] FarEndControl Mode 35
xConfiguration Conference [1..1] FarEndControl SignalCapability 35
xConfiguration Conference [1..1] IncomingMultisiteCall Mode 37
xConfiguration Conference [1..1] MaxReceiveCallRate 36
xConfiguration Conference [1..1] MaxTransmitCallRate 36
xConfiguration Conference [1..1] MicUnmuteOnDisconnect Mode 35
xConfiguration Conference [1..1] Multipoint Mode 37
xConfiguration Conference [1..1] PacketLossResilience Mode 37
xConfiguration Conference [1..1] Presentation Policy 37
xConfiguration Conference [1..1] VideoBandwidth MainChannel Weight 36
xConfiguration Conference [1..1] VideoBandwidth Mode 36
xConfiguration Conference [1..1] VideoBandwidth PresentationChannel Weight 36

FacilityService コンフィギュレーション 37
xConfiguration FacilityService Service [1..5] CallType 38
xConfiguration FacilityService Service [1..5] Name 37
xConfiguration FacilityService Service [1..5] Number 38
xConfiguration FacilityService Service [1..5] Type 37

H323 コンフィギュレーション 38
xConfiguration H323 NAT Address 38
xConfiguration H323 NAT Mode 38
xConfiguration H323 Profile [1..1] Authentication LoginName 39
xConfiguration H323 Profile [1..1] Authentication Mode 38
xConfiguration H323 Profile [1..1] Authentication Password 39
xConfiguration H323 Profile [1..1] CallSetup Mode 39
xConfiguration H323 Profile [1..1] Gatekeeper Address 39
xConfiguration H323 Profile [1..1] Gatekeeper Discovery 39
xConfiguration H323 Profile [1..1] H323Alias E164 39
xConfiguration H323 Profile [1..1] H323Alias ID 39
xConfiguration H323 Profile [1..1] PortAllocation 40

ネットワーク コンフィギュレーション 40
xConfiguration Network [1..1] Assignment 40
xConfiguration Network [1..1] DNS Domain Name 40
xConfiguration Network [1..1] DNS Server [1..5] Address 40
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X AnonymousIdentity 43
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Md5 43
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Peap 43
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Tls 43
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Ttls 43
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Identity 43
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Mode 42

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Password ... 43
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X TlsVerify ... 42
xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X UseClientCertificate ... 43
xConfiguration Network [1..1] IPStack ... 40
xConfiguration Network [1..1] IPv4 Address ... 41
xConfiguration Network [1..1] IPv4 Gateway ... 41
xConfiguration Network [1..1] IPv4 SubnetMask ... 41
xConfiguration Network [1..1] IPv6 Address ... 41
xConfiguration Network [1..1] IPv6 Assignment ... 41
xConfiguration Network [1..1] IPv6 DHCPOptions ... 41
xConfiguration Network [1..1] IPv6 Gateway ... 41
xConfiguration Network [1..1] MTU ... 44
xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Audio ... 42
xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Data ... 42
xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Signalling ... 42
xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Video ... 42
xConfiguration Network [1..1] QoS Mode ... 41
xConfiguration Network [1..1] RemoteAccess Allow ... 44
xConfiguration Network [1..1] Speed ... 44
xConfiguration Network [1..1] TrafficControl Mode ... 44
xConfiguration Network [1..1] VLAN Voice Mode ... 44
xConfiguration Network [1..1] VLAN Voice VlanId ... 44

NetworkServices コンフィギュレーション ... 45
xConfiguration NetworkServices H323 Mode ... 45
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode ... 45
xConfiguration NetworkServices HTTPS Mode ... 45
xConfiguration NetworkServices HTTPS OCSP Mode ... 46
xConfiguration NetworkServices HTTPS OCSP URL ... 46
xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate ... 45
xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate ... 45
xConfiguration NetworkServices MultiWay Address ... 45
xConfiguration NetworkServices MultiWay Protocol ... 45
xConfiguration NetworkServices NTP Address ... 46
xConfiguration NetworkServices NTP Mode ... 46
xConfiguration NetworkServices SIP Mode ... 46
xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName ... 46
xConfiguration NetworkServices SNMP Host [1..3] Address ... 46
xConfiguration NetworkServices SNMP Mode ... 46
xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact ... 47
xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation ... 47
xConfiguration NetworkServices SSH AllowPublicKey ... 47
xConfiguration NetworkServices SSH Mode ... 47
xConfiguration NetworkServices Telnet Mode ... 47

電話帳のコンフィギュレーション ... 48
xConfiguration Phonebook Server [1..1] ID ... 48
xConfiguration Phonebook Server [1..1] Type ... 48
xConfiguration Phonebook Server [1..1] URL ... 48

プロビジョニングのコンフィギュレーション ... 48
xConfiguration Provisioning Connectivity ... 48
xConfiguration Provisioning ExternalManager Address ... 49
xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain ... 49
xConfiguration Provisioning ExternalManager Path ... 49
xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol ... 49
xConfiguration Provisioning HttpMethod ... 49
xConfiguration Provisioning LoginName ... 48
xConfiguration Provisioning Mode ... 48
xConfiguration Provisioning Password ... 49

RTP コンフィギュレーション ... 50
xConfiguration RTP Ports Range Start ... 50
xConfiguration RTP Ports Range Stop ... 50

セキュリティ コンフィギュレーション ... 50
xConfiguration Security Audit Logging Mode ... 51
xConfiguration Security Audit OnError Action ... 50
xConfiguration Security Audit Server Address ... 50
xConfiguration Security Audit Server Port ... 50
xConfiguration Security Session InactivityTimeout ... 51
xConfiguration Security Session ShowLastLogon ... 51

SerialPort コンフィギュレーション ... 51
xConfiguration SerialPort BaudRate ... 51
xConfiguration SerialPort LoginRequired ... 51
xConfiguration SerialPort Mode ... 51

SIP コンフィギュレーション ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] LoginName ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] Password ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] DefaultTransport ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] DisplayName ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] Outbound ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Address ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Discovery ... 53
xConfiguration SIP Profile [1..1] TlsVerify ... 52
xConfiguration SIP Profile [1..1] Type ... 53
xConfiguration SIP Profile [1..1] URI ... 52

スタンバイ コンフィギュレーション ... 53
xConfiguration Standby BootAction ... 53
xConfiguration Standby Control ... 53

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Standby Delay 53
xConfiguration Standby StandbyAction 53
xConfiguration Standby WakeupAction 54

SystemUnit コンフィギュレーション 54
xConfiguration SystemUnit CallLogging Mode 55
xConfiguration SystemUnit ContactInfo Type 54
xConfiguration SystemUnit IrSensor 55
xConfiguration SystemUnit MenuLanguage 54
xConfiguration SystemUnit Name 54
xConfiguration SystemUnit Type 55

時間のコンフィギュレーション 55
xConfiguration Time DateFormat 56
xConfiguration Time TimeFormat 56
xConfiguration Time Zone 55

UserInterface のコンフィギュレーション 56
xConfiguration UserInterface TouchPanel DefaultPanel 56

ビデオ コンフィギュレーション 57
xConfiguration Video AllowWebSnapshots 61
xConfiguration Video DefaultPresentationSource 58
xConfiguration Video Input DVI [2] Type 59
xConfiguration Video Input Source [1..2] CameraControl CameraId 57
xConfiguration Video Input Source [1..2] CameraControl Mode 57
xConfiguration Video Input Source [1..2] Name 57
xConfiguration Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Profile 58
xConfiguration Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Threshold60fps 58
xConfiguration Video Input Source [1..2] Quality 58
xConfiguration Video Input Source [1..2] Type 57
xConfiguration Video Input Source [1] Connector 57
xConfiguration Video Input Source [2] Connector 57
xConfiguration Video Layout LocalLayoutFamily 59
xConfiguration Video Layout RemoteLayoutFamily 60
xConfiguration Video Layout ScaleToFrame 59
xConfiguration Video Layout ScaleToFrameThreshold 59
xConfiguration Video Layout Scaling 59
xConfiguration Video MainVideoSource 60
xConfiguration Video Monitors 60
xConfiguration Video OSD AutoSelectPresentationSource 60
xConfiguration Video OSD InputMethod Cyrillic 61
xConfiguration Video OSD InputMethod InputLanguage 61
xConfiguration Video OSD LoginRequired 61
xConfiguration Video OSD Mode 60
xConfiguration Video OSD MyContactsExpanded 60
xConfiguration Video OSD Output 61
xConfiguration Video OSD TodaysBookings 60
xConfiguration Video Output HDMI [1..2] CEC Mode 61
xConfiguration Video Output HDMI [1..2] MonitorRole 62
xConfiguration Video Output HDMI [1..2] OverscanLevel 62
xConfiguration Video Output HDMI [1, 2] Resolution 62
xConfiguration Video Selfview 62
xConfiguration Video SelfviewPosition 59
xConfiguration Video WallPaper 62

試験的コンフィギュレーション 63

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

オーディオ コンフィギュレーション

xConfiguration Audio Microphones Mute Enabled

音声ミュートが許可されるかどうかを決定します。デフォルトの値は True です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <True/InCallOnly>

True: 音声ミュートが使用可能になります。

InCallOnly: 音声ミュートはデバイスがコール中の場合にだけ使用できます。アイドル状態のときは、マイクロフォンをミュートにできません。これは、外部の電話サービス / 音声システムがコーデックで接続され、コーデックがコール中でないときに使用可能にする場合に便利です。InCallOnly に設定されたとき、音声システムが誤ってミュートにされることを防止できます。

例:
```
xConfiguration Audio Microphones Mute Enabled: True
```

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode

システムは、リモート コントロール キーが押されるたびに音を生成できます。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <On/Off>

On: リモコンのキーを押したときにサウンド インジケータが発生します。

Off: リモコンのキー トーンはオフになります。

例:
```
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode: Off
```

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone

着信コールの呼び出し音を選択します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <Marbles/IceCrystals/Polaris/Alert/Discreet/Fantasy/Jazz/Nordic/Echo/Rhythmic>

範囲: 呼出音のトーンをリストから選択します。

例:
```
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone: Jazz
```

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume

着信コールの呼出音の音量を設定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <0..100>

範囲: 値は 5 刻みで 0 ～ 100 (-34.5 dB ～ 15 dB) になります。音量 0 = オフです。

例:
```
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume: 50
```

xConfiguration Audio Volume

拡声器ボリュームを設定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <0..100>

範囲: 値は 5 刻みで 0 ～ 100 (-34.5 dB ～ 15 dB) になります。値 0 = オフです。

例:
```
xConfiguration Audio Volume: 70
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

カメラのコンフィギュレーション

xConfiguration Cameras PowerLine Frequency

電線周波数ちらつき防止をサポートするカメラ、つまり PrecisionHD 1080p のカメラに適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/50Hz/60Hz>

Auto: 自動に設定するとカメラの電源周波数自動検出がイネーブルになります。

50Hz: 50 Hz に設定。

60Hz: 60 Hz に設定。

例:
```
xConfiguration Cameras PowerLine Frequency: Auto
```

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Backlight

このコンフィギュレーションは、逆光補正をオンまたはオフにします。逆光補正は、部屋の中で人物の背後に強い光がある場合に役立ちます。逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えてしまいます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: カメラの逆光補正をオンにします。

Off: カメラの逆光補正をオフにします。

例:
```
xConfiguration Cameras Camera 1 Backlight: Off
```

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Brightness Mode

カメラの明るさモードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

Auto: カメラの明るさはシステムによって自動的に設定されます。

Manual: カメラの明るさの手動制御をイネーブルにします。つまり、明るさレベルの設定レベルをカメラに使用します。

例:
```
xConfiguration Cameras Camera 1 Brightness Mode: Auto
```

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Brightness Level

明るさレベルを設定します。注 : カメラの明るさモードを Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..31>

範囲: 1 ～ 31 の値を選択します。

例:
```
xConfiguration Cameras Camera 1 Brightness Level: 1
```

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Flip

フリップ モード（垂直フリップ）を使用すると、画像を上下反転できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/On/Off>

Auto: カメラの上下が逆に置かれると、画像は自動的に上下反転します。この設定は、マウント方向を自動的に検出するカメラだけに有効です。

On: イネーブルにすると画面のビデオが反転します。この設定は、カメラが上下逆にマウントされたが、マウント方向を自動的に検出できない場合に使用されます。

Off: ビデオを通常の方法で画面に表示します。

例:
```
xConfiguration Cameras Camera 1 Flip: Off
```

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Focus Mode

カメラの焦点モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

*Auto:*コールが接続されると、カメラはオートフォーカスになります。カメラの移動（パン、傾斜、ズーム）後も同様です。システムは、オートフォーカスを数秒間だけ使用して正しい焦点に設定します。その後、オートフォーカスはカメラが焦点調整し続けることを防ぐためオフになります。

Manual: オートフォーカスをオフにし、カメラの焦点を手動で調整します。

例:
```
xConfiguration Cameras Camera 1 Focus Mode: Auto
```

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Gamma Mode

ガンマ モードをサポートするカメラに適用されます。ガンマ モード設定により、ガンマ修正がイネーブルになります。ガンマは、画像ピクセルとモニタの明るさとの間の関係を表します。Cisco TelePresence の PrecisionHD 720p カメラはガンマ モードをサポートします。PrecisionHD 1080p カメラではガンマ モードはサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

Auto: 自動がデフォルトであり、推奨設定です。

Manual: 厳しい光条件では、モードをマニュアルにスイッチして、ガンマ レベルの設定によって使用するガンマ テーブルを明示的に指定する場合もあります。

例:
```
xConfiguration Cameras Camera 1 Gamma Mode: Auto
```

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Gamma Level

ガンマ レベルを設定して、使用するガンマ修正テーブルを選択できます。この設定は、明るさの設定を変更しても十分な結果が得られない困難な光条件に役立つことがあります。注:カメラのガンマ モードを Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..7>

範囲: 0 ～ 7 の値を選択します。

例:
```
xConfiguration Cameras Camera 1 Gamma Level: 0
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Cameras Camera [1..1] IrSensor

IR センサー LED はカメラの前面にあり、IR センサーがリモート コントローラからアクティブ化されたとき明滅します。コーデック C シリーズと PrecisionHD カメラの両方が IR センサーを持っており、そのうち同時に 1 つだけをイネーブルにする必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

*On：*カメラの IR センサーをイネーブルにします。

*Off：*カメラの IR センサーをディセーブルにします。

例：xConfiguration Cameras Camera 1 IrSensor: On

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Mirror

ミラー モード（水平反転）を使用して画面の画像を反転できます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Auto/On/Off>

*Auto：*カメラの上下が逆に置かれると、画像は自動的に左右反転します。カメラを上下逆に取り付けることができ、上下逆に取り付けられたことを自動検出できるカメラにこの設定を使用します。

*On：*セルフビューをミラー モードで表示します。つまり、セルフビューは反転され、セルフビューは鏡の中の自分を見るような感覚になります。

*Off：*セルフビューを通常モードで表示します。つまり、セルフビューは他の人から自分を見るような感覚になります。

例：xConfiguration Cameras Camera 1 Mirror: Off

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Whitebalance Mode

カメラのホワイトバランス モードを設定します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Auto/Manual>

*Auto：*カメラはカメラのビューによって常にホワイトバランスを調整します。

*Manual：*カメラのホワイトバランスの手動制御をイネーブルにします。つまり、ホワイトバランス レベルの設定レベルをカメラに使用します。

例：xConfiguration Cameras Camera 1 Whitebalance Mode: Auto

xConfiguration Cameras Camera [1..1] Whitebalance Level

ホワイトバランス レベルを設定します。注：カメラのホワイトバランス モードを Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<1..16>

*範囲：*1 ～ 16 の値を選択します。

例：xConfiguration Cameras Camera 1 Whitebalance Level: 1

xConfiguration Cameras Camera [1..1] DHCP

DHCP をサポートするカメラに適用されます。Cisco TelePresence の PrecsisionHD 1080p カメラは DHCP をサポートします。カメラが LAN に接続されている必要があります。設定されている場合、このコマンドはデイジー チェーン接続されたカメラの SW アップグレードのサポートをイネーブルにします。これはカメラの DHCP 機能をイネーブルにし、MAC および IP アドレス検索を強制起動します。カメラが LAN 接続されなくなった場合、DHCP をリセットするようにしてください。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

*On：*カメラで DHCP をイネーブルにします。カメラは自動的に再起動されます。リブート後に DHCP が開始し、IP アドレスが取得されます。結果を知るにはコマンド「xStatus Camera」を実行します。

*Off：*カメラの DHCP をディセーブルにします。注：この設定は、カメラが LAN に接続されていないときに適用する必要があります。

例：xConfiguration Cameras Camera 1 DHCP: Off

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

会議の設定

xConfiguration Conference [1..1] AutoAnswer Mode

AutoAnswer モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: AutoAnswer をイネーブルにして、システムを着信コールすべてに自動応答させます。

Off: 着信コールは、リモート コントロールで OK キーまたはグリーンの Call キーを押すことによって手動応答する必要があります。

例:
```
xConfiguration Conference 1 AutoAnswer Mode: Off
```

xConfiguration Conference [1..1] AutoAnswer Mute

着信コールが自動的に応答する場合にマイクロフォンをミュートするかどうか決定します。注:AutoAnswer モードがイネーブルになっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: 着信コールは自動的に応答されるときミュートにされます。

Off: 着信コールはミュートにされません。

例:
```
xConfiguration Conference 1 AutoAnswer Mute: Off
```

xConfiguration Conference [1..1] AutoAnswer Delay

システムによって自動的に応答される前に着信コールがどれくらい待つ必要があるかを定義します (秒単位)。注:AutoAnswer モードがイネーブルになっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <0..50>

範囲: 0 ～ 50 秒の値を選択します。

例:
```
xConfiguration Conference 1 AutoAnswer Delay: 0
```

xConfiguration Conference [1..1] MicUnmuteOnDisconnect Mode

すべてのコールが切断されたとき、マイクロフォンが自動的にミュート解除されるかどうかを決定します。会議室またはその他の共有リソースでは、このようにして次のユーザのためにシステムを準備する場合があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: コールが切断された後にマイクロフォンのミュートを解除します。

Off: ミュートにされている場合、コールが切断された後もマイクロフォンをミュートにされたままにします。

例:
```
xConfiguration Conference 1 MicUnmuteOnDisconnect Mode: On
```

xConfiguration Conference [1..1] DoNotDisturb Mode

着信コールのアラートの必要があるかどうか決定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <On/Off/Timed>

On: すべての着信コールは拒否され、不在履歴として登録されます。発信者はビジー信号を受信します。割り込み不可がオンになっていることを示すメッセージがタッチ コントローラまたはメイン ディスプレイに表示されます。サイレント モード中に受信されたコールは、不在履歴として表示されます。

Off: 着信コールは通常どおり機能します。

Timed: API を使用してサイレント モードのオンとオフを切り替える場合、このオプションを選択します (xCommand Conference DoNotDisturb Activate と xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate)。

例:
```
xConfiguration DoNotDisturb Mode: Off
```

xConfiguration Conference [1..1] FarEndControl Mode

リモート側 (遠端) にこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、傾斜、ズーム) を許可するかどうか決定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: 遠端にこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、傾斜、ズーム) を許可します。カメラの制御とビデオ ソースの選択は、こちら側でも通常どおり可能です。

Off: 遠端はこちら側のビデオ ソースの選択やローカル カメラの制御 (パン、傾斜、ズーム) を許可されません。

例:
```
xConfiguration Conference 1 FarEndControl Mode: On
```

xConfiguration Conference [1..1] FarEndControl SignalCapability

遠端制御 (H.224) 信号機能モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: 遠端制御信号機能をイネーブルにします。

Off: 遠端制御信号機能をディセーブルにします。

例:
```
xConfiguration Conference 1 FarEndControl SignalCapability: On
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Conference [1..1] Encryption Mode

会議の暗号化モードを設定します。会議が開始されると、数秒間画面に鍵と「Encryption On」または「Encryption Off」という文字が表示されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <BestEffort/On/Off>

BestEffort: システムは暗号化を可能な限り使用します。

> ポイント ツー ポイント コール: 遠端システムで暗号化 (AES-128) がサポートされている場合、コールは暗号化されます。そうでない場合は、コールは暗号化なしで送信されます。

> MultiSite コール: 暗号化されたマルチサイト会議を実現するためには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合は、会議は暗号化されません。

On: システムは、暗号化されたコールだけを許可します。

Off: システムは、暗号化を使用しません。

例:
```
xConfiguration Conference 1 Encryption Mode: BestEffort
```

xConfiguration Conference [1..1] DefaultCall Protocol

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルトのコール プロトコルを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <H323/Sip>

H.323: コールが H.323 コールとして設定されるようにするには、[H.323] を選択します。

Sip: コールが SIP コールとして設定されるようにするには、[SIP] を選択します。

例:
```
xConfiguration Conference 1 DefaultCall Protocol: H323
```

xConfiguration Conference [1..1] DefaultCall Rate

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルトのコール レートを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..6000>

範囲: 64 ～ 6000 kbps の値を選択します。

例:
```
xConfiguration Conference 1 DefaultCall Rate: 768
```

xConfiguration Conference [1..1] MaxTransmitCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大送信コール レートを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..6000>

範囲: 64 ～ 6000 kbps の値を選択します。

例:
```
xConfiguration Conference 1 MaxTransmitCallRate: 6000
```

xConfiguration Conference [1..1] MaxReceiveCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大受信コール レートを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <64..6000>

範囲: 64 ～ 6000 kbps の値を選択します。

例:
```
xConfiguration Conference 1 MaxReceiveCallRate: 6000
```

xConfiguration Conference [1..1] VideoBandwidth Mode

会議のビデオ帯域幅モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Dynamic/Static>

Dynamic: ビデオ チャネルの使用可能な送信帯域幅が現在アクティブなチャネル間で分散されます。プレゼンテーションが存在しない場合は、メイン ビデオ チャネルがプレゼンテーション チャネルの帯域幅を使用します。

Static: 使用可能な送信帯域幅が、アクティブでない場合でも各ビデオ チャネルに割り当てられます。

例:
```
xConfiguration Conference 1 VideoBandwidth Mode: Dynamic
```

xConfiguration Conference [1..1] VideoBandwidth MainChannel Weight

使用可能な送信ビデオ帯域幅が「MainChannel Weight」および「PresentationChannel Weight」に従ってメイン チャネルおよびプレゼンテーション チャネルに配信されます。メイン チャネルの重みが 2 で、プレゼンテーション チャネルの重みが 1 の場合、メイン チャネルはプレゼンテーション チャネルの 2 倍の帯域幅を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..10>

範囲: 1 ～ 10。

例:
```
xConfiguration Conference 1 VideoBandwidth MainChannel Weight: 5
```

xConfiguration Conference [1..1] VideoBandwidth PresentationChannel Weight

使用可能な送信ビデオ帯域幅が「MainChannel Weight」および「PresentationChannel Weight」に従ってメイン チャネルおよびプレゼンテーション チャネルに配信されます。メイン チャネルの重みが 2 で、プレゼンテーション チャネルの重みが 1 の場合、メイン チャネルはプレゼンテーション チャネルの 2 倍の帯域幅を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..10>

範囲: 1 ～ 10。

例:
```
xConfiguration Conference 1 VideoBandwidth PresentationChannel Weight: 5
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Conference [1..1] PacketLossResilience Mode

パケットロス復元モードを設定します。このコンフィギュレーションは、設定された後に開始されたコールにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: パケットロス復元をイネーブルにします。

Off: パケットロス復元をディセーブルにします。

例: xConfiguration Conference 1 PacketLossResilience Mode: On

xConfiguration Conference [1..1] Presentation Policy

プレゼンテーション サービスの実行方法を制御します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <LocalRemote/LocalOnly>

LocalRemote: プレゼンテーションはローカルで表示され、リモート側に送信されます。

LocalOnly: プレゼンテーションはローカルにだけ表示されます。

例: xConfiguration Conference 1 Presentation Policy: LocalRemote

xConfiguration Conference [1..1] Multipoint Mode

ビデオ システムが、マルチポイント ビデオ会議を処理する方法を定義します。MultiWay では、多数の関係者による会議を設定可能にする外部 Multipoint Control Unit (MCU) がビデオ ネットワークに含まれていることが必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/MultiWay/Auto>

Off: マルチポイント会議は許可されません。

MultiWay: マルチポイント会議に MultiWay を使用します。マルチポイント モードは、MultiWay サービスが使用できない場合、つまりサーバ アドレスが NetworkServices MultiWay Address 設定に指定されていない場合、自動的に Off に設定されます。

Auto: MultiWay サービスが利用できる場合、マルチポイント会議に MultiWay を使用します。そうでない場合、マルチポイント モードは自動的に Off に設定されます。

例: xConfiguration Conference 1 Multipoint Mode: Auto

xConfiguration Conference [1..1] IncomingMultisiteCall Mode

すでにコール中または会議中の場合に着信コールを許可するかどうかを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Allow/Deny>

Allow: すでに通話している間に、誰かが電話をかけてきた場合、通知されます。着信コールを受け入れるかどうかは任意です。進行中のコールは、着信コールに応答するときに保留になる場合があります。またはコールをマージすることができます (MultiSite または MultiWay のサポートが必要です)。

Deny: すでに通話中の場合、着信コールは拒否されます。着信コールについては通知されません。ただし、コール履歴リストの不在履歴として表示されます。

例: xConfiguration Conference 1 IncomingMultisiteCall Mode: Allow

FacilityService コンフィギュレーション

xConfiguration FacilityService Service [1..5] Type

最大 5 種類のファシリティ サービスを同時にサポートできます。この設定で、どのようなサービスかを選択できます。

ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。

タッチ コントローラでは、タイプが Helpdesk の FacilityService Service 1 だけを使用できます。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Other/Concierge/Helpdesk/Emergency/Security/Catering/Transportation>

Other: その他のオプションでカバーされないサービスには、このオプションを選択します。

Concierge: コンシェルジュ サービスには、このオプションを選択します。

Helpdesk: ヘルプ デスク サービスには、このオプションを選択します。

Emergency: 緊急サービスには、このオプションを選択します。

Security: セキュリティ サービスには、このオプションを選択します。

Catering: ケータリング サービスには、このオプションを選択します。

Transportation: 転送サービスには、このオプションを選択します。

例: xConfiguration FacilityService Service 1 Type: Helpdesk

xConfiguration FacilityService Service [1..5] Name

各ファシリティ サービスの名前を設定します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。

ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。

タッチ コントローラでは FacilityService Service 1 だけを使用でき、その名前がファシリティ サービス コール ボタンに使用されます。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: xConfiguration FacilityService Service 1 Name: ""

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration FacilityService Service [1..5] Number

各ファシリティ サービスの番号を設定します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。

ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。

タッチ コントローラではFacilityService Service 1 だけを使用できます。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration FacilityService Service 1 Number: ""
```

xConfiguration FacilityService Service [1..5] CallType

各ファシリティ サービスにコール タイプを設定します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。

ファシリティ サービスは、FacilityService サービス名と FacilityService サービス番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。

タッチ コントローラではFacilityService Service 1 だけを使用できます。ファシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Video/Audio>

Video: ビデオ コールには、このオプションを選択します。

Audio: オーディオ コールには、このオプションを選択します。

例:
```
xConfiguration FacilityService Service 1 CallType: Video
```

H323 コンフィギュレーション

xConfiguration H323 NAT Mode

ファイアウォール トラバーサル テクノロジーは、ファイアウォール障壁を通過するセキュアなパスを作成し、外部のビデオ会議システムに接続されたときの音声 / ビデオ データの正しい交換を可能にします (IP トラフィックが NAT ルータを通過する場合)。注:NAT は、ゲートキーパーとの組み合わせでは動作しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/On/Off>

Auto: シグナリング内で「NAT アドレス」と実 IP アドレスのどちらを使用する必要があるか、システムが決定します。これは、LAN 上のエンド ポイント、または WAN のエンド ポイントにコールを発信できるようにするためです。

On: システムは、Q.931 および H.245 内に独自の IP アドレスの代わりに設定された「NAT アドレス」をシグナリングします。NAT サーバ アドレスは、スタートアップ メニューで「My IP Address: 10.0.2.1」と表示されます。

Off: システムは、実際の IP アドレスをシグナリングします。

例:
```
xConfiguration H323 NAT Mode: Off
```

xConfiguration H323 NAT Address

NAT サポートのルータに外部 / グローバル IP アドレスを入力します。ルータに送信されるパケットは、システムにルーティングされます。

ルータで、次のポートはシステムの IP アドレスにルーティングする必要があります。

* Port 1720
* Port 5555-5574
* Port 2326-2485

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration H323 NAT Address: ""
```

xConfiguration H323 Profile [1..1] Authentication Mode

H.323 プロファイルの認証モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: H.323 Gatekeeper Authentication Mode が On に設定され、認証が必要なことを .323 ゲートキーパーがに示している場合、システムはゲートキーパーに対して自身の認証を試行します。注 : コーデックとゲートキーパーの両方で認証ログイン名と認証パスワードが定義されることが必要です。

Off: H.323 Gatekeeper Authentication Mode が Off に設定されている場合、システムは H.323 ゲートキーパーに対して自身の認証を試行せず、通常の登録を試行します。

例:
```
xConfiguration H323 Profile 1 Authentication Mode: Off
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration H323 Profile [1..1] Authentication LoginName

システムは、H.323 ゲートキーパーに認証ログイン名と認証パスワードを送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。注:H.323 Gatekeeper Authentication Mode がイネーブルになっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: `xConfiguration H323 Profile 1 Authentication LoginName: ""`

xConfiguration H323 Profile [1..1] Authentication Password

システムは、H.323 ゲートキーパーに認証ログイン名と認証パスワードを送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。注:H.323 Gatekeeper Authentication Mode がイネーブルになっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: `xConfiguration H323 Profile 1 Authentication Password:`

xConfiguration H323 Profile [1..1] CallSetup Mode

H.323 コール コンフィギュレーション モードは、H323 を確立するときにゲートキーパーまたはダイレクト コールを使用するかどうかを定義します。

注 : ダイレクト H.323 コールは、H.323 コール コンフィギュレーション モードがゲートキーパーに設定されていても行うことができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Direct/Gatekeeper>

Direct: H323 コール発信のためダイヤリングするときに IP アドレスを使用する必要があります。

Gatekeeper: システムは、H.323 コールを発信するためにゲートキーパーを使用します。このオプションを選択する場合は H323 Profile Gatekeeper Address および H323 Profile Gatekeeper Discovery 設定も行う必要があります。

例: `xConfiguration H323 Profile 1 CallSetup Mode: Gatekeeper`

xConfiguration H323 Profile [1..1] Gatekeeper Discovery

システムが H.323 ゲートキーパーに登録する方法を決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Manual/Auto>

Manual: システムは、ゲートキーパーの IP アドレスで指定された特定のゲートキーパーを使用します。

Auto: システムは自動的に使用可能なゲートキーパーに登録しようとします。あるゲートキーパーが 30 秒以内にコーデックから送信された要求に応答すると、この特定のゲートキーパーが使用されます。これには、ゲートキーパーが自動検出モードにあることも必要です。ゲートキーパーが応答しなかった場合は、H.323 コールにゲートキーパーを使用しないため、IP アドレスを手動で指定する必要があります。

例: `xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Discovery: Manual`

xConfiguration H323 Profile [1..1] Gatekeeper Address

ゲートキーパーの IP アドレスを入力します。注 : H.323 Call Setup Mode を Gatekeeper に設定し、Gatekeeper Discovery を Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 有効な IP アドレス フォーマットだけが受け入れられます。文字を含む IP アドレス (192.a.2.0) や無効な IP アドレス (192.0.1234.0) は拒否されます。

例: `xConfiguration H323 Profile 1 Gatekeeper Address: "192.0.2.0"`

xConfiguration H323 Profile [1..1] H323Alias E164

H.323 エイリアス E.164 はH.323 ゲートキーパーに設定された番号計画に従ってシステムのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号と同じであり、アクセス コードと結合される場合もあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 30>

フォーマット: 最大 30 文字のコンパクト文字列。使用できる文字は、0 ～ 9、*、# です。

例: `xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias E164: "90550092"`

xConfiguration H323 Profile [1..1] H323Alias ID

H.323 ゲートキーパー システムのアドレス指定に使用され、コール リストに表示される H.323 エイリアス ID を指定します。例 : "firstname.surname@company.com", "My H.323 Alias ID"

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 49>

フォーマット: 最大 49 文字の文字列

例: `xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID: "firstname.surname@company.com"`

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration H323 Profile [1..1] PortAllocation

H.323 ポート割り当ての設定は、H.323 コール シグナリングに使用する H.245 ポート番号に影響を与えます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Dynamic/Static>

Dynamic: TCP 接続を開くとき、使用するポートをシステムが割り当てます。このようにする理由は、後続のコールで同じポートを使用しないようにするためです。一部のファイアウォールはこれを攻撃の徴候と見なします。Dynamic を選択した場合、使用される H.323 ポートは 11000 ～ 20999 です。20999 に達すると 11000 から再スタートされます。RTP および RTCP メディア データの場合、システムは範囲 2326 ～ 2487 の UDP ポートを使用しています。各メディア チャネルは 2 つの隣接ポートを使用しています。つまり RTP と RTCP がそれぞれ 2330 と 2331 を使用しています。ポートは、特定の範囲内でシステムによって自動的に選択されます。ファイアウォール管理者は、どのポートがいつ使用されるかを推定しようとしてはなりません。指示された範囲内の割り当てスキーマがより詳細な通知なしで変更されることがあるからです。

Static: スタティックに設定すると、スタティックに事前定義された範囲 [5555-6555] 内でポート指定されます。

例:
```
xConfiguration H323 Profile 1 PortAllocation: Dynamic
```

ネットワーク コンフィギュレーション

xConfiguration Network [1..1] Assignment

DHCP とスタティック IPv4 割り当てのどちらを使用するかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Static/DHCP>

Static: ネットワークの割り当てをスタティックに設定し、スタティック IPv4 設定 (IP アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ) を実行します。

DHCP: システム アドレスは DHCP サーバによって自動的に割り当てられます。

例:
```
xConfiguration Network 1 Assignment: DHCP
```

xConfiguration Network [1..1] DNS Domain Name

DNS ドメイン名は非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例：DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyVideoSystem」の場合、DNS ルックアップ「MyVideoSystem.company.com」になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Network 1 DNS Domain Name: ""
```

xConfiguration Network [1..1] DNS Server [1..5] Address

DNS サーバのネットワーク アドレスを定義します。最大で 5 つのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーに問い合わせます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Network 1 DNS Server 1 Address: ""
```

xConfiguration Network [1..1] IPStack

システムがサポートするインターネット プロトコルを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <IPv4/IPv6>

IPv4: IP バージョン 4 がサポートされます。

IPv6: IP バージョン 6 がサポートされます。IPv4 設定 (IP アドレス、IP サブネット マスク、およびゲートウェイ) はディセーブルになります。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPStack: IPv4
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Network [1..1] IPv4 Address

システムのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを入力します。Network Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IP アドレス フォーマットだけが受け入れられます。文字を含む IP アドレス (192.a.2.0) や無効な IP アドレス (192.0.1234.0) は拒否されます。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPv4 Address: "192.0.2.0"
```

xConfiguration Network [1..1] IPv4 Gateway

IPv4 ネットワーク ゲートウェイを定義します。Network Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字のコンパクト文字列。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.0"
```

xConfiguration Network [1..1] IPv4 SubnetMask

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。Network Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字のコンパクト文字列。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"
```

xConfiguration Network [1..1] IPv6 Address

システムのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを入力します。Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: ホスト名の IPv6 アドレス。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPv6 Address: "ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff"
```

xConfiguration Network [1..1] IPv6 Gateway

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: ホスト名の IPv6 アドレス。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPv6 Gateway: "ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff"
```

xConfiguration Network [1..1] IPv6 Assignment

Autoconf とスタティック IPv6 割り当てのどちらを使用するかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Static/Autoconf>

Static: ネットワークの割り当てをスタティックに設定し、スタティック IPv6 設定 (IP アドレスおよびゲートウェイ) を実行します。

Autoconf: IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。詳細については RFC4862 を参照してください。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPv6 Assignment: Autoconf
```

xConfiguration Network [1..1] IPv6 DHCPOptions

DHCPv6 サーバからの DHCP オプション セットを取得します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバからの取得をイネーブルにします。

Off: IPv6 Assignment が Static に設定されている場合、オフに設定します。

例:
```
xConfiguration Network 1 IPv6 Gateway: On
```

xConfiguration Network [1..1] QoS Mode

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオおよびデータの優先順位を操作するメソッドです。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ(ディファレンシエーテッド サービス) は、ネットワーク トラフィックの分類と管理を行い、現代的 IP ネットワークに QoS を提供するためにシンプルかつスケーラブルで粗粒度のメカニズムを指定する、コンピュータ ネットワーキング アーキテクチャです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/Diffserv>

Off: QoS メソッドは使用されません。

Diffserv: QoS Mode を Diffserv に設定する場合、Diffserv のサブ メニュー設定 (音声、データ、シグナリングおよびビデオ) を実行する必要があります。

例:
```
xConfiguration Network 1 QoS Mode: diffserv
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Audio

Diffserv Audio は、IP ネットワーク内で音声パケットに持たせる優先順位を定義します。パケットの優先順位を、0 ～ 63 の範囲で入力します。数字が大きいほど、優先順位は高くなります。これらの優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる場合があります。注：Network QoS Mode を Diffserv に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<0..63>

*Audio：*推奨値は Diffserv Code Point (DSCP) AF41 で、値 34 に等しくなります。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

*範囲：*0 ～ 63 の値を選択します。

例：

```
xConfiguration Network 1 QoS Diffserv Audio: 0
```

xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Data

Diffserv Data は、IP ネットワーク内でデータパケットに持たせる優先順位を定義します。パケットの優先順位を、0 ～ 63 の範囲で入力します。数字が大きいほど、優先順位は高くなります。これらの優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる場合があります。注：Network QoS Mode を Diffserv に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<0..63>

*Data：*推奨値は Diffserv Code Point (DSCP) AF23 で、値 22 に等しくなります。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

*範囲：*0 ～ 63 の値を選択します。

例：

```
xConfiguration Network 1 QoS Diffserv Data: 0
```

xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Signalling

Diffserv Signalling は、IP ネットワーク内でシグナリング パケットに持たせる優先順位を定義します。パケットの優先順位を、0 ～ 63 の範囲で入力します。数字が大きいほど、優先順位は高くなります。これらの優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる場合があります。注：Network QoS Mode を Diffserv に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<0..63>

*Signalling：*推奨値は Diffserv Code Point (DSCP) AF31 で、値 26 に等しくなります。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

*範囲：*0 ～ 63 の値を選択します。

例：

```
xConfiguration Network 1 QoS Diffserv Signalling: 0
```

xConfiguration Network [1..1] QoS Diffserv Video

Diffserv Video は、IP ネットワーク内でビデオ パケットに持たせる優先順位を定義します。パケットの優先順位を、0 ～ 63 の範囲で入力します。数字が大きいほど、優先順位は高くなります。これらの優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる場合があります。注：Network QoS Mode を Diffserv に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<0..63>

*Video：*推奨値は Diffserv Code Point (DSCP) AF41 で、値 34 に等しくなります。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

*範囲：*0 ～ 63 の値を選択します。

例：

```
xConfiguration Network 1 QoS Diffserv Video: 0
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Mode

システムは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される、ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

*On：*802.1X 認証がイネーブルになります。

*Off：*802.1X 認証がディセーブルになります (デフォルト)。

例：

```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X Mode: Off
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X TlsVerify

TLS を使用する場合の、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバ側証明書の検証です。CA リストはビデオ システム / コーデックにアップロードする必要があります。

この設定は、Network [1..1] IEEE8021X Eap Tls がイネーブル (On) の場合にだけ有効です。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Off/On>

*Off：*Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバ側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、コーデックに CA リストがアップロードされていない場合、選択する必要があります。

*On:*On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバ側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバだけが許可されます。

例：

```
xConfiguration xConfiguration Network 1 IEEE8021X TlsVerify: Off
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X UseClientCertificate

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書は、ビデオ システム / コーデックにアップロードされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: Off に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバ側のみ)。

On: On に設定した場合、クライアント (コーデック) はサーバと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X UseClientCertificate: Off
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Identity

802.1X ID は 802.1X 認証に必要なユーザ名です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X Identity: ""
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Password

802.1X パスワードは 802.1X 認証に必要なパスワードです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 32>

フォーマット: 最大 32 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X Password: "***"
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X AnonymousIdentity

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X AnonymousIdentity: ""
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Md5

MD5 (メッセージ ダイジェスト アルゴリズム 5) モードを設定します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: EAP-MD5 プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Off: EAP-MD5 プロトコルはディセーブルになります。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X Eap Md5: On
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Ttls

TTLS (トンネリングされたトランスポート層セキュリティ) モードを設定します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: EAP-TTLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Off: EAP-TTLS プロトコルはディセーブルになります。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X Eap Ttls: On
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Tls

IEEE802.1x 接続用の EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用をイネーブルまたはディセーブルにします。RFC5216 で定義された EAP-TLS プロトコルは最もセキュアな EAP 標準の 1 つと見なされています。LAN クライアントは、クライアント証明書を使用して認証されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: EAP-TLS プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-TLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X Eap Tls: On
```

xConfiguration Network [1..1] IEEE8021X Eap Peap

Peap (保護拡張認証プロトコル) モードを設定します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、シスコと RSA Security により開発されました。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: EAP-PEAP プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Off: EAP-PEAP プロトコルはディセーブルになります。

例:
```
xConfiguration Network 1 IEEE8021X Eap Peap: On
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Network [1..1] MTU

イーサネット MTU（最大伝送単位）を設定します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<576..1500>

*範囲：*576 ～ 1500 バイトの値を選択します。

例：xConfiguration Network 1 MTU: 1500

xConfiguration Network [1..1] Speed

イーサネット リンクの速度を設定します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Auto/10half/10full/100half/100full/1000full>

*Auto：*リンク速度を自動ネゴシエートします。

*10half：*10 Mbps 半二重に強制リンクします。

*10full：*10 Mbps 全二重に強制リンクします。

*100half：*100 Mbps 半二重に強制リンクします。

*100full：*100 Mbps 全二重に強制リンクします。

*1000full：*1 Gbps 全二重に強制リンクします。

例：xConfiguration Network 1 Speed: Auto

xConfiguration Network [1..1] TrafficControl Mode

ネットワーク トラフィック制御モードを設定してビデオ パケットの送信レートの制御方法を決定します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

*On：*ビデオ パケットを最大 20 Mbps で送信します。発信ネットワーク トラフィックのバーストを平滑化するために使用できます。

*Off：*ビデオ パケットをリンク速度で送信します。

例：xConfiguration Network 1 TrafficControl: On

xConfiguration Network [1..1] RemoteAccess Allow

ssh/telnet/HTTP/HTTPS へのアクセスの IP アドレスをフィルタします。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<S: 0, 255>

*フォーマット：*最大 255 文字の文字列、カンマ区切りの IP アドレスまたは IP 範囲。

例：xConfiguration Network 1 RemoteAccess Allow: "192.168.1.231, 192.168.1.182"

xConfiguration Network [1..1] VLAN Voice Mode

VLAN 音声モードを設定します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Auto/Manual/Off>

*Auto：*Cisco Discovery Protocol（CDP）が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN はイネーブルになりません。プロビジョニング モードを CUCM に設定するのに GUI が使用された場合、VLAN 音声モードは自動的に Auto に設定されます。

*Manual：*VLAN ID は、Network VLAN Voice VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって却下されます。

*Off：*VLAN はイネーブルになりません。

例：xConfiguration Network 1 VLAN Voice Mode: Off

xConfiguration Network [1..1] VLAN Voice VlanId

VLAN 音声 ID を設定します。この設定は、VLAN Voice Mode が Manual に設定されている場合にだけ有効になります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<1..4094>

*範囲：*1 ～ 4094 の値を選択します。

例：xConfiguration Network 1 VLAN Voice VlanId: 1

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

NetworkServices コンフィギュレーション

xConfiguration NetworkServices MultiWay Address

Multiway アドレスは Video Communication Server に設定された Conference Factory Alias と等しい必要があります。Multiway ™ 会議により、ビデオ エンドポイントのユーザは既存のコールにサード パーティを追加できます。

Multiway ™ は次の場合に使用できます。

1）既存のコールに他のユーザを追加する必要がある場合。

2）コール中にサード パーティからのコールがあり、既存のコールにその人を含める必要がある場合。

要件：コーデック C20 では TC3.0 (以降)、コーデック C90/C60/C40 では TC4.0 (以降)、EX90/EX60/MX200 では TC4.2 (以降)、MX300 では TC5.0 (以降)、Video Communication Server (VCS) バージョン X5 (以降) および Codian MCU バージョン 3.1 (以降) が実行中である必要があります。Multiway ™ 会議に参加するよう招待されるエンド ポイントは、H.323 コールの場合 H.323 routeToMC ファシリティ メッセージ、SIP コールの場合 SIP REFER メッセージをサポートする必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<S: 0, 255>

フォーマット：最大 255 文字の文字列。

例：

```
xConfiguration NetworkServices MultiWay Address: "h323:multiway@company.com"
```

xConfiguration NetworkServices MultiWay Protocol

Multiway コールに使用するプロトコルを決定します。注：コーデックを再起動する必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Auto/H323/Sip>

Auto：システムが Multiway コールのプロトコルを選択します。

H323：H323 プロトコルが Multiway コールに使用されます。

Sip：SIP プロトコルが Multiway コールに使用されます。

例：

```
xConfiguration NetworkServices MultiWay Protocol: Auto
```

xConfiguration NetworkServices H323 Mode

システムで H.323 コールの発信および受信を可能にするかどうかを決定します。注：コーデックを再起動する必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

On：H.323 コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

Off：H.323 コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

例：

```
xConfiguration NetworkServices H323 Mode: On
```

xConfiguration NetworkServices HTTP Mode

Web ブラウザを使用したシステムへのアクセスを有効または無効にする HTTP モードを設定します。Web インターフェイスは、システム管理、コール転送などの、コール管理、診断およびソフトウェアのアップロードに使用されます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

On：HTTP プロトコルはイネーブルになります。

Off：HTTP プロトコルはディセーブルになります。

例：

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode: On
```

xConfiguration NetworkServices HTTPS Mode

HTTPS は、ユーザのページ要求と Web サーバから返されるページの暗号化と復号化を実行する Web プロトコルです。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

On：HTTPS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Off：HTTPS プロトコルはディセーブルになります。

例：

```
xConfiguration NetworkServices HTTPS Mode: On
```

xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate

システムが外部 HTTPS サーバ (電話帳サーバや外部マネージャなど) に接続すると、このサーバはシステムに対して自身を識別する証明書を示します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

On：サーバ証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されていることを確認するようシステムに要求します。これには、信頼できる CA のリストがシステムに事前にアップロードされている必要があります。

Off：サーバ証明書を確認しません。

例：

```
xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate: Off
```

xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

システムが HTTPS クライアント (Web ブラウザなど) に接続すると、クライアントは自分自身を識別するためにシステムに証明書を提示するように要求されることがあります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

On：信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示するようクライアントに要求します。これには、信頼できる CA のリストがシステムに事前にアップロードされている必要があります。

Off：クライアント証明書を確認しません。

例：

```
xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate: Off
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration NetworkServices HTTPS OCSP Mode

OCSP (Online Certificate Status Protocol) レスポンダ サービスのサポートを定義します。OCSP 機能により、CRL の代わりに OCSP をイネーブルにして、証明書のステータスをチェックできます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/On>

Off: OCSP サポートをディセーブルにします。

On: OCSP サポートをイネーブルにします。

例: xConfiguration NetworkServices HTTPS OCSP Mode: Off

xConfiguration NetworkServices HTTPS OCSP URL

OCSP サーバの URL を指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: xConfiguration NetworkServices HTTPS OCSP URL: "http://ocspserver.company.com:81"

xConfiguration NetworkServices NTP Mode

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、リファレンス タイム サーバにシステムの時刻を同期するために使用されます。タイム サーバは時間の更新のために、以後 24 時間ごとに照会されます。時間は、画面上部に表示されます。システムは、H.235 認証を必要とするゲートキーパーまたはボーダー コントローラに送信されるメッセージのタイムスタンプに時間を使用します。システムは、H.235 認証を必要とするゲートキーパーまたはボーダー コントローラに送信されるメッセージのタイムスタンプに時間を使用します。また、発信履歴、不在着信、および受信コールのタイムスタンプにも使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/Auto/Manual>

Off: システムは NTP サーバを使用しません。

Auto: システムは、ネットワーク上の DHCP サーバから指定されたアドレスによって NTP サーバを使用します。DHCP サーバが使用されない場合、または DHCP サーバが NTP サーバ アドレスをシステムに指定しない場合、システムはユーザが指定した、スタティックに定義された NTP サーバ アドレスを使用します。

Manual: システムは、ユーザが指定したによってスタティックに定義された NTP サーバ アドレスを常に使用します。

例: xConfiguration NetworkServices NTP Mode: Manual

xConfiguration NetworkServices NTP Address

ネットワーク タイム プロトコル サーバのアドレスを定義するために、NTP のアドレスを入力します。このアドレスは、NTP Mode が Manual に設定された場合、または Auto に設定されアドレスが DHCP サーバから提供されない場合に使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: xConfiguration NetworkServices NTP Address: "1.ntp.tandberg.com"

xConfiguration NetworkServices SIP Mode

システムで SIP コールの発信および受信を可能にするかどうかを決定します。注 : コーデックを再起動する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: SIP コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

Off: SIP コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

例: xConfiguration NetworkServices SIP Mode: On

xConfiguration NetworkServices SNMP Mode

ネットワーク管理システムでは、管理上の対応を補償する条件についてネットワーク接続デバイス (ルータ、サーバ、スイッチ、プロジェクタなど) をモニタするために SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) が使用されます。保証の管理上の注意使用されます。SNMP は、システム コンフィギュレーションを説明する管理対象システム変数の形式で管理データを公開します。これらの変数は、その後照会でき (Readonly に設定)、管理アプリケーションによって設定できる場合もあります (ReadWrite に設定)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/ReadOnly/ReadWrite>

Off: SNMP ネットワーク サービスをディセーブルにします。

ReadOnly: SNMP ネットワーク サービスを照会のみイネーブルにします。

ReadWrite: SNMP ネットワーク サービスの照会とコマンドの両方をイネーブルにします。

例: xConfiguration NetworkServices SNMP Mode: ReadWrite

xConfiguration NetworkServices SNMP Host [1..3] Address

最大 3 個の SNMP マネージャのアドレスを入力します。

システムの SNMP エージェント (コーデック内) は、システム ロケーションやシステム接点についてなど、SNMP マネージャ (PC プログラムなど) からの要求に応答します。SNMP トラップはサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: xConfiguration NetworkServices SNMP Host 1 Address: ""

xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName

ネットワーク サービス SNMP コミュニティ名を入力します。SNMP コミュニティ名は SNMP 要求を認証するために使用されます。SNMP 要求は、コーデックの SNMP エージェントから応答を受け取るため、パスワード (大文字と小文字を区別) を持つ必要があります。デフォルトのパスワードは「public」です。Cisco TelePresence 管理スイート (TMS) がある場合、同じ SNMP コミュニティがそこで設定されていることを確認する必要があります。注 : SNMP コミュニティのパスワードは大文字と小文字が区別されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName: "public"

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact

ネットワーク サービス SNMP システム接点の名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact: ""

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation

ネットワーク サービス SNMP システム ロケーションの名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation: ""

xConfiguration NetworkServices SSH Mode

SSH（または Secure Shell）プロトコルは、コーデックとローカル コンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: SSH プロトコルはイネーブルになります（デフォルト）。

Off: SSH プロトコルはディセーブルになります。

例: xConfiguration NetworkServices SSH Mode: On

xConfiguration NetworkServices SSH AllowPublicKey

Secure Shell（SSH）公開キー認証をコーデックへのアクセスに使用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: SSH 公開キーが許可されます。

Off: SSH 公開キーは許可されません。

例: xConfiguration NetworkServices SSH AllowPublicKey: On

xConfiguration NetworkServices Telnet Mode

Telnet は、インターネットまたはローカル エリア ネットワーク（LAN）接続で使用されるネットワーク プロトコルです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: Telnet プロトコルはイネーブルになります。

Off: Telnet プロトコルはディセーブルになります。これが出荷時の設定です。

例: xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: Off

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

電話帳のコンフィギュレーション

xConfiguration Phonebook Server [1..1] ID

外部の電話帳の名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例: xConfiguration Phonebook Server 1 ID: ""

xConfiguration Phonebook Server [1..1] Type

電話帳サーバの種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <VCS/TMS/Callway/CUCM>

VCS: 電話帳が Cisco TelePresence ビデオ コミュニケーション サーバにある場合は、VCS を選択します。

TMS: 電話帳が Cisco TelePresence 管理スイート サーバにある場合は、TMS を選択します。

Callway: 電話帳が Callway サブスクリプション サービスによって提供される場合は、Callway を選択します。詳細については Callway のプロバイダーにお問い合わせください。

CUCM: 電話帳が Cisco Unified Communications Manager にある場合は、CUCM を選択します。

例: xConfiguration Phonebook Server 1 Type: TMS

xConfiguration Phonebook Server [1..1] URL

外部電話帳のサーバ アドレス (URL) を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: xConfiguration Phonebook Server 1 URL: "http://tms.company.com/tms/public/external/phonebook/phonebookservice.asmx"

プロビジョニングのコンフィギュレーション

xConfiguration Provisioning Connectivity

この設定は、プロビジョニング サーバからの内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを、デバイスがどのように検出するか制御します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Internal/External/Auto>

Internal: 内部コンフィギュレーションを要求します。

External: 外部コンフィギュレーションを要求します。

Auto: 内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを自動的に NAPTR クエリーを使用して検出します。NAPTR の応答に「e」フラグがある場合、外部コンフィギュレーションが要求されます。それ以外の場合、内部コンフィギュレーションが要求されます。

例: xConfiguration Provisioning Connectivity: Auto

xConfiguration Provisioning Mode

プロビジョニング システム / 外部マネージャを使用してコーデック (ビデオ システム) を設定できます。これにより、ビデオ会議のネットワーク管理者は複数のビデオ システムを同時に管理することができます。

この設定により、使用するプロビジョニング システムの種類を選択します。プロビジョニングは、オフに切り替えることも可能です。詳細については、プロビジョニング システムのプロバイダー / 担当者にお問い合わせください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Off/TMS/VCS/CallWay/CUCM/Auto>

Off: ビデオ システムはプロビジョニング システムによって設定されません。

TMS: ビデオ システムは TMS (Cisco TelePresence 管理システム) を使用して設定されます。

VCS: ビデオ システムは VCS (Cisco TelePresence ビデオ コミュニケーション サーバ) を使用して設定されます。

Callway: ビデオ システムは Callway (サブスクリプション サービス) を使用して設定されます。

CUCM: ビデオ システムは CUCM (Cisco Unified Communications Manager) を使用して設定されます。

Auto: プロビジョニング サーバはビデオ システムによって自動的に選択されます。

例: xConfiguration Provisioning Mode: TMS

xConfiguration Provisioning LoginName

これは、指定サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。Provisioning Mode が Callway の場合、ビデオ番号を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 80>

フォーマット: 最大 80 文字の文字列。

例: xConfiguration Provisioning LoginName: ""

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Provisioning Password

これは、指定サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。Provisioning Mode が Callway の場合、アクティベーション コードを入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Provisioning Password: ""
```

xConfiguration Provisioning HttpMethod

HTTP 方式をプロビジョニングに使用する場合に選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <GET/POST>

GET: プロビジョニング サーバが GET をサポートする場合、GET を選択します。

POST: プロビジョニング サーバが POST をサポートする場合、POST を選択します。

例:
```
xConfiguration Provisioning HttpMethod: POST
```

xConfiguration Provisioning ExternalManager Address

外部マネージャやプロビジョニング システムの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

外部マネージャのアドレス（およびパス）が設定されている場合、システムはスタートアップ時にこのアドレスにメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、結果として外部マネージャ / プロビジョニング システムはそのユニットにコンフィギュレーション / コマンドを返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャ アドレスを自動的に提供するために DHCP サーバをセットアップできます（TMS には DHCP オプション 242、CUCM には DHCP オプション 150）。Provisioning ExternalManager Address で設定されたアドレスは、DHCP によって提供されるアドレスを上書きします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 有効な IP アドレス形式または DNS 名。最大 64 文字のコンパクト文字列。

例:
```
xConfiguration Provisioning ExternalManager Address: ""
```

xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol

セキュア管理を使用するかどうかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <HTTP/HTTPS>

HTTP: HTTP に設定してセキュアな管理をディセーブルにします。HTTP が xConfiguration NetworkServices HTTP Mode の設定でイネーブルになっている必要があります。

HTTPS: HTTPS に設定してセキュアな管理をイネーブルにします。HTTPS が xConfiguration NetworkServices HTTPS Mode の設定でイネーブルになっている必要があります。

例:
```
xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol: HTTP
```

xConfiguration Provisioning ExternalManager Path

外部マネージャ / プロビジョニング システムへのパスを設定します。いくつかの管理サービスが同じサーバに存在する、つまり同じ外部マネージャのアドレスを共有する場合、この設定が必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Provisioning ExternalManager Path: "tms/public/external/
management/SystemManagementService.asmx"
```

xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain

VCS プロビジョニング サーバの SIP ドメインを入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 64>

フォーマット: 最大 64 文字の文字列。

例:
```
xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain: "any.domain.com"
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

RTP コンフィギュレーション

xConfiguration RTP Ports Range Start

RTP ポート範囲の最初のポートを指定します。「H323 Profile [1..1] PortAllocation」コマンドも参照してください。

必要なユーザ ロール：USER

値スペース：<1024..65502>

*範囲：*1024 ～ 65502 の値を選択します。

例：xConfiguration RTP Ports Range Start: 2326

xConfiguration RTP Ports Range Stop

RTP ポート範囲の最後のポートを指定します。「H323 Profile [1..1] PortAllocation」コマンドも参照してください。

必要なユーザ ロール：USER

値スペース：<1056..65535>

*範囲：*1056 ～ 65535 の値を選択します。

例：xConfiguration RTP Ports Range Stop: 2486

セキュリティ コンフィギュレーション

xConfiguration Security Audit Server Address

監査 syslog サーバへの外部 / グローバル IP アドレスを入力します。IPv6 はサポートされていません。

注：変更の反映には、システムの再起動が必要です。

必要なユーザ ロール：AUDIT

値スペース：<S: 0, 64>

*フォーマット：*最大 64 文字の文字列。

例：xConfiguration Security Audit Server Address: ""

xConfiguration Security Audit Server Port

システムが監査ログを送信する syslog サーバのポートを入力します。デフォルト ポートは 514 です。

注：変更の反映には、システムの再起動が必要です。

必要なユーザ ロール：AUDIT

値スペース：<0..65535>

*範囲：*0 ～ 65535 の値を選択します。

例：xConfiguration Security Audit Server Port: 514

xConfiguration Security Audit OnError Action

syslog サーバへの接続が失われた場合に実行されるアクションを記述します。この設定は、Security Audit Logging Mode が ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

注：変更の反映には、システムの再起動が必要です。

必要なユーザ ロール：AUDIT

値スペース：<Halt/Ignore>

*Halt：*停止状態が検出された場合、装置はリブートし、停止状態が過ぎ去るまではオーディタだけが装置の操作を許可されます。停止状態が過ぎ去ると、監査ログは外部サーバに再スプールされます。次のような停止状態があります。ネットワークの違反（物理リンクなし）、動作中の外部 Syslog サーバが存在しない（または間違ったアドレスまたはポート）、TLS 認証が失敗した（使用中の場合）、ローカル バックアップ（再スプール）ログがいっぱいになった。

*Ignore：*システムは、通常の動作を続行し、いっぱいになった場合は内部ログをローテーションします。接続が復元されると syslog サーバに再度監査ログを送信します。

例：xConfiguration Security Audit OnError Action: Ignore

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Security Audit Logging Mode

監査ログの記録や送信の場所を記述します。

注 : 変更の反映には、システムの再起動が必要です。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <Off/Internal/External/ExternalSecure>

Off : 監査ロギングは実行されません。

Internal : システムは内部ログに監査ログを記録し、いっぱいになった場合はログをローテーションします。

External : システムは外部監査 syslog サーバに監査ログを送信します。外部サーバは TCP をサポートする必要があります。

ExternalSecure : システムは監査 CA の証明書によって検証された外部監査サーバに暗号化された監査ログを送信します。監査 CA リスト ファイルは、Web インターフェイスを使用してコーデックにアップロードする必要があります。CA リスト内の証明書の common_name パラメータが syslog サーバの IP アドレスと一致する必要があります。

例 :
```
xConfiguration Security Audit Logging Mode: Off
```

xConfiguration Security Session ShowLastLogon

SSH または Telnet を使用してシステムにログインしたとき、前回ログインに成功したセッションの UserId、時刻および日付が表示されます。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <Off/On>

On : 前回のセッションに関する情報の表示をイネーブルにするには、On に設定します。

Off : 前回のセッションに関する情報の表示をディセーブルにするには、Off に設定します。

例 :
```
xConfiguration Security Session ShowLastLogon: Off
```

xConfiguration Security Session InactivityTimeout

ユーザが自動的にログ アウトする前に、システムがユーザの非アクティブ状態をどれほどの時間を受け入れるか決定します。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <0..10000>

範囲 : 0 ～ 10000 秒の値を選択します。0 は非アクティブ状態が自動ログ アウトを強制しないことを意味します。

例 :
```
xConfiguration Security Session InactivityTimeout: 0
```

SerialPort コンフィギュレーション

xConfiguration SerialPort Mode

シリアル ポート（Y 字型ケーブルによるカメラ ポート経由で接続）をイネーブルまたはディセーブルにします。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <On/Off>

On : シリアル ポートをイネーブルにします。

Off : シリアル ポートをディセーブルにします。

例 :
```
xConfiguration SerialPort Mode: On
```

xConfiguration SerialPort BaudRate

シリアル ポートに、ボー レート（データ送信レート、ビット / 秒）を指定します。デフォルト値は 38400 です。

シリアル ポートの他の接続パラメータは次のとおりです。データ ビット : 8。パリティ : なし。ストップ ビット : 1。フロー制御 : なし。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <9600/19200/38400/57600/115200>

範囲 : リストされているボー レート（bps）からボー レートを選択します。

例 :
```
xConfiguration SerialPort BaudRate: 38400
```

xConfiguration SerialPort LoginRequired

シリアル ポートに接続するときにログインが必要かどうかを決定します。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <On/Off>

On : シリアル ポート経由でコーデックに接続するときに、ログインが必要です。

Off : ユーザはログインせずに、シリアル ポート経由でコーデックにアクセスできます。

例 :
```
xConfiguration SerialPort LoginRequired: On
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

SIP コンフィギュレーション

xConfiguration SIP Profile [1..1] URI

SIP の URI または番号は、システムをアドレス指定するために使用されます。これは、登録され SIP サービスによりシステムへの着信コールのルーティングに使用される URI です。Uniform Resource Identifier (URI) は、リソースを識別または指定するときに使用されるコンパクト文字列です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字のコンパクト文字列。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 URI: "sip:firstname.lastname@company.com"`

xConfiguration SIP Profile [1..1] DisplayName

設定されたとき、着信コールは SIP URI ではなく、DisplayName を報告します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字の文字列。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 DisplayName: ""`

xConfiguration SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] LoginName

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 128>

フォーマット: 最大 128 文字の文字列。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 Authentication 1 LoginName: ""`

xConfiguration SIP Profile [1..1] Authentication [1..1] Password

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 128>

フォーマット: 最大 128 文字の文字列。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 Authentication 1 Password:`

xConfiguration SIP Profile [1..1] DefaultTransport

LAN で使用するトランスポート プロトコルを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <UDP/TCP/Tls/Auto>

UDP: システムはデフォルトの転送方法として常に UDP を使用します。

TCP: システムはデフォルトの転送方法として常に TCP を使用します。

Tls: システムはデフォルトの転送方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。このような CA リストがシステムにない場合は匿名の Diffie Hellman が使用されます。

Auto: システムは、TLS、TCP、UDP の順序でトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 DefaultTransport: Auto`

xConfiguration SIP Profile [1..1] TlsVerify

TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: TLS 接続を確認するには、On に設定します。x.509 証明書が CA リストで検証された、サーバへの TLS 接続だけが許可されます。

Off: 検証せずに TLS 接続を許可するには、Off に設定します。TLS 接続は、サーバから受信した x.509 証明書をローカル CA リストと確認せずにセットアップできます。これは通常、コーデックに SIP CA リストがアップロードされていない場合、選択する必要があります。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 TlsVerify: Off`

xConfiguration SIP Profile [1..1] Outbound

ファイアウォール トラバーサル、接続の再利用および冗長性のための、クライアントが開始した接続のメカニズム。現在のバージョンは、http://tools.ietf.org/html/draft-ietf-sip-outbound-20 をサポートします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: プロキシ アドレス リストのサーバへの複数のアウトバウンド接続をセットアップします。

Off: プロキシ アドレス リストに最初に設定されている単一プロキシに接続します。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 Outbound: Off`

xConfiguration SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Address

プロキシ アドレスは発信プロキシに手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを使用することが可能です。デフォルト ポートは、TCP および UDP の場合は 5060 ですが、もう 1 ポート準備できます。発信がイネーブルの場合、複数のプロキシをアドレス指定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 255>

フォーマット: 最大 255 文字のコンパクト文字列。文字を含む IP アドレス (192.a.2.0) や無効な IP アドレス (192.0.1234.0) は拒否されます。

例: `xConfiguration SIP Profile 1 Proxy 1 Address: ""`

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration SIP Profile [1..1] Proxy [1..4] Discovery

SIP プロキシ アドレスを手動とダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) のどちらを使用して取得するかを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/Manual>

Auto: Auto が選択されると、ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) を使用して SIP プロキシ アドレスを取得します。

Manual: Manual が選択されると、手動で設定された SIP プロキシ アドレスが使用されます。

例:
```
xConfiguration SIP Profile 1 Proxy 1 Discovery: Manual
```

xConfiguration SIP Profile [1..1] Type

ベンダーまたはプロバイダーに SIP 拡張および特別な動作をイネーブルにします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Standard/Alcatel/Avaya/Cisco/Microsoft/Nortel>

Standard: 標準 SIP プロキシ (Cisco TelePresence VCS および Broadsoft でテスト済み) に登録するときに使用されます。

Alcatel: Alcatel-Lucent OmniPCX Enterprise に登録するときに使用されます。注 : このモードはフル サポートされていません。

Avaya: Avaya Communication Manager に登録するときに使用されます。注 : このモードはフル サポートされていません。

Cisco: Cisco Unified Communication Manager に登録するときに使用されます。

Microsoft: Microsoft LCS または OCS に登録するときに使用されます。注 : このモードはフル サポートされていません。

Nortel: Nortel MCS 5100 または MCS 5200 PBX に登録するときに使用されます。注 : このモードはフル サポートされていません。

例:
```
xConfiguration SIP Profile 1 Type: Standard
```

スタンバイ コンフィギュレーション

xConfiguration Standby Control

システムがスタンバイ モードに移動するかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: Standby Delay がタイム アウトになったときにスタンバイ モードを開始します。注 : スタンバイ遅延を適切な値に設定する必要があります。

Off: システムはスタンバイ モードを開始しません。

例:
```
xConfiguration Standby Control: On
```

xConfiguration Standby Delay

スタンバイ モードに入る前に、システムがアイドル モードのまま経過する時間の長さ (分単位) を定義します。注 : Standby Control をイネーブルにする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1..480>

範囲: 1 ～ 480 分の値を選択します。

例:
```
xConfiguration Standby Delay: 10
```

xConfiguration Standby BootAction

コーデックの再起動後のカメラの位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <None/Preset1/Preset2/Preset3/Preset4/Preset5/Preset6/Preset7/Preset8/Preset9/Preset10/Preset11/Preset12/Preset13/Preset14/Preset15/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition>

None: アクションはありません。

Preset1 ～ Preset15: 再起動後、カメラ位置は選択したプリセットによって定義された位置にセットされます。

RestoreCameraPosition: 再起動後、カメラ位置は前回のブート前の位置にセットされます。

DefaultCameraPosition: 再起動後、カメラ位置は工場出荷時のデフォルトの位置にセットされます。

例:
```
xConfiguration Standby BootAction: DefaultCameraPosition
```

xConfiguration Standby StandbyAction

スタンバイ モードに入るときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <None/PrivacyPosition>

None: アクションはありません。

PrivacyPosition: プライバシーのためカメラを横向き位置に向けます。

例:
```
xConfiguration Standby StandbyAction: PrivacyPosition
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Standby WakeupAction

スタンバイ モードを抜けるときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <None/Preset1/Preset2/Preset3/Preset4/Preset5/Preset6/Preset7/Preset8/Preset9/Preset10/Preset11/Preset12/Preset13/Preset14/Preset15/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition>

None: アクションはありません。

Preset1 ～ Preset15: スタンバイを抜けるとき、カメラ位置は選択したプリセットによって定義された位置にセットされます。

RestoreCameraPosition: スタンバイを抜けるとき、カメラ位置はスタンバイに入る前の位置にセットされます。

DefaultCameraPosition: スタンバイを抜けるとき、カメラ位置は工場出荷時のデフォルトの位置にセットされます。

例: xConfiguration Standby WakeupAction: RestoreCameraPosition

SystemUnit コンフィギュレーション

xConfiguration SystemUnit Name

システム装置の名前を定義するためにシステム名を入力します。H.323 エイリアス ID がシステムに設定されている場合、この ID がシステム名の代わりに使用されます。次の場合にシステム名が表示されます。

1) コーデックが SNMP エージェントとして機能している場合。

2) DHCP サーバ向け。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: xConfiguration SystemUnit Name: "Meeting Room"

xConfiguration SystemUnit MenuLanguage

スクリーンのメニューで使用する言語を選択します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <English/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Czech/Danish/Dutch/Finnish/French/German/Hungarian/Italian/Japanese/Korean/Norwegian/Polish/PortugueseBrazilian/Russian/Spanish/SpanishLatin/Swedish/Turkish>

例: xConfiguration SystemUnit MenuLanguage: English

xConfiguration SystemUnit ContactInfo Type

画面表示で左上隅のステータス フィールドに配置されるパラメータを記述します。情報は、xStatus SystemUnit ContactInfo コマンドでも読み込むことができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/None/IPv4/IPv6/H323Id/E164Alias/SipUri/SystemName>

Auto: デフォルトのコール プロトコルおよびシステム登録に応じて、このシステムに到達するために別のシステムがダイヤル可能なアドレスを示します。

None: どのようなコンタクト情報も表示しません。

IPv4: コンタクト情報として IPv4 アドレスを表示します。

IPv6: コンタクト情報として IPv6 アドレスを表示します。

H323Id: コンタクト情報として H323 ID を表示します。

E164Alias: コンタクト情報として H323 E164 エイリアスを表示します。

SipUri: コンタクト情報として SIP URI を表示します。

SystemName: コンタクト情報としてシステム名を表示します。

例: xConfiguration SystemUnit ContactInfo Type: Auto

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration SystemUnit Type

ビデオ システムを個人的に使用するか、マルチユーザ環境で使用かを選択します。デフォルト設定を使用することを強くお勧めします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Personal/Shared>

Personal: システムを個人的に使用に使用する場合、Personal にセットします。

Shared: システムがマルチユーザ環境で使用される場合、Shared にセットします。

例:
```
xConfiguration SystemUnit Type: Shared
```

xConfiguration SystemUnit CallLogging Mode

システムが受信または送信するコールのコール ロギング モードを設定します。コール ログは、Web インターフェイスまたは xHistory コマンドを使用して表示できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: ロギングをイネーブルにします。

Off: ロギングをディセーブルにします。

例:
```
xConfiguration SystemUnit CallLogging Mode: On
```

xConfiguration SystemUnit IrSensor

コーデック C シリーズと PrecisionHD カメラの両方が IR センサーを持っており、そのうち同時に 1 つだけをイネーブルにする必要がありますIR センサー LED はコーデックの前面とカメラにあり、リモコンから IR 信号を受信すると明滅します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off/Auto>

On: コーデックの IR センサーをイネーブルにします。

Off: コーデックの IR センサーをディセーブルにします。

Auto: カメラの IR センサーがイネーブルの場合、システムはコーデックの IR センサーを自動的にディセーブルにします。そうでない場合、コーデックの IR センサーはイネーブルになります。

例:
```
xConfiguration SystemUnit IrSensor: Auto
```

時間のコンフィギュレーション

xConfiguration Time Zone

Windows の時間帯の表記形式を使用してシステム所在地のタイム ゾーンを設定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <GMT-12:00 (International Date Line West)/GMT-11:00 (Midway Island, Samoa)/GMT-10:00 (Hawaii)/GMT-09:00 (Alaska)/GMT-08:00 (Pacific Time (US & Canada); Tijuana)/GMT-07:00 (Arizona)/GMT-07:00 (Mountain Time (US & Canada))/GMT-07:00 (Chihuahua, La Paz, Mazatlan)/GMT-06:00 (Central America)/GMT-06:00 (Saskatchewan)/GMT-06:00 (Guadalajara, Mexico City, Monterrey)/GMT-06:00 (Central Time (US & Canada))/GMT-05:00 (Indiana (East))/GMT-05:00 (Bogota, Lima, Quito)/GMT-05:00 (Eastern Time (US & Canada))/GMT-04:30 (Caracas)/GMT-04:00 (La Paz)/GMT-04:00 (Santiago)/GMT-04:00 (Atlantic Time (Canada))/GMT-03:30 (Newfoundland)/GMT-03:00 (Buenos Aires, Georgetown)/GMT-03:00 (Greenland)/GMT-03:00 (Brasilia)/GMT-02:00 (Mid-Atlantic)/GMT-01:00 (Cape Verde Is.)/GMT-01:00 (Azores)/GMT (Casablanca, Monrovia)/GMT (Coordinated Universal Time)/GMT (Greenwich Mean Time : Dublin, Edinburgh, Lisbon, London)/GMT+01:00 (West Central Africa)/GMT+01:00 (Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna)/GMT+01:00 (Brussels, Copenhagen, Madrid, Paris)/GMT+01:00 (Sarajevo, Skopje, Warsaw, Zagreb)/GMT+01:00 (Belgrade, Bratislava, Budapest, Ljubljana, Prague)/GMT+02:00 (Harare, Pretoria)/GMT+02:00 (Jerusalem)/GMT+02:00 (Athens, Istanbul, Minsk)/GMT+02:00 (Helsinki, Kyiv, Riga, Sofia, Tallinn, Vilnius)/GMT+02:00 (Cairo)/GMT+02:00 (Bucharest)/GMT+03:00 (Nairobi)/GMT+03:00 (Kuwait, Riyadh)/GMT+03:00 (Moscow, St. Petersburg, Volgograd)/GMT+03:00 (Baghdad)/GMT+03:30 (Tehran)/GMT+04:00 (Abu Dhabi, Muscat)/GMT+04:00 (Baku, Tbilisi, Yerevan)/GMT+04:30 (Kabul)/GMT+05:00 (Islamabad, Karachi, Tashkent)/GMT+05:00 (Ekaterinburg)/GMT+05:30 (Chennai, Kolkata, Mumbai, New Delhi)/GMT+05:45 (Kathmandu)/GMT+06:00 (Sri Jayawardenepura)/GMT+06:00 (Astana, Dhaka)/GMT+06:00 (Almaty, Novosibirsk)/GMT+06:30 (Rangoon)/GMT+07:00 (Bangkok, Hanoi, Jakarta)/GMT+07:00 (Krasnoyarsk)/GMT+08:00 (Perth)/GMT+08:00 (Taipei)/GMT+08:00 (Kuala Lumpur, Singapore)/GMT+08:00 (Beijing, Chongqing, Hong Kong, Urumqi)/GMT+08:00 (Irkutsk, Ulaan Bataar)/GMT+09:00 (Osaka, Sapporo, Tokyo)/GMT+09:00 (Seoul)/GMT+09:00 (Yakutsk)/GMT+09:30 (Darwin)/GMT+09:30 (Adelaide)/GMT+10:00 (Guam, Port Moresby)/GMT+10:00 (Brisbane)/GMT+10:00 (Vladivostok)/GMT+10:00 (Hobart)/GMT+10:00 (Canberra, Melbourne, Sydney)/GMT+11:00 (Magadan, Solomon Is., New Caledonia)/GMT+12:00 (Fiji, Kamchatka, Marshall Is.)/GMT+12:00 (Auckland, Wellington)/GMT+13:00 (Nuku alofa)>

範囲: リストのタイム ゾーンからタイム ゾーンを選択します。コマンドライン インターフェイスを使用している場合、タイプ ミスに注意します。

例:
```
xConfiguration Time Zone: "GMT (Greenwich Mean Time : Dublin, Edinburgh, Lisbon, London)"
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Time TimeFormat

時間のフォーマットを設定します。

必要なユーザ ロール：USER

値スペース：<24H/12H>

*24H：*24 時間の時間フォーマットを設定します。

*12H：*12 時間（AM/PM）の時間フォーマットを設定します。

例：xConfiguration Time TimeFormat: 24H

xConfiguration Time DateFormat

日付のフォーマットを設定します。

必要なユーザ ロール：USER

値スペース：<DD _ MM _ YY/MM _ DD _ YY/YY _ MM _ DD>

*DD_MM_YY：*2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

*MM_DD_YY：*2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

*YY_MM_DD：*2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

例：xConfiguration Time DateFormat: DD _ MM _ YY

UserInterface のコンフィギュレーション

xConfiguration UserInterface TouchPanel DefaultPanel

デフォルトとして連絡先リストとスケジュールされた会議のリストのどちらをタッチ パネルで表示するか選択します。

必要なユーザ ロール：USER

値スペース：<ContactList/MeetingList>

*ContactList：*連絡先リスト（お気に入り，ディレクトリおよび履歴）がタッチ パネルのデフォルトとして表示されます。

*MeetingList：*スケジュールされた会議のリストがタッチ パネルのデフォルトとして表示されます。

例：xConfiguration UserInterface TouchPanel DefaultPanel: ContactList

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

ビデオ コンフィギュレーション

xConfiguration Video Input Source [1..2] Name

ビデオ入力ソースの名前を入力します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <S: 0, 50>

フォーマット: 最大 50 文字の文字列。

例: xConfiguration Video Input Source 1 Name: ""

xConfiguration Video Input Source [1] Connector

ビデオ入力ソース 1 でアクティブにするビデオ入力コネクタを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <HDMI>

HDMI: 入力ソース 1 として HDMI を使用する場合は、HDMI を選択します。

例: xConfiguration Video Input Source 1 Connector: HDMI

xConfiguration Video Input Source [2] Connector

ビデオ入力ソース 2 でアクティブにするビデオ入力コネクタを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <DVI>

DVI: 入力ソース 2 として DVI-I 2 を使用する場合は、DVI-I を選択します。

例: xConfiguration Video Input Source 2 Connector: DVI

xConfiguration Video Input Source [1..2] Type

ビデオ入力に接続された入力ソースのタイプを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <other/camera/PC/DVD/document _ camera>

Other: 他のタイプの装置を指定ビデオ入力に接続する場合、Other を選択します。

Camera: 指定されたビデオ入力に接続されているカメラがある場合は、Camera を選択します。

PC: 指定されたビデオ入力に接続されている PC がある場合は、PC を選択します。

DVD: 指定されたビデオ入力に接続されている DVD プレイヤーがある場合は、DVD を選択します。

Document_Camera: 指定されたビデオ入力に接続されているドキュメント カメラがある場合は、Document_Camera を選択します。

例: xConfiguration Video Input Source 1 Type: PC

xConfiguration Video Input Source [1..2] CameraControl Mode

ビデオ入力がアクティブなときに指定ビデオ入力ソースのカメラ制御をイネーブルにするかどうかを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: カメラ制御をイネーブルにします。

Off: カメラ制御をディセーブルにします。

例: xConfiguration Video Input Source 1 CameraControl Mode: On

xConfiguration Video Input Source [1..2] CameraControl CameraId

カメラの ID を表示します。この値は、この製品に固定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <1>

範囲: カメラの ID を表示します。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Profile

最適鮮明度設定を有効にするために、Video Input Source Quality を Motion に設定する必要があります。

最適鮮明度プロファイルは、会議室の光の状態とビデオ入力（カメラ）の品質に合わせる必要があります。光の状態とビデオ入力が優れていれば、プロファイルも向上します。このとき、良い光の条件で、ビデオ エンコーダは指定のコール レートに一層優れた品質（高解像度またはフレーム レート）を提供します。

通常、Normal または Medium プロファイルを使用することを推奨します。ただし、光の条件が良い場合、特定のコール率の解像度を大きくするために、High プロファイルを設定できます。

異なる最適鮮明度プロファイルに使用する一般的な解像度、コール レートおよび送信フレーム レートの一部を次の表に示します。デュアル ビデオを使用しないことを前提としています。解像度は、発信側と着信側の両方のシステムでサポートされている必要があります。

60 fps のフレーム レートを使用する場合、決定に Video Input Source OptimalDefinition Threshold60fps 設定を使用します。

さまざまな最適鮮明度プロファイル、コール レート、フレーム レートで使用される一般的な解像度

フレーム レート	最適鮮明度プロファイル	コール レート						
		256 kbps	*768 kbps*	*1152 kbps*	*1472 kbps*	*2560 kbps*	*4 Mbps*	*6 Mbps*
30 fps	*標準*	512×288	1024×576	1280×720	1280×720	1920×1080	1920×1080	1920×1080
	Medium	640×368	1280×720	1280×720	1280×720	1920×1080	1920×1080	1920×1080
	High	768×448	1280×720	1280×720	1920×1080	1920×1080	1920×1080	1920×1080
60 fps	*標準*	256×144	512×288	768×448	1024×576	1280×720	1280×720	1280×720
	Medium	256×144	768×448	1024×576	1024×576	1280×720	1280×720	1280×720
	High	512×288	1024×576	1280×720	1280×720	1280×720	1280×720	1280×720

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Normal/Medium/High>

*Normal：*照明が通常から不良の環境には、このプロファイルを使用します。解像度は控えめに設定されます。

*Medium：*安定した光条件および高品質なビデオ入力が必要です。一部のコール レートの場合、これは高解像度へ移動できます。

*High：*優れた全体的なエクスペリエンスを実現するには、理想に近いビデオ会議の光の状態および高品質なビデオ入力が必要です。相当高い解像度が使用されます。

例：

```
xConfiguration Video Input Source 1 OptimalDefinition Profile: Normal
```

xConfiguration Video Input Source [1..2] OptimalDefinition Threshold60fps

各ビデオ入力について、この設定は 60 fps で送信する最低解像度をシステムに通知します。これより低い解像度すべてについて、最大送信フレーム レートは 30 fps となります。使用可能な帯域幅が適切であれば、これより高い解像度で 60 fps も可能です。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<512 _ 288/768 _ 448/1024 _ 576/1280 _ 720/Never>

*512_288：*512x288 にしきい値を設定します。

*768_448：*768x448 にしきい値を設定します。

*1024_576：*1024x576 にしきい値を設定します。

*1280_720：*1280x720 にしきい値を設定します。

*Never：*60 fps を送信するしきい値を設定しません。

例：

```
xConfiguration Video Input Source 1 OptimalDefinition Threshold60fps:
1280 _ 720
```

xConfiguration Video Input Source [1..2] Quality

ビデオのエンコードと送信のときには、高解像度と高フレーム レートとの間にトレード オフが存在します。一部のビデオ ソースでは、高フレーム レートが高解像度より重要であり、逆の場合もあります。この品質設定は、指定のソースに対して、高フレーム レートと高解像度のどちらにプライオリティを設定するかを指定します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Motion/Sharpness>

*Motion：*できるだけ高いフレーム レートにします。通常、多数の参加者がいる場合や画像の動きが激しい場合など、高フレーム レートが必要なときに使用されます。

*Sharpness：*できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

例：

```
xConfiguration Video Input Source 1 Quality: Motion
```

xConfiguration Video DefaultPresentationSource

デフォルトのプレゼンテーションのソースとして使用する入力ソースを定義します（リモート コントロールの Presentation キーを押したとき）。その入力ソースがビデオ入力コネクタに設定されます。

必要なユーザ ロール：USER

値スペース：<1/2>

*範囲：*プレゼンテーション ソースとして使用されるビデオ ソースを選択します。

例：

```
xConfiguration Video DefaultPresentationSource: 2
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Video Input DVI [2] Type

公式 DVI 規格は、デジタル信号とアナログ信号の両方をサポートします。ほとんどの場合、デフォルトの AutoDetect 設定で信号がアナログ RGB かデジタルかを検出できます。ただし DVI-I ケーブルを使用した場合（これらのケーブルはアナログとデジタル両方の信号を伝送できます）、まれに自動検出に失敗することがあります。この設定により、AutoDetect を上書きし、正しい DVI ビデオ入力を選択できます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<AutoDetect/Digital/AnalogRGB>

*AutoDetect：*信号がアナログ RGB かデジタルかを自動的に検出するには、AutoDetect に設定します。

*Digital：*アナログとデジタルの両方のピンを持つ DVI-I ケーブルを使用し、AutoDetect が失敗する場合、Digital に設定すると DVI ビデオ入力を強制的に Digital にします。

*AnalogRGB：*アナログとデジタルの両方のピンを持つ DVI-I ケーブルを使用し、AutoDetect が失敗する場合、AnalogRGB に設定すると DVI ビデオ入力を強制的に AnalogRGB にします。

例：

```
xConfiguration Video Input DVI 2 Type: AutoDetect
```

xConfiguration Video Layout Scaling

イメージとそれを配置するフレームとの間に違いがある場合、システムがイメージまたはフレームのアスペクト比をどのように調整するかを定義します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<On/Off>

*On：*システムが縦横比を自動的に調整できるようにします。

*Off：*アスペクト比の調整はありません。

例：

```
xConfiguration Video Layout Scaling: On
```

xConfiguration Video Layout ScaleToFrame

ビデオ入力ソースのアスペクト比がコンポジション内の対応するイメージ フレーム アスペクト比と一致しない場合の対処方法を定義します。たとえば、4:3 入力（XGA など）を 16:9 出力（HD720 など）に表示する場合です。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Manual/MaintainAspectRatio/StretchToFit>

*Manual：*ビデオ入力ソースとターゲット イメージ フレーム間のアスペクト比の違いが ScaleToFrameThreshold 設定（パーセンテージ）よりも小さい場合、イメージはフィットするよう拡大されます。そうでない場合は、元のアスペクト比が維持されます。

*MaintainAspectRatio：*入力ソースのアスペクト比を維持し、フレームの残りの部分（文字のボクシングや柱のボクシング）は黒で埋めます。

*StretchToFit：*イメージのフレームにフィットするよう入力ソースを（水平または垂直に）拡張します。注：一般的な制限として、1 方向を拡大しながら別の方向を縮小することはできません。このような状況で、コーデックは letterboxing を適用します。

例：

```
xConfiguration Video Layout ScaleToFrame: MaintainAspectRatio
```

xConfiguration Video Layout ScaleToFrameThreshold

ScaleToFrame が Manual に設定されている場合に限り適用できます。ビデオ入力ソースとターゲット イメージ フレーム間のアスペクト比の違いが ScaleToFrameThreshold 設定（パーセンテージ）よりも小さい場合、イメージはフィットするよう拡大されます。そうでない場合は、元のアスペクト比が維持されます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<0..100>

*範囲：*0 ～ 100 % の値を選択します。

例：

```
xConfiguration Video Layout ScaleToFrameThreshold: 5
```

xConfiguration Video SelfviewPosition

画面上で小さいセルフビューの PiP（Picture-in-Picture）を表示する位置を選択します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<UpperLeft/UpperRight/LowerLeft/LowerRight/CenterRight>

*UpperLeft：*セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

*UpperRight：*セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

*LowerLeft：*セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

*LowerRight：*セルフビュー PiP が画面の右上下に表示されます。

*CenterRight：*セルフビュー PiP が画面右側の真ん中に表示されます。

例：

```
xConfiguration Video SelfviewPosition: LowerRight
```

xConfiguration Video Layout LocalLayoutFamily

ローカルで使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

値スペース：<Auto/FullScreen/Equal/PresentationSmallSpeaker/PresentationLargeSpeaker>

*Auto：*レイアウト データベースによって指定される、デフォルト レイアウト ファミリが、ローカル レイアウトとして使用されます。レイアウト データベースの詳細については、xCommand Video Layout LoadDb コマンドを参照してください。

*FullScreen：*FullScreen レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

*Equal：*Equal レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

*PresentationSmallSpeaker：*PresentationSmallSpeaker レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

*PresentationLargeSpeaker：*PresentationLargeSpeaker レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

例：

```
xConfiguration Video Layout LocalLayoutFamily: Auto
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Video Layout RemoteLayoutFamily

リモート参加者が使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/FullScreen/Equal/PresentationSmallSpeaker/PresentationLargeSpeaker>

Auto: ローカル レイアウト データベースによって指定される、デフォルト レイアウト ファミリが、リモート レイアウトとして使用されます。レイアウト データベースの詳細については、xCommand Video Layout LoadDb コマンドを参照してください。

FullScreen: FullScreen レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。

Equal: Equal レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。

PresentationSmallSpeaker: PresentationSmallSpeaker レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。

PresentationLargeSpeaker: PresentationLargeSpeaker レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。

例:
```
xConfiguration Video Layout RemoteLayoutFamily: Auto
```

xConfiguration Video MainVideoSource

メイン ビデオ ソースとして使用されるビデオ入力ソースを定義します。ビデオ入力ソースは「Video Input Source [1..2] Connector」で設定されます。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <1/2>

範囲: メイン ビデオ ソースとして使用されるソースを選択します。

例:
```
xConfiguration Video MainVideoSource: 1
```

xConfiguration Video Monitors

モニタ レイアウト モードを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Single/Dual/DualPresentationOnly>

Single: 同じレイアウトがすべてのモニタに表示されます。

Dual: レイアウトは 2 台のモニタに分配されます。

DualPresentationOnly: 最初のモニタにはコールのすべての関係者が、2 番目のモニタにはプレゼンテーション（存在する場合）が表示されます。

例:
```
xConfiguration Video Monitors: Single
```

xConfiguration Video OSD Mode

ビデオ OSD（On Screen Display）モードでは、情報およびアイコンを画面に表示するかどうかを定義できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off/Disabled>

On: オン スクリーン メニュー、アイコンおよびインジケータを表示します。

Off: オン スクリーン メニュー、アイコンおよびインジケータを非表示にします。

Disabled: Disabled に設定すると、プレゼンテーション共有と同時に 1080p30 を行うため通常 GUI によって使用される追加リソースを C20 が使用できます。GUI が無効にされるため、C20 は Cisco TelePresence Touch または外部制御パネルによって制御される必要があります。

例:
```
xConfiguration Video OSD Mode: On
```

xConfiguration Video OSD AutoSelectPresentationSource

プレゼンテーションのソースを自動的に選択するかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: プレゼンテーション ソースの自動選択をイネーブルにします。

Off: プレゼンテーション ソースの自動選択をディセーブルにします。

例:
```
xConfiguration Video OSD AutoSelectPresentationSource: Off
```

xConfiguration Video OSD TodaysBookings

この設定は、メイン OSD メニューに今日のシステムの予約を表示するために使用できます。これには、Cisco TelePresence Management Suite（TMS）などの外部予約システムからシステムを予約可能であることが必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: このシステムの予約に関する情報を画面に表示します。

Off: 今日の予約を表示しません。

例:
```
xConfiguration Video OSD TodaysBookings: Off
```

xConfiguration Video OSD MyContactsExpanded

ローカルの連絡先を OSD（On Screen Display）の電話帳ダイアログに表示する方法を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <On/Off>

On: 電話帳内のローカルの連絡先が電話帳ダイアログの最上位に表示されます。

Off: ローカルの連絡先は、電話帳ダイアログで MyContacts という別のフォルダに配置されます。

例:
```
xConfiguration Video OSD MyContactsExpanded: Off
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Video OSD Output

ビデオ OSD (On Screen Display) 出力では、スクリーン メニュー、情報およびアイコンを表示するモニタを定義できます。デフォルトでは、OSD は Video OSD Output 1 に接続されたモニタに送られます。画面に OSD が表示されない場合、OSD 出力を再設定する必要があります。リモート コントロールからキー シーケンスを入力するか、Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスによってこれを実行できます。

リモコン使用 : Disconnect キーを押し、* # * # 0 x # と続けます (x はアウトプット 1 ～ 2)。

Web インターフェイス使用 : Web ブラウザを開き、コーデックの IP アドレスを入力します。[Advanced Configuration] メニューを開き、[Video OSD Output] に移動して、ビデオ出力を選択します。

コマンドライン インターフェイス使用 : コマンドライン インターフェイスを開いて、コーデックに接続します (この方法がよくわからない場合、コーデックの API ガイドを参照してください)。次のコマンドを入力します。xConfiguration Video OSD Output [1..2] (OSD 出力を選択します)

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <1/2>

範囲 : HDMI の出力として [1] を選択するか、または DVI-I の出力として [2] を選択します。

例 : `xConfiguration Video OSD Output: 1`

xConfiguration Video OSD InputMethod InputLanguage

コーデックで、画面のメニューでのキリル文字入力をイネーブルにできます。注 : xConfiguration Video OSD inputMethod Cyrillic が On に設定されていることが必要です。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <Latin/Cyrillic>

Latin : リモコンを使用してラテン文字を入力できます (デフォルト)。

Cyrillic : リモコンを使用してキリル文字を入力できます。注 : キリル文字の字体を持つ Cisco TelePresence リモート コントロールが必要です。

例 : `xConfiguration Video OSD InputMethod InputLanguage: Latin`

xConfiguration Video OSD InputMethod Cyrillic

画面のメニューでメニュー入力言語をキリル モードに設定します。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <On/Off>

On : 画面のメニューでキリル モードをメニュー入力言語として使用できます。これにより、xConfiguration Video OSD InputMethod InputLanguage の設定が可能になります。

Off : 画面のメニューでキリル モードをメニュー入力言語として使用できません。

例 : `xConfiguration Video OSD InputMethod Cyrillic: Off`

xConfiguration Video OSD LoginRequired

オン スクリーン ディスプレイ (OSD) へのアクセス前に、システムがユーザのログインを要求するかを決定します。有効にすると、ユーザは自分のユーザ名と自分の PIN を入力する必要があります。ユーザのログイン後、ユーザは自分のロールで許可されているコンフィギュレーション変更とコマンドだけを実行できます。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <On/Off>

On : ユーザはオン スクリーン ディスプレイ (OSD) にアクセスするためにログインする必要があります。

Off : OSD へのログインは不要です。

例 : `xConfiguration Video OSD LoginRequired: Off`

xConfiguration Video AllowWebSnapshots

ローカル入力ソース、リモート サイトおよびプレゼンテーション チャネルで取得されるスナップショットを許可または拒否します。許可された場合、Web インターフェイスの [Call Control] ページは、アイドル中のときもコール中のときもスナップショットを表示します。

注 : この機能はデフォルトでディセーブルであり、オン スクリーン ディスプレイ (OSD) から、直接接続されたタッチ コントローラから、またはコーデックのシリアル ポートでイネーブルにする必要があります (カメラ ポートと Y 字型ケーブル)。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <On/Off>

On : Web スナップショットをキャプチャし、Web インターフェイスに表示できます。

Off : Web スナップショットは取得できません。

例 : `xConfiguration Video AllowWebSnapshots: Off`

xConfiguration Video Output HDMI [1..2] CEC Mode

HDMI 出力は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートしています。オンに設定し (デフォルトはオフ)、HDMI 出力に接続されたモニタが CEC 互換であって、CEC が設定されている場合、システムがスタンバイに入るときシステムは CEC を使用してモニタをスタンバイに設定します。同様に、システムがスタンバイから復帰するとき、システムはモニタを起動します。CEC については、製造業者によって異なるマーケティング名称が使用されていることに注意してください。Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、BRAVIA Sync (Sony)、HDMI-CEC (日立)、Kuro Link (パイオニア)、CE-Link および Regza Link (東芝)、RIHD (オンキョー)、SimpLink (LG)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (Panasonic)、EasyLink (Philips) NetCommand for HDMI (三菱)。

必要なユーザ ロール : ADMIN

値スペース : <On/Off>

On : CEC 制御をイネーブルにします。

Off : CEC 制御をディセーブルにします。

例 : `xConfiguration Video Output HDMI 1 CEC Mode: Off`

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xConfiguration Video Output HDMI [1..2] MonitorRole

HDMI モニタ ロールは、ビデオ出力 HDMI コネクタに接続されたモニタにどのビデオ ストリームを表示するかを示します。「Video > Monitors」コンフィギュレーションがデュアルに設定された場合にだけ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <First/Second/PresentationOnly>

First: メイン ビデオ ストリームを表示します。

Second: アクティブな場合プレゼンテーション ビデオ ストリーム、そうでなければその他の参加者を表示します。

PresentationOnly: アクティブな場合プレゼンテーション ビデオ ストリームを表示し、他のものは表示しません。

例:
```
xConfiguration Video Output HDMI 1 MonitorRole: First
```

xConfiguration Video Output HDMI [1..2] OverscanLevel

一部の TV やその他のモニタは、システムのビデオ出力で送信されるイメージ全体を表示せず、イメージの外側部分をカットする場合があります。この場合、システムがビデオ解像度の外側部分を使用しないようにするためにこの設定を使用できます。この場合、ビデオと OSD メニューの両方が拡大縮小されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Medium/High/None>

Medium: システムは出力解像度の外側 3 % を使用しません。

High: システムは出力解像度の外側 6 % を使用しません。

None: システムは出力解像度すべてを使用します。

例:
```
xConfiguration Video Output HDMI 1 OverscanLevel: None
```

xConfiguration Video Output HDMI [1, 2] Resolution

ビデオ出力 HDMI コネクタに接続されたモニタの優先解像度を選択します。これはモニタに解像度を強制します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

値スペース: <Auto/640 _ 480 _ 60/800 _ 600 _ 60/1024 _ 768 _ 60/1280 _ 1024 _ 60/1280 _ 720 _ 50/1280 _ 720 _ 60/1920 _ 1080 _ 50/1920 _ 1080 _ 60/1280 _ 768 _ 60/1360 _ 768 _ 60/1366 _ 768 _ 60/1600 _ 1200 _ 60/1680 _ 1050 _ 60/1920 _ 1200 _ 60>

Auto: システムは接続されたモニタのネゴシエーションに基づいて自動的に最適な解像度の設定を試行します。

範囲: 640x480@60p、800x600@60p、1024x768@60p、1280x1024@60p、1280x720@50p、1280x720@60p、1920x1080@50p、1920x1080@60p、1280x768@60p、1360x768@60p、1366x768@60p、1600x1200@60p、1680x1050@60p、1920x1200@60p

例:
```
xConfiguration Video Output HDMI 1 Resolution: 1920 _ 1080 _ 60
```

xConfiguration Video Selfview

メイン ビデオ ソース（セルフビュー）を画面に表示するかどうかを指定します。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <On/Off>

On: 画面にセルフビューを表示します。

Off: 画面にセルフビューを表示しません。

例:
```
xConfiguration Video Selfview: On
```

xConfiguration Video WallPaper

アイドル状態のときのビデオ画面の背景画像を選択します。タッチ コントローラの背景イメージは変更されません。

必要なユーザ ロール: USER

値スペース: <None/Growing/Summersky/Custom/Waves>

None: 画面に背景画像を設定しません。

Summersky、Growing、Waves: 選択した背景画像が画面に表示されます。

Custom: カスタムの壁紙をコーデックにアップロードすると、画面の背景画像として使用されます。そうでない場合、背景画像はありません。

コーデックにカスタムの壁紙をアップロードするには、Web インターフェイスを使用します。

1) コーデック側: リモート コントロールで、画面のメニューを開き、[Home] > [Settings] > [System infomation] と移動して IP アドレスを調べます。タッチ コントローラでは、[More] > [Settings] > [System Information] とタップして IP アドレスを調べます。

2) コンピュータ側: Web ブラウザを開き、アドレス バーにコーデックの IP アドレスを入力します。[Configuration] タブの上にマウスを移動して、[Wallpaper] を選択します。ファイルを参照して、[Upload] ボタンをクリックします。サポートされる最大解像度は 1920x1200 です。

例:
```
xConfiguration Video Wallpaper: Summersky
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

試験的コンフィギュレーション

試験的設定は、テストのためだけのもので、シスコと同意したのでない限り使用できません。これらの設定は記載されておらず、以降のリリースで変更されます。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

4 章

xCommand コマンドの説明

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand コマンドの説明

続くページに、パラメータ付き xCommand タイプ コマンドすべての完全なリストを示します。

マニュアルの更新バージョンがないか、定期的に Web サイトにアクセスすることを推奨します。
▶ http://www.cisco.com/go/telepresence/docs を参照してください。

オーディオ コマンド 67
xCommand Audio Microphones Mute 67
xCommand Audio Microphones Unmute 67
xCommand Audio Sound Play 67
xCommand Audio Sound Stop 67

予約コマンド 67
xCommand Bookings Clear 68
xCommand Bookings List 67

ブート コマンド 68
xCommand Boot 68

コール コマンド 69
xCommand Call Accept 69
xCommand Call Disconnect 69
xCommand Call DisconnectAll 69
xCommand Call ExtendConference 70
xCommand Call Hold 69
xCommand Call Join 69
xCommand Call Reject 69
xCommand Call Resume 70

CallLog コマンド 70
xCommand CallLog Clear 70
xCommand CallLog Missed Delete 71
xCommand CallLog Missed Dismiss 71
xCommand CallLog Outgoing Delete 70
xCommand CallLog Received Delete 71
xCommand CallLog Recent Delete 70

CamCtrlPip コマンド 71
xCommand CamCtrlPip 71

カメラ コマンド 72
xCommand Camera PanTiltReset 72
xCommand Camera PositionActivateFromPreset 73
xCommand Camera PositionReset 72
xCommand Camera PositionSet 72
xCommand Camera Preset Activate 74
xCommand Camera Preset Edit 74
xCommand Camera Preset List 74
xCommand Camera Preset Remove 74
xCommand Camera Preset Store 75
xCommand Camera Ramp 73
xCommand Camera TriggerAutofocus 73

会議コマンド 75
xCommand Conference DoNotDisturb Activate 75
xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate 75

ダイヤル コマンド 76
xCommand Dial 76

DTMFSend コマンド 76
xCommand DTMFSend 76

FacilityService コマンド 77
xCommand FacilityService Dial 77

FarEndControl コマンド 77
xCommand FarEndControl Camera Move 77
xCommand FarEndControl Camera Stop 77
xCommand FarEndControl Preset Activate 78
xCommand FarEndControl Preset Store 78
xCommand FarEndControl Source Select 78

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

HttpFeedback コマンド 79
xCommand HttpFeedback Deregister 79
xCommand HttpFeedback Register 79

キー コマンド 79
xCommand Key Click 79
xCommand Key Press 79
xCommand Key Release 79

メッセージ コマンド 80
xCommand Message Alert Clear 80
xCommand Message Alert Display 80
xCommand Message Echo 82
xCommand Message Prompt Clear 81
xCommand Message Prompt Display 81
xCommand Message Prompt Response 81
xCommand Message TextLine Clear 80
xCommand Message TextLine Display 80

電話帳コマンド 82
xCommand Phonebook Contact Add 83
xCommand Phonebook Contact Delete 84
xCommand Phonebook ContactMethod Add 84
xCommand Phonebook ContactMethod Delete 85
xCommand Phonebook ContactMethod Modify 85
xCommand Phonebook Contact Modify 84
xCommand Phonebook Folder Add 82
xCommand Phonebook Folder Delete 83
xCommand Phonebook Folder Modify 82
xCommand Phonebook Search 85

プレゼンテーション コマンド 86
xCommand Presentation Start 86
xCommand Presentation Stop 86

プリセット コマンド 87
xCommand Preset Activate 87
xCommand Preset Clear 87
xCommand Preset Store 87

プロビジョニング コマンド 88
xCommand Provisioning StartUpgrade 88

セキュリティ コマンド 88
xCommand Security FIPSMode Activate 88

スタンバイ コマンド 89
xCommand Standby Activate 89
xCommand Standby Deactivate 89
xCommand Standby ResetTimer 89

SystemUnit コマンド 89
xCommand SystemUnit AdminPassword Set 89
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile CancelChange 91
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile Change 91
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile List 91
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile Remove 91
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile SaveCurrentConfigurationAs 91
xCommand SystemUnit DateTime Get 90
xCommand SystemUnit DateTime Set 90
xCommand SystemUnit FactoryReset 90
xCommand SystemUnit MenuPassword Set 90
xCommand SystemUnit MenuPassword Validate 90
xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll 91
xCommand SystemUnit OptionKey Add 89
xCommand SystemUnit ReleaseKey Add 89
xCommand SystemUnit ReleaseKey List 92
xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade 91

ビデオ コマンド 92
xCommand Video Layout LoadDb 93
xCommand Video Layout SetPresentationView 92
xCommand Video PictureLayoutSet 92

試験的コマンド 93

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

オーディオ コマンド

xCommand Audio Microphones Mute

すべてのマイクロフォンをミュートにします。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand Audio Microphones Mute
*r AudioMicrophonesMuteResult (status=OK):
** end
```

xCommand Audio Microphones Unmute

マイクロフォンのミュートを解除します。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand Audio Microphones Unmute
*r AudioMicrophonesUnmuteResult (status=OK):
** end
```

xCommand Audio Sound Play

指定したオーディオ サウンドを再生します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Sound(r): <Busy/CallWaiting/Dial/KeyTone/Ringing/SpecialInfo/TelephoneCall/VideoCall>
Loop: <On/Off>

例:

```
xCommand Audio Sound Play Sound: Ringing
*r AudioSoundPlayResult (status=OK):
** end
```

xCommand Audio Sound Stop

オーディオ サウンドを停止します。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand Audio Sound Stop
*r AudioSoundStopResult (status=OK):
** end
```

予約コマンド

xCommand Bookings List

システムに保存された予約を表示します。予約の詳細のリストは管理システムから受信されます。すべてのパラメータはオプションで、検索結果を制限するために使用できます。

パラメータを指定しない場合、過去、現在、将来の予約がすべて表示されます。昨日より前の予約をリストしないようにするには、DayOffset = 0 を使用します。

Days : 予約を取得する日数。

DayOffset : 検索を開始する日 (今日 : 0、明日 : 1…) です。

Limit : リストする予約の最大数。

Offset : この検索の予約のオフセット番号。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Days: <1..365>
DayOffset: <0..365>
Limit: <1..65534>
Offset: <0..65534>

例:

例 1 (リストに 1 つの予約)

```
xCommand Bookings List
OK
*r Bookings ResultInfo TotalRows: 1
*r Bookings LastUpdated: "2011-09-02T11:19:01Z"
*r Bookings Booking 1 Id: "273"
*r Bookings Booking 1 Title: "Sales meeting"
*r Bookings Booking 1 Agenda: "Describe this command"
*r Bookings Booking 1 Privacy: Public
*r Bookings Booking 1 Organizer FirstName: "Ola"
*r Bookings Booking 1 Organizer LastName: "Normann"
*r Bookings Booking 1 Organizer Email: "ola.normann@domain.com"
*r Bookings Booking 1 Time StartTime: "2011-09-02T13:00:00Z"
*r Bookings Booking 1 Time StartTimeBuffer: 600
*r Bookings Booking 1 Time EndTime: "2011-09-02T13:30:00Z"
*r Bookings Booking 1 Time EndTimeBuffer: 0
*r Bookings Booking 1 MaximumMeetingExtension: 30
*r Bookings Booking 1 MeetingExtensionAvailability: Guaranteed
*r Bookings Booking 1 BookingStatus: OK
*r Bookings Booking 1 BookingStatusMessage: ""
*r Bookings Booking 1 Webex Enabled: True
*r Bookings Booking 1 Webex Url: "http://webex.url"
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

```
*r Bookings Booking 1 Webex MeetingNumber: "webexNumber@cisco.com"
*r Bookings Booking 1 Webex Password: ""
*r Bookings Booking 1 Webex HostKey: ""
*r Bookings Booking 1 Webex DialInNumbers DialInNumber 1 Type: TollFree
*r Bookings Booking 1 Webex DialInNumbers DialInNumber 1 Number: "+1 987
654321"
*r Bookings Booking 1 Webex DialInNumbers DialInNumber 2 Type: Toll
*r Bookings Booking 1 Webex DialInNumbers DialInNumber 2 Number: "+1 987
654322"
*r Bookings Booking 1 InteropBridge Number: ""
*r Bookings Booking 1 InteropBridge ConferenceId: ""
*r Bookings Booking 1 ManualCallIn Number: ""
*r Bookings Booking 1 ManualCallIn ConferenceId: ""
*r Bookings Booking 1 ManualCallIn ConferencePassword: ""
*r Bookings Booking 1 Encryption: BestEffort
*r Bookings Booking 1 Role: Slave
*r Bookings Booking 1 Recording: Disabled
*r Bookings Booking 1 DialInfo Calls Call 1 Number: "91123456;conference-
id=2100170569"
*r Bookings Booking 1 DialInfo Calls Call 1 Protocol: SIP
*r Bookings Booking 1 DialInfo Calls Call 1 CallRate: 3000
*r Bookings Booking 1 DialInfo Calls Call 1 CallType: Video
*r Bookings Booking 1 DialInfo ConnectMode: OBTP
** end
```

例 2（予約が受信されなかった場合、またはすべての予約がコマンド xCommand Bookings Clear によって削除された後）

```
xCommand Bookings List
OK
*r Bookings Error: "No bookings found."
*r Bookings ResultInfo TotalRows: 0
*r Bookings LastUpdated: Never
** end
```

xCommand Bookings Clear

現在の予約の保存されたリストを消去します。

必要なユーザ ロール：USER

例：

```
xCommand Bookings Clear
** end
OK
```

ブート コマンド

xCommand Boot

システムを再起動します。

処理：デフォルトとしてリブートするとシステムが再起動します。Shutdown を選択すると、システムは再起動しません。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

Action: <Restart/Shutdown>

例：

```
xCommand Boot
*r BootResult (status=OK):
** end
OK
CUIL reboot request, restarting
Connection closed by foreign host.
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

コール コマンド

xCommand Call Accept

着信コールを受け入れます。CallId が指定されない場合、すべての着信コールが受け入れられます。CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CallId: <0..65534>

例:

```
xCommand Call Accept CallId:19
OK
*r CallAcceptResult (status=OK):
** end
```

xCommand Call Reject

着信コールを拒否します。CallId が指定されない場合、すべての着信コールが拒否されます。CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CallId: <0..65534>

例:

```
xCommand Call Reject CallId:20
OK
*r CallRejectResult (status=OK):
** end
```

xCommand Call Disconnect

コールを接続解除します。CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CallId(r): <0..65534>

例:

```
xCommand Call Disconnect CallId:17
OK
*r DisconnectCallResult (status=OK):
** end
```

xCommand Call DisconnectAll

すべてのアクティブ コールを切断します。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand Call DisconnectAll
OK
*r DisconnectAllResult (status=OK):
** end
```

xCommand Call Hold

コールを保留にします。CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CallId(r): <0..65534>

例:

```
xCommand Call Hold CallId:19
OK
*r CallHoldResult (status=OK):
** end
```

xCommand Call Join

アクティブな、および保留状態の既存のコールすべてに参加します。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand Call Join
OK
*r CallJoinResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Call Resume

保留されていたコールを再開します。CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CallId(r): <0..65534>

例:

```
xCommand Call Resume CallId:19
OK
*r CallResumeResult (status=OK):
** end
```

xCommand Call ExtendConference

指定された CallId を持つコールの会議を延長するよう要求します。

このコマンドを適用するには、次のことが必要です。

1) xStatus Conference Site <CallId> ConferenceExtended の結果が NotExtended: *s Conference Site <CallId> ConferenceExtended: NotExtended である必要があります。

2) 予約リスト コマンドからの次のタグが、0 より大きい値である必要があります。

*r Bookings Booking <bookingNumber> MaximumMeetingExtension: "30"

注 : このコマンドは、遠端への拡張要求の結果ではなく、このコマンドの結果自体を返します。拡張要求の結果は別のイベントにより提供されます。

CallId : 疑わしいコールの CallId。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CallId(r): <0..65534>

例:

```
xCommand Call ExtendConference CallId: 1
OK
*r CallExtendConferenceResult (status=OK)
** end
```

CallLog コマンド

xCommand CallLog Clear

システムに保存されたコール ログをクリアします。引数として logtag が指定された場合、指定したコールがログから削除されます。logtag を指定しなかった場合、すべてのコール ログが削除されます。コールの LogTag 値は xHistory CallLog Call コマンドを発行して検索します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

LogTag: <0..2147483647>

例:

```
xCommand CallLog Clear
*r ClearResult (status=OK):
** end
```

xCommand CallLog Recent Delete

最近のコールのコール ログを削除します。引数として logtag が指定された場合、指定したコールがログから削除されます。logtag を指定しなかった場合、最近のコール ログ全体が削除されます。最近のコールの LogTag 値は xHistory CallLog Recent コマンドを発行して検索します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

LogTag: <0..2147483647>

例:

```
xCommand CallLog Recent Delete
*r DeleteResult (status=OK):
** end
```

xCommand CallLog Outgoing Delete

発信コールのコール ログを削除します。引数として logtag が指定された場合、指定したコールがログから削除されます。logtag を指定しなかった場合、発信コール ログ全体が削除されます。発信コールの LogTag 値は xHistory CallLog Outgoing コマンドを発行して検索します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

LogTag: <0..2147483647>

例:

```
xCommand CallLog Outgoing Delete LogTag:202
*r DeleteResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand CallLog Received Delete

受信コールのコール ログを削除します。引数として logtag が指定された場合、指定したコールがログから削除されます。logtag を指定しなかった場合、受信コール ログ全体が削除されます。受信コールの LogTag 値は xHistory CallLog Received コマンドを発行して検索します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

LogTag: <0..2147483647>

例:

```
xCommand CallLog Received Delete LogTag:126
*r DeleteResult (status=OK):
** end
```

xCommand CallLog Missed Delete

不在着信のコール ログを削除します。引数として logtag が指定された場合、指定したコールがログから削除されます。logtag を指定しなかった場合、不在着信ログ全体が削除されます。不在着信 LogTag 値は xHistory CallLog Missed コマンドを発行して検索します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

LogTag: <0..2147483647>

例:

```
xCommand CallLog Missed Delete LogTag:119
*r DeleteResult (status=OK):
** end
```

xCommand CallLog Missed Dismiss

拒否されたコールのコール ログを参照します。引数として logtag が指定された場合、指定したコールがログから削除されます。logtag を指定しなかった場合、不在着信ログ全体が削除されます。不在着信 LogTag 値は xHistory CallLog Missed コマンドを発行して検索します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

LogTag: <0..2147483647>

例:

```
xCommand CallLog Missed Dimissed LogTag:119
*r DismissResult (status=OK):
** end
```

CamCtrlPip コマンド

xCommand CamCtrlPip

小さなウィンドウ（ピクチャ イン ピクチャ）のカメラのセルフビューを表示または非表示にします。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Mode(r): <On/Off>

例:

```
xCommand CamCtrlPip Mode: On
*r CamCtrlPipResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

カメラ コマンド

xCommand Camera PanTiltReset

カメラがパンと傾斜のデフォルト値にリセットされます。カメラがデイジー チェーン接続されている場合、チェーンでの位置によって CameraId が指定されます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CameraId(r): <1..1>

例:

```
xCommand Camera PanTiltReset CameraId:1
OK
*r PanTiltResetResult (status=OK):
** end
```

xCommand Camera PositionReset

カメラの位置をデフォルト位置にリセットします。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CameraId(r): <1..1>

例:

```
xCommand Camera PositionReset CameraId:1
OK
*r CameraPositionResetResult (status=OK):
** end
```

xCommand Camera PositionSet

パン、傾斜、ズーム、焦点のパラメータを指定してカメラを位置指定します。カメラがデイジー チェーンに配置されている場合、指定するカメラの CameraId を知っておく必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

CameraId(r): <1..1>
Pan: <-65535..65535>
Tilt: <-65535..65535>
Zoom: <0..65535>
Focus: <0..65535>

例:

```
xCommand Camera PositionSet CameraId:1 Pan:200 Tilt:300
OK
*r CameraPositionSetResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Camera Ramp

指定された方向にカメラを移動します。カメラは指定した速度で停止コマンドが発行されるまで移動します。デイジー チェーンでは、指定するカメラの CameraId を知っておく必要があります。パンと傾斜は同時に操作できますが、その他の組み合わせはできないことに注意してください。後者の場合、指定された最初の動作だけ実行されます。たとえば、ズームとパンの両方を同時に実行しようとすると、ズームだけが実行されます。

注 : カメラを停止するために、停止コマンドを実行する必要があります。下の例を参照してください。

CameraId : カメラ ID を指定します。

Pan : カメラを左右に移動します。Stop が後に続きます。

PanSpeed : パン速度を設定します。

Tilt : カメラを上下に移動します。Stop が後に続きます。

TiltSpeed : 傾斜速度を設定します。

Zoom : カメラを Zoom In または Out します。Stop が後に続きます。

ZoomSpeed : ズーム速度を設定します。

Focus : カメラの焦点を Far または Near にします。Stop が後に続きます。

必要なユーザ ロール : USER

パラメータ :

CameraId(r): <1..1>
Pan: <Left/Right/Stop>
PanSpeed: <1..15>
Tilt: <Down/Up/Stop>
TiltSpeed: <1..15>
Zoom: <In/Out/Stop>
ZoomSpeed: <1..15>
Focus: <Far/Near/Stop>

例 :

```
xCommand Camera Ramp CameraId:1 Pan:left PanSpeed:1
OK
*r RampResult (status=OK):
** end
xCommand Camera Ramp CameraId:1 Pan:stop
OK
*r RampResult (status=OK):
** end
```

xCommand Camera TriggerAutofocus

オートフォーカス機能をトリガーします。カメラが、オートフォーカス機能をサポートしている必要があります。カメラがデイジー チェーン接続されている場合、チェーンでの位置によって CameraId が指定されます。

必要なユーザ ロール : USER

パラメータ :

CameraId(r): <1..1>

例 :

```
xCommand Camera TriggerAutofocus CameraId:1
OK
*r TriggerAutofocusResult (status=OK):
** end
```

xCommand Camera PositionActivateFromPreset

指定プリセットから特定のカメラ ID のパン、傾斜、ズームおよび焦点パラメータを選択します。

CameraId : カメラ ID を指定します。

PresetId : プリセット 1 ～ 15 を選択します。

必要なユーザ ロール : USER

パラメータ :

CameraId(r): <1..1>
PresetId(r): <1..15>

例 :

```
xCommand Camera PositionActivateFromPreset CameraId:1 PresetID:1
OK
*r PositionActivateFromPresetResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Camera Preset Activate

このコマンドを使用すると、保存されているカメラのプリセットをアクティブにします。

注：xCommand Camera Preset コマンドは、個別のカメラのカメラ位置を保存するために使用されます。これは、接続カメラすべてとビデオ入力のスイッチャ設定とを単一のプリセットに保存し呼び出す xCommand Preset コマンドとは対照的です。全カメラの位置のセットとしてではなく、各カメラに個別に複数のカメラ位置を保存するインテグレーションにいっそう適しています。

PresetId：アクティブにするプリセット番号。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId(r): <1..35>

例：

```
xCommand Camera Preset Activate PresetId: 1
OK
*r CameraPresetActivateResult (status=OK)
** end
```

xCommand Camera Preset Edit

保存されているカメラのプリセットを編集します。

注：xCommand Camera Preset コマンドは、個別のカメラのカメラ位置を保存するために使用されます。これは、接続カメラすべてとビデオ入力のスイッチャ設定とを単一のプリセットに保存し呼び出す xCommand Preset コマンドとは対照的です。全カメラの位置のセットとしてではなく、各カメラに個別に複数のカメラ位置を保存するインテグレーションにいっそう適しています。

PresetId：編集にするプリセット番号。

ListPosition：xCommand Camera Preset List の結果のソート順序位置。

Name：xCommand Camera Preset List の結果のプリセットの名前。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId(r): <1..35>

ListPosition: <1..35>

Name: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Camera Preset Edit PresetId: 1 ListPosition: 1 Name: ""
OK
*r CameraPresetEditResult (status=OK)
** end
```

xCommand Camera Preset List

使用可能なカメラ プリセットに関する情報をリストします。

注：xCommand Camera Preset コマンドは、個別のカメラのカメラ位置を保存するために使用されます。これは、接続カメラすべてとビデオ入力のスイッチャ設定とを単一のプリセットに保存し呼び出す xCommand Preset コマンドとは対照的です。全カメラの位置のセットとしてではなく、各カメラに個別に複数のカメラ位置を保存するインテグレーションにいっそう適しています。

PresetId：指定プリセットのフィルタ。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId: <1..35>

例：

```
xCommand Camera Preset List PresetId: 1
OK
*r CameraPresetListResult (status=OK)
** end
```

xCommand Camera Preset Remove

カメラ プリセットを削除します。

注：xCommand Camera Preset コマンドは、個別のカメラのカメラ位置を保存するために使用されます。これは、接続カメラすべてとビデオ入力のスイッチャ設定とを単一のプリセットに保存し呼び出す xCommand Preset コマンドとは対照的です。全カメラの位置のセットとしてではなく、各カメラに個別に複数のカメラ位置を保存するインテグレーションにいっそう適しています。

PresetId：削除するカメラ プリセットの ID。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId(r): <1..35>

例：

```
xCommand Camera Preset Remove PresetId: 1
OK
*r CameraPresetRemoveResult (status=OK)
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Camera Preset Store

新しいカメラ プリセットを追加します。

注：xCommand Camera Preset コマンドは、個別のカメラのカメラ位置を保存するために使用されます。これは、接続カメラすべてとビデオ入力のスイッチャ設定とを単一のプリセットに保存し呼び出す xCommand Preset コマンドとは対照的です。全カメラの位置のセットとしてではなく、各カメラに個別に複数のカメラ位置を保存するインテグレーションにいっそう適しています。

PresetId：このプリセットのオプション ID。

CameraId：位置を保存するカメラ。

ListPosition：新しいプリセットのソート順序。

Name：プリセット リストで使用する名前。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId: <1..35>

CameraId: <1..1>

ListPosition: <1..35>

Name: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Camera Preset Store PresetId: 1 CameraId: 1 ListPosition: 1 Name ""
OK
*r CameraPresetStoreResult (status=OK)
** end
```

会議コマンド

xCommand Conference DoNotDisturb Activate

このコマンドは割り込み不可をオンにし、Timeout パラメータによっていつ再びオフにするかを制御できます。これは xConfiguration Conference DoNotDisturb Mode が Timed に設定された場合にだけ有効になります。

割り込み不可がオンの場合、すべての着信コールは拒否され、不在履歴として登録されます。発信者はビジー信号を受信します。

Timeout：Do Not Disturb がオフにされるまでの分数。設定されない場合、Do Not Disturb は 1440 分後にタイムアウトになります。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

Timeout: <0..1440>

例：

```
xCommand Conference DoNotDisturb Activate
*r ActivateResult:
** end
```

xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate

このコマンドは、割り込み不可をオフにします。このコマンドは xConfiguration Conference DoNotDisturb Mode が Timed に設定された場合にだけ有効になります。

割り込み不可がオフになると、着信コールは通常どおり着信します。

必要なユーザ ロール：USER

例：

```
xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate
*r DeactivateResult:
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

ダイヤル コマンド

xCommand Dial

システムからダイヤルします。他のコマンドの一部で必要な CallId および ConferenceId に関する情報を返します。

Number：番号またはアドレスを入力します。

Protocol：H323 または SIP プロトコルを選択します。

CallRate：コール レートを設定します。

CallType：オーディオまたはビデオ コール タイプを選択します。

BookingId：外部予約システム（TMS、CTS-MAN など）が、着信コールと予約システムの会議用内部 ID との照合での自己参照に使用可能な ID。これはどのような文字列にすることもできます(GUID など)。予約 ID はコールのコール ログ、コール イベントなどで提供されます。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

Number(r): <S: 0, 255>
Protocol: <H323/Sip>
CallRate: <64..6000>
CallType: <Audio/Video>
BookingId: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Dial Number:543210 Protocol:h323
OK
*r DialResult (status=OK):
CallId: 2
ConferenceId: 1
** end
```

DTMFSend コマンド

xCommand DTMFSend

遠端に DTMF トーンを送信します。

CallID：CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

DTMFString：DTMF ストリングを入力します。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

CallId: <0..65534>
DTMFString(r): <S: 0, 32>

例：

```
xCommand DTMFSend CallId:2 DTMFString:1234
*r DTMFSendResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

FacilityService コマンド

xCommand FacilityService Dial

システムからファシリティ サービスにダイヤルします。最大 5 個のファシリティ サービスを定義できます。ダイヤル先は ServiceId によって識別されます（参照：xConfiguration Facility Service [ServiceId] Type/Name/Number/CallType）。コマンドは CallId および ConferenceId に関する情報を返します。

ServiceId：ファシリティ サービスの ID。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

ServiceId(r): <1..5>

例：

```
xCommand FacilityService Dial ServiceId: 1
OK
*r FacilityServiceDialResult (status=OK):
   CallId: 2
   ConferenceId: 1
** end
```

FarEndControl コマンド

xCommand FarEndControl Camera Move

遠端カメラ（リモート カメラ）を動かします。注：遠端カメラは停止コマンド（参照：xCommand FarEndControl Camera Stop）が発行されるまで、指定された方向に移動を続けます。

CallID：CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

Value：カメラを移動する方法のアクションを選択します。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

CallId: <0..65534>

Value(r): <Left/Right/Up/Down/ZoomIn/ZoomOut>

例：

```
xCommand FarEndControl Camera Move CallId:3 Value:left
*r FECCMoveResult (status=OK):
** end
```

xCommand FarEndControl Camera Stop

xCommand FarEndControl Camera Move が発行された後に遠端カメラを停止します。

CallID：CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

CallId: <0..65534>

例：

```
xCommand FarEndControl Camera Stop CallId:3
*r FECCMoveResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand FarEndControl Preset Activate

カメラ プリセット位置に遠端カメラを移動します。

CallID：CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

PresetId：遠端制御用の PresetId は遠端コーデックから取得する必要があります。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

CallId: <0..65534>

PresetId(r): <1..15>

例：

```
xCommand FarEndControl Preset Activate CallId:3 PresetId:1
*r FECCPresetActivateResult (status=OK):
** end
```

xCommand FarEndControl Preset Store

遠端カメラの位置をカメラ プリセットに保存します。

CallID：CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

PresetId：遠端制御用の PresetId は遠端コーデックから取得する必要があります。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

CallId: <0..65534>

PresetId(r): <0..15>

例：

```
xCommand FarEndControl Preset Store CallId:3 PresetId:1
*r FECCPresetStoreResult (status=OK):
** end
```

xCommand FarEndControl Source Select

遠端システムの主なソースとして使用するビデオ入力ソースを選択します。

CallID：CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

SourceId：遠端のビデオ入力ソースを選択します。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

CallId: <0..65534>

SourceId(r): <0..15>

例：

```
xCommand FarEndControl Source Select CallId:3 SourceId:1
*r FECCSelectSourceResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

HttpFeedback コマンド

xCommand HttpFeedback Register

特定の URL に HTTP(S) で XML フィードバックを返すため、HTTP(S) サーバにシステムを登録します。

FeedbackSlot：フィードバックのため、1 ～ 4 個のスロットを指定できます。

ServerUrl：HTTP(S) サーバの URL を定義します。

Expression[1..15]：ステータスおよびコンフィギュレーション XML ドキュメントのどの部分をモニタ対象とするか、XPath の表現で指定されます。1 ～ 15 の XPath 表現を指定できます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

FeedbackSlot: <1..4>

ServerUrl(r): <S: 1, 2048>

Expression[1..15]: <S: 1, 255>

例：

```
xCommand HttpFeedback Register FeedbackSlot:1 ServerUrl:10.47.19.41
Expression[1]:Status/Video Expression[2]:Status/Audio Expression[3]:Status/
Call Expression[4]:Status/Conference
OK
*r FeedbackRegisterResult (status=OK):
FeedbackSlot: 1
** end
```

xCommand HttpFeedback Deregister

HTTP(S) を介した XML フィードバックの登録を解除します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

FeedbackSlot(r): <1..4>

例：

```
xCommand HttpFeedback Deregister FeedbackSlot:1
OK
*r FeedbackDeregisterResult (status=OK):
FeedbackSlot: 1
** end
```

キー コマンド

xCommand Key Click

リモート コントロール キー押下と後に続くキー解放をエミュレートします。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Key(r): <0/1/2/3/4/5/6/7/8/9/C/Call/Disconnect/Down/F1/F2/F3/F4/F5/Grab/Home/Layout/Left/Mute/MuteMic/Ok/PhoneBook/Presentation/Right/Selfview/Square/SrcAux/SrcCamera/SrcDocCam/SrcPc/SrcVcr/Star/Up/VolumeDown/VolumeUp/ZoomIn/ZoomOut>

例：

```
xCommand Key Click Key:Down
*r KeyClickResult (status=OK):
** end
```

xCommand Key Press

リモート コントロールのキーを押したままにする状態をエミュレートします。Key Press の後には、Key Release コマンドを続けてキー解放をエミュレートする必要があります。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Key(r): <0/1/2/3/4/5/6/7/8/9/C/Call/Disconnect/Down/F1/F2/F3/F4/F5/Grab/Home/Layout/Left/Mute/MuteMic/Ok/PhoneBook/Presentation/Right/Selfview/Square/SrcAux/SrcCamera/SrcDocCam/SrcPc/SrcVcr/Star/Up/VolumeDown/VolumeUp/ZoomIn/ZoomOut>

例：

```
xCommand Key Press Key:Home
*r KeyPressResult (status=OK):
** end
```

xCommand Key Release

リモート コントロールのキー解放をエミュレートします。Key Release コマンドは Key Press コマンドの後に発行されます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Key(r): <0/1/2/3/4/5/6/7/8/9/C/Call/Disconnect/Down/F1/F2/F3/F4/F5/Grab/Home/Layout/Left/Mute/MuteMic/Ok/PhoneBook/Presentation/Right/Selfview/Square/SrcAux/SrcCamera/SrcDocCam/SrcPc/SrcVcr/Star/Up/VolumeDown/VolumeUp/ZoomIn/ZoomOut>

例：

```
xCommand Key Release Key:Home
*r KeyReleaseResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

メッセージ コマンド

xCommand Message Alert Display

指定された長さの時間（秒）、メッセージを画面に表示します。注：時間が設定されていない場合、このコマンドの後に xCommand Message Alert Clear コマンドが必要です。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

Title：メッセージのタイトルを入力します。

Text：表示するメッセージを入力します。

Duration：メッセージが画面に表示される長さを設定します（秒単位）。0（ゼロ）に設定すると xCommand Message Alert Clear メッセージが送信されるまでメッセージは消えません。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Title: <S: 0, 255>

Text(r): <S: 0, 255>

Duration: <0..3600>

例：

```
xCommand Message Alert Display Title: "Message" Text: "The meeting will
end in 5 minutes." Duration: 20
OK
*r MessageAlertDisplayResult (status=OK):
** end
```

xCommand Message Alert Clear

xCommand Message Alert Display コマンドを使用して表示されたメッセージを削除します。Duration パラメータが設定されていない場合、これは必須です。

必要なユーザ ロール：ADMIN

例：

```
xCommand Message Alert Clear
OK
*r MessageAlertClearResult (status=OK):
** end
```

xCommand Message TextLine Display

画面にテキスト行を表示します。オプションとして、指定した場所に、指定された長さの時間（秒単位）テキスト行を配置できます。注：時間が設定されていない場合、このコマンドの後に xCommand Message TextLine Clear コマンドが必要です。

Text：表示されるテキスト行を入力します。

X：画面の X 座標（水平）を入力します。X=0 では左上隅に表示されます。

Y：画面の Y 座標（垂直）を入力します。Y=0 では左上隅に表示されます。

Duration：テキスト行が画面に表示される長さを設定します（秒単位）。0（ゼロ）に設定すると、xCommand Message TextLine Clear が送信されるまでテキスト行が表示されます。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Text(r): <S: 0, 140>

X: <1..10000>

Y: <1..10000>

Duration: <0..3600>

例：

```
xCommand Message TextLine Display Text: "The message to be displayed."
X:500 Y:2000 Duration: 20
OK
*r MessageTextLineDisplayResult (status=OK):
** end
```

xCommand Message TextLine Clear

xCommand Message TextLine Display コマンドで定義されたテキスト行をクリアします。

必要なユーザ ロール：ADMIN

例：

```
xCommand Message TextLine Clear
OK
*r MessageTextLineClearResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Message Prompt Display

ユーザからの応答のために、タイトル、テキストおよび 5 個のオプションを持つ小さなウィンドウを画面に表示します。メッセージは、ユーザが応答するか、システムが xCommand Message Prompt Clear コマンドを受信するまで画面に表示されます。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

Title：メッセージのタイトルを入力します。

Text：メッセージを入力します。

FeedbackId: フィードバックを識別するには FeedbackId を入力します。

Option.1 ～ Option.5：フィードバック オプションに表示されるテキストを入力します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Title: <S: 0, 255>
Text(r): <S: 0, 255>
FeedbackId: <S: 0, 255>
Option.1: <S: 0, 255>
Option.2: <S: 0, 255>
Option.3: <S: 0, 255>
Option.4: <S: 0, 255>
Option.5: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Message Prompt Display Title: "Meeting extension" Text: "The
meeting is about to end. Do you want to extend the meeting?" Option.1:
"No" Option.2: "Yes, extend with 5 minutes" Option.3: "Yes, extend with 10
minutes"
OK
*r MessagePromptDisplayResult (status=OK):
** end
```

xCommand Message Prompt Clear

xCommand Message Alert Display コマンドを使用して表示されたウィンドウを削除します。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

FeedbackId：FeedbackId は xCommand Message Prompt Display コマンドによって指定された FeedbackId に対応します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

FeedbackId: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Message Prompt Clear
OK
*r MessagePromptClearResult (status=OK):
** end
```

xCommand Message Prompt Response

xCommand Message Prompt Display への応答を提供します。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

FeedbackId：FeedbackId は xCommand Message Prompt Display コマンドによって指定された FeedbackId に対応します。

OptionId：OptionId は xCommand Message Prompt Display コマンドで可能な応答として指定された OptionId に対応します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

FeedbackId: <S: 0, 255>
OptionId(r): <1..5>

例：

```
xCommand Message Prompt Response OptionId: 1
OK
*r MessagePromptResponseResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Message Echo

コマンドを発行すると、API に message-echo イベントを生成させます。コマンドはコーデックに他の影響は与えません。用途は、制御システムまたは外部のデバイス / システムからコーデックをポーリングすることです。フィードバックを監視するには xFeedback コマンドを使用します。一般的な API の概要についてのセクションで、xFeedback コマンドの詳細を確認できます。

Text：エコーさせるテキストを入力します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Text: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Message Echo Text:" MyEchoListner99"
*** end
* e Message Echo Text: "MyEchoListner99"
```

電話帳コマンド

xCommand Phonebook Folder Add

電話帳エントリを格納できるローカル電話帳にフォルダを追加します。フォルダの一意の ID である FolderId（localGroupId-3）を返します。

Name(r)：フォルダの名前。

ParentFolderId：前回 xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行されたときに作成された、親フォルダの固有識別情報。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Name(r): <S: 0, 255>

ParentFolderId: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Phonebook Folder Add Name: "New York Office"
OK
*r PhonebookFolderAddResult (status=OK):
 Name: localGroupId-3
** end
```

xCommand Phonebook Folder Modify

既存の電話帳フォルダを変更します。

FolderId：xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行されたときに作成された、フォルダの固有識別情報。

Name(r)：連絡先の名前。

ParentFolderId：xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行されたときに作成された、親フォルダの固有識別情報。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

FolderId(r): <S: 0, 255>

Name: <S: 0, 255>

ParentFolderId: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Phonebook Folder Modify FolderId:localGroupId-3 Name: "New York
Head Office"
OK
*r PhonebookFolderModifyResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Phonebook Folder Delete

ローカル電話帳から既存のフォルダを削除します。

FolderId：xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行されたときに作成された、フォルダの固有識別情報。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

FolderId(r): <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Phonebook Folder Delete FolderId:localGroupId-3
OK
*r PhonebookFolderDeleteResult (status=OK):
** end
```

xCommand Phonebook Contact Add

ローカル電話帳に新しい連絡先を追加します。内部でシステムに保存されます。連絡先の一意の ID である ContactId（名前：localContactId-1）を返します。

Name：連絡先の名前。

FolderId：xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行されたときに作成された、フォルダの固有識別情報。

ImageURL：イメージの URL。

Title：連絡先のタイトル。

Number：連絡先の電話番号またはアドレス。

Protocol：H323 または SIP プロトコルを選択します。

CallRate：コール レートを設定します。

CallType：コール タイプを選択します（オーディオまたはビデオ）。

Device：デバイス タイプを選択します。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Name(r): <S: 0, 255>
FolderId: <S: 0, 255>
ImageURL: <S: 0, 255>
Title: <S: 0, 255>
Number: <S: 0, 255>
Protocol: <H323/SIP>
CallRate: <0..65534>
CallType: <Audio/Video>
Device: <Mobile/Other/Telephone/Video>

例：

```
xCommand Phonebook Contact Add Name: "John Doe" Number:12345
OK
*r PhonebookContactAddResult (status=OK):
Name: localContactId-1
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Phonebook Contact Modify

ローカル電話帳の既存の連絡先の連絡先の細部を変更します。

ContactId：xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行されたときに作成された、連絡先の固有識別情報。

Name：連絡先の名前。

FolderId：xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行されたときに作成された、フォルダの固有識別情報。

ImageURL：イメージの URL。

Title：連絡先のタイトル。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

ContactId(r): <S: 0, 255>

Name: <S: 0, 255>

FolderId: <S: 0, 255>

ImageURL: <S: 0, 255>

Title: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Phonebook Contact Modify ContactId:localContactId-1 Name: "John
Doe - office"
OK
*r PhonebookContactModifyResult (status=OK):
** end
```

xCommand Phonebook Contact Delete

ローカル電話帳から既存の連絡先を削除します。

ContactId：xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行されたときに作成された、連絡先の固有識別情報。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

ContactId(r): <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Phonebook Contact Delete ContactId:localContactId-1
OK
*r PhonebookContactDeleteResult (status=OK):
** end
```

xCommand Phonebook ContactMethod Add

ローカル電話帳の既存の連絡先にコール セットアップに関する細部を追加します。連絡方法の一意の ID である ContactMethodId（名前：1）を返します。

ContactId：xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行されたときに作成された、連絡先の固有識別情報。

Device：コール先デバイスのタイプを設定します。

Number(r)：連絡先の電話番号またはアドレス。

Protocol：H323 または SIP プロトコルを選択します。

CallRate：コール レートを設定します。

CallType：コール タイプを選択します（オーディオまたはビデオ）。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

ContactId(r): <S: 0, 255>

Device: <Mobile/Other/Telephone/Video>

Number(r): <S: 0, 255>

Protocol: <H323/SIP>

CallRate: <0..65534>

CallType: <Audio/Video>

例：

```
xCommand Phonebook ContactMethod Add ContactId:localContactId-2
Number:54321 Protocol:H323
OK
*r PhonebookContactMethodAddResult (status=OK):
Name: 1
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Phonebook ContactMethod Modify

ローカル電話帳の既存の連絡先のコール セットアップに関する細部を変更します。

ContactId：連絡先の固有識別情報。これは xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行されたときに作成されています。

ContactMethodId：連絡方法の固有識別情報。これは xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドが発行されたときに作成されています。

Device：コール先デバイスのタイプを設定します。

Number：連絡先の電話番号またはアドレス。

Protocol：H323 または SIP プロトコルを選択します。

CallRate：コール レートを設定します。

CallType：コール タイプを選択します（オーディオまたはビデオ）。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

ContactId(r): <S: 0, 255>
ContactMethodId(r): <S: 0, 255>
Device: <Mobile/Other/Telephone/Video>
Number: <S: 0, 255>
Protocol: <H323/SIP>
CallRate: <0..65534>
CallType: <Audio/Video>

例：

```
xCommand Phonebook ContactMethod Modify ContactMethodId:117
ContactId:localContactId-10 Number:"newnumber@cisco.com"
OK
```

xCommand Phonebook ContactMethod Delete

ローカル電話帳の既存の連絡先のコール セットアップに関する細部を削除します。

ContactId：xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行されたときに作成された、連絡先の固有識別情報。

ContactMethodId：xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドが発行されたときに作成された、連絡方法の固有識別情報。

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

ContactId(r): <S: 0, 255>
ContactMethodId(r): <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Phonebook ContactMethod Delete ContactId:localContactId-2
ContactMethodId:1
OK
*r PhonebookContactMethodDeleteResult (status=OK):
** end
```

xCommand Phonebook Search

検索コマンドで、ローカルおよび社内電話帳のどちらでも検索することができます。検索は ResultSet を提供します。その他の例は、Developer Zone Web ページで参照できます。http://developer.tandberg.com/web/guest/howtos/cseries-api/phonebook を参照してください。

PhonebookId：使用する電話帳サーバの ID タグの値。xConfiguration Phonebook Server を参照してください。使用する必要はありません。

PhonebookType：検索する電話帳。ローカルの電話帳または社内電話帳のどちらかです。

SearchString：指定したストリングを含むエントリを検索します（先頭一致検索ではありません）。FolderId が指定されない場合、すべてのフォルダ / 電話帳ディレクトリの検索結果が得られます。SearchString パラメータは、ソフトウェア バージョン TC2.0 以降では任意です。

SearchField：現在使用されていません。

Offset：検索のこのオフセットで始まるレコードを取得します。デフォルトは 0 です。ページ移動をサポートするために Limit とともに使用されます。

FolderId:指定のフォルダだけを検索します。FolderId(文字列)が、検索結果を含むフォルダの ResultSet にリストされます。

Limit：結果セットのレコード数をこの数値に制限します。たとえば、Limit：10 では、ヒットした数がそれ以上であっても 10 エントリ（連絡先 + フォルダ）の Resultset だけを提供します。

Recursive：電話帳検索を再帰的にする場合に設定します。空の検索からの結果は、ディレクトリおよびディレクトリ内容の両方を返します。注：このコマンドは、ローカル ディレクトリに限り有効です。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PhonebookId: <S: 0, 255>
PhonebookType: <Corporate/Local>
SearchString: <S: 0, 255>
SearchField: <Name/Number>
Offset: <0..65534>
FolderId: <S: 0, 255>
Limit: <0..65534>
Recursive: <False/True>

例：

```
xCommand Phonebook Search PhonebookType:Corporate Limit:2
FolderId:"corporate _ 001"
OK
*r ResultSet ResultInfo TotalRows: 25
*r ResultSet Contact 1 Name: "/tmp"
*r ResultSet Contact 1 ContactId: "e _ 9664921"
*r ResultSet Contact 1 ContactMethod 1 ContactMethodId: "1"
*r ResultSet Contact 1 ContactMethod 1 Number: "H323:/John.Doe.Office@
company.com"
*r ResultSet Contact 1 ContactMethod 1 Protocol: H323
*r ResultSet Contact 1 ContactMethod 2 ContactMethodId: "2"
*r ResultSet Contact 1 ContactMethod 2 Number: "SIP:/John.Doe.Office@
company.com"
*r ResultSet Contact 1 ContactMethod 2 Protocol: SIP
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

```
*r ResultSet Contact 2 Name: "Other"
*r ResultSet Contact 2 ContactId: "e_9468400"
*r ResultSet Contact 2 ContactMethod 1 ContactMethodId: "3"
*r ResultSet Contact 2 ContactMethod 1 Number: "H323:John.Doe.Home@
company.com"
*r ResultSet Contact 2 ContactMethod 1 Protocol: H323
*r ResultSet Contact 2 ContactMethod 2 ContactMethodId: "4"
*r ResultSet Contact 2 ContactMethod 2 Number: "SIP:John.Doe.Home@
company.com"
*r ResultSet Contact 2 ContactMethod 2 Protocol: SIP
** end
```

プレゼンテーション コマンド

xCommand Presentation Start

選択されたプレゼンテーション ソースからのメディア ストリームを開きます。

PresentationSource : プレゼンテーションに使用されるビデオ入力ソースを選択します。

必要なユーザ ロール : USER

パラメータ :

PresentationSource: <1..2>

例 :

```
xCommand Presentation Start PresentationSource:2
OK
*r PresentationStartResult (status=OK):
** end
```

xCommand Presentation Stop

プレゼンテーション ソースからのメディア ストリームを停止します。

必要なユーザ ロール : USER

例 :

```
xCommand Presentation Stop
OK
*r PresentationStopResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

プリセット コマンド

xCommand Preset Store

すべてのビデオ入力ソースのコネクタの選択、およびすべてのカメラの現在のカメラの位置を保存します。すべてのビデオ入力ソースおよびすべてのカメラの位置が各プリセットに含まれることに注意してください。システムは、15 の事前定義されたビデオ入力のプリセットを保持できます。

PresetId：プリセット 1 ～ 15 を選択します。

Type：Camera または All を選択します。現在のところ、Camera と All を選択した場合の違いはありません。

Description：カメラのプリセットの説明を入力します。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId(r): <1..15>

Type(r): <All/Camera>

Description: <S: 0, 255>

例：

```
xCommand Preset Store PresetId:3 Type:Camera Description:"Left view"
OK
*r PresetStoreResult (status=OK):
** end
```

xCommand Preset Activate

ローカル プリセットの 1 つをアクティブにします。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId(r): <1..15>

例：

```
xCommand Preset Activate PresetId:3
OK
*r PresetActivateResult (status=OK):
** end
```

xCommand Preset Clear

既存のプリセットを削除します。

必要なユーザ ロール：USER

パラメータ：

PresetId(r): <1..15>

例：

```
xCommand Preset Clear PresetId:3
OK
*r PresetClearResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

プロビジョニング コマンド

xCommand Provisioning StartUpgrade

コーデックのソフトウェアはプロビジョニング サーバからアップグレードできます。アップグレードを開始すると、ソフトウェアは自動的にダウンロードおよびインストールされます。コーデックは、ソフトウェア アップグレードを完了するためにリブートします。

必要なユーザ ロール：USER

例：

```
xCommand Provisioning StartUpgrade
*r StartUpgradeResult (status=OK):
** end
```

セキュリティ コマンド

xCommand Security FIPSMode Activate

FIPS (140-2) モードをアクティブにします。注：FIPS モードをアクティブにすると、出荷時のデフォルトへのリセットを意味します。

FIPS モードでは、ソフトウェア アップグレードがディセーブルになり、次の制限が適用されます。すべてのコールは暗号化され、Telnet や HTTP など、暗号化されていない通信プロトコルはすべて使用できません。IEEE802.1x と SNMP はディセーブルです。SIP プロファイル タイプ設定は Microsoft にはできません。root ユーザは使用できません (root 設定は変更できません)。

FIPS モードを終了するには、ファクトリ リセットを実行します。

確認：<Yes>

必要なユーザ ロール：ADMIN

パラメータ：

Confirm(r): <Yes>

例：

```
xCommand Security FIPSMode Activate Confirm: "Yes"
OK
*r SecurityFIPSModeActivateConfirmResult (status=OK)
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

スタンバイ コマンド

xCommand Standby Activate

システムをスタンバイ モードに設定します。つまり、ビデオ出力をオフにし、カメラをスリープ モードにします。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand Standby Activate
*r ActivateResult (status=OK):
** end
```

xCommand Standby Deactivate

システムをスタンバイ モードからウェークアップさせます。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand Standby Deactivate
*r DeactivateResult (status=OK):
** end
```

xCommand Standby ResetTimer

非固定的なスタンバイ遅延を設定します (分単位)。リセット タイマーが設定されたときにシステムがスタンバイ モードである場合、システムはスタンバイ モードからウェークアップされます。指定された遅延時間アイドル状態のままのとき、システムはスタンバイ モードに入ります。リセット タイマーの設定は、[Advanced configuration] メニューの [Standby Delay] (または xConfiguration Standby Delay による) に影響を与えません。次回は、この遅延が有効なスタンバイ遅延になります。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Delay(r): <1..480>

例:

```
xCommand Standby ResetTimer Delay:10
*r ResetResult (status=OK):
** end
```

SystemUnit コマンド

xCommand SystemUnit OptionKey Add

追加機能をサポートするオプション キーを追加します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

パラメータ:

Key(r): <S: 16, 24>

例:

```
xCommand SystemUnit OptionKey Add Key:******************
*r OptionKeyResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit ReleaseKey Add

ソフトウェア リリース キーを追加します。新しいソフトウェアをイネーブルにするために使用します (メイン ソフトウェア リリースに適用)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

パラメータ:

Key(r): <S: 16, 24>

例:

```
xCommand SystemUnit ReleaseKey Add Key:******************
*r ReleaseKeyResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit AdminPassword Set

コーデックへのアクセスを制限する管理者パスワードを設定します。コーデックの再起動後、このパスワードは Web インターフェイスにも適用されます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Password(r): <S: 0, 64>

例:

```
xCommand SystemUnit AdminPassword Set Password:***********
*r AdminPasswordSetResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand SystemUnit MenuPassword Set

[Administrator Settings] メニューへのアクセスを制限するためのメニュー パスワードを設定します。リモコンがある場合、画面上のメニューからもパスワードを設定できます。Cisco TelePresence タッチ コントローラがある場合、メニュー パスワードはコマンドライン インターフェイスから設定されます。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Password(r): <S: 0, 255>

例:

```
xCommand SystemUnit MenuPassword Set Password:***********
*r MenuPasswordSetResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit MenuPassword Validate

指定されたパスワードが正しいことを検証します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Password(r): <S: 0, 255>

例:

```
xCommand SystemUnit MenuPassword Validate Password:***********
*r MenuPasswordValidateResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit DateTime Set

NTP (ネットワーク タイム プロトコル) から取得できない場合に、システムの日時を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

パラメータ:

Year: <2008..2037>
Month: <1..12>
Day: <1..31>
Hour: <0..23>
Minute: <0..59>
Second: <0..59>

例:

```
xCommand SystemUnit DateTime Set Year:2009 Month:7 Day:3 Hour:12 Minute:0
Second:0
*r DateTimeSetResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit DateTime Get

システムから時刻と日付を読み出します。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand SystemUnit DateTime get
*r DateTimeGetResult (status=OK):
 Year: 2009
 Month: 7
 Day: 3
 Hour: 12
 Minute: 0
 Second: 0
** end
```

xCommand SystemUnit FactoryReset

工場出荷時設定にコーデックをリセットします。コール ログは削除され、すべてのシステム パラメータがデフォルト値にリセットされます。コーデックにアップロードされたすべてのファイルが削除されます。Release キーと Option キーは影響を受けません。

デフォルトとして工場出荷時状態にリセットするとシステムは再起動しますが、別の TrailingAction の選択によって、他の動作を強制できます。

TrailingAction : デフォルトの動作 (Restart) を上書きするには、NoAction または Shutdown を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

パラメータ:

Confirm(r): <Yes>
TrailingAction: <NoAction/Restart/Shutdown>

例:

```
xCommand SystemUnit FactoryReset Confirm: Yes
*r FactoryResetConfirmResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade

指定の URL のソフトウェアを取得してアップグレードを開始します。サーバでユーザ名とパスワードが必要な場合、これらのパラメータが含まれている必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

URL(r): <S: 0, 255>

UserName: <S: 0, 255>

Password: <S: 0, 255>

例:

```
xCommand xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: "ftp://<ftp _ server _
ip _ address>/s52000tc4 _ 0 _ 0.pkg" UserName: testDownload Password: 1234
*r SystemUnitSoftwareUpgradeResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit ConfigurationProfile Change

保存されたコンフィギュレーション プロファイルを選択します。次のシステム起動後にアクティブになります。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Name(r): <S: 0, 255>

例:

```
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile Change Name: "My _
ConfigurationProfile _ 1"
*r ConfigurationProfileChangeResult (status=OK):
   Warning: New configuration profile will be active after next boot.
** end
```

xCommand SystemUnit ConfigurationProfile Remove

システムに保存されたコンフィギュレーション プロファイルを削除します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Name(r): <S: 0, 255>

例:

```
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile Remove Name: "My _
ConfigurationProfile _ 1"
*r ConfigurationProfileRemoveResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit ConfigurationProfile SaveCurrentConfigurationAs

現在のシステム設定をコンフィギュレーション プロファイルに保存します。新しいプロファイルに名前を割り当てます。名前はプロファイルの固有識別情報です。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Name(r): <S: 0, 255>

例:

```
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile SaveCurrentConfigurationAs Name:
"My _ ConfigurationProfile _ 1"
*r ConfigurationProfileSaveCurrentConfigurationResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit ConfigurationProfile List

システムに保存されたコンフィギュレーション プロファイルをリストします。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile List
*r ConfigurationProfileListResult (status=OK):
   Profile: My _ ConfigurationProfile _ 1
   Profile: My _ ConfigurationProfile _ 2
** end
```

xCommand SystemUnit ConfigurationProfile CancelChange

次のシステム ブート後に有効になる「ConfigurationProfile Change」コマンドをキャンセルします。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand SystemUnit ConfigurationProfile CancelChange
*r ConfigurationProfileCancelChangeResult (status=OK):
** end
```

xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll

xStatus SystemUnit Notifications Text/Type によって報告されたシステム通知のリストをクリアします。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll
*r NotificationsRemoveAllResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand SystemUnit ReleaseKey List

システムに有効なリリース キーがあるすべてのソフトウェア バージョンを示します。

必要なユーザ ロール: USER

例:

```
xCommand SystemUnit ReleaseKey List
*r SystemUnit ReleaseKey 1 Version: "TC1"
*r SystemUnit ReleaseKey 2 Version: "TC2"
*r SystemUnit ReleaseKey 3 Version: "TC3"
*r SystemUnit ReleaseKey 4 Version: "TC4"
*r SystemUnit ReleaseKey 5 Version: "TC5"
** end
```

ビデオ コマンド

xCommand Video PictureLayoutSet

画面レイアウト モードを選択します。

Target : ターゲットがローカル レイアウトかリモート レイアウトかを選択します。

CallID : CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

LayoutFamily : レイアウト ファミリを選択します。

CustomLayoutName : レイアウトの名前を入力します。

必要なユーザ ロール: USER

パラメータ:

Target: <local/remote>

CallId: <0..65534>

LayoutFamily(r): <auto/custom/equal/fullscreen/presentationlargespeaker/presentationsmallspeaker/speaker_full>

CustomLayoutName: <S: 1, 128>

例:

```
xCommand Video PictureLayoutSet Target: Local LayoutFamily: equal
*r SetPictureLayoutResult (status=OK):
** end
```

xCommand Video Layout SetPresentationView

プレゼンテーション ビュー モードを設定します。

View : プレゼンテーションをコーデックのデフォルト設定で表示する場合、Default を選択します。プレゼンテーションをフル スクリーンで表示する場合、Maximized を選択します。プレゼンテーションを画面に小さい画像で表示する場合、Minimized を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

パラメータ:

View(r): <Default/Maximized/Minimized>

例:

```
xCommand Video Layout SetPresentationView View:Default
OK
*r VideoLayoutSetPresentationViewResult (status=OK):
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xCommand Video Layout LoadDb

指定されたビデオ レイアウト データベースをロードして使用開始します。デフォルトのビデオ レイアウト データベースは、システムによって最初に提供されます。カスタム データベースは Cisco TC Console ツールによって生成され、TC Console ツール内からコーデックが使用できるようになります。TC Console ソフトウェアは、Developer Zone Web ページにあります。http://developer.tandberg.com/web/guest/tools/integrators/audio-console を参照してください。

Custom : システムは Cisco TC Console ツールで生成したカスタム ビデオ レイアウト データベースを使用します。

CustomAutoModes : システムはカスタム ビデオ レイアウト データベースの自動モードの部品を使用します。

Default : システムは、システム付属のデフォルト ビデオ レイアウト データベースを使用します。

必要なユーザ ロール : USER

パラメータ :

Type(r): <Custom/CustomAutoModes/Default>

例 :

```
xCommand Video Layout LoadDb Type: Default
*r VideoLayoutLoadDbResult (status=OK):
** end
```

試験的コマンド

試験的コマンドは、テストのためだけのもので、シスコと同意したのでない限り使用できません。これらのコマンドは記載されておらず、以降のリリースで変更されます。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

5 章

xStatus コマンドの説明

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus コマンドの説明

続くページに xStatus コマンドと応答の例を示します。ステータス タイプのコマンドは、システムおよびシステム プロセスに関する情報を返します。すべての情報や一部の情報を照会できます。

マニュアルの更新バージョンがないか、定期的に Web サイトにアクセスすることを推奨します。
▶ http://www.cisco.com/go/telepresence/docs を参照してください。

オーディオ ステータス 99
xStatus Audio 99
xStatus Audio Microphones Mute 99
xStatus Audio Volume 99

コール ステータス 99
xStatus Call 99
xStatus Call [1..n] CallbackNumber 100
xStatus Call [1..n] CallType 100
xStatus Call [1..n] Direction 99
xStatus Call [1..n] DisplayName 100
xStatus Call [1..n] Duration 101
xStatus Call [1..n] Encryption Type 101
xStatus Call [1..n] FacilityServiceId 100
xStatus Call [1..n] PlacedOnHold 101
xStatus Call [1..n] Protocol 100
xStatus Call [1..n] ReceiveCallRate 100
xStatus Call [1..n] RemoteNumber 100
xStatus Call [1..n] Status 99
xStatus Call [1..n] TransmitCallRate 100

カメラ ステータス 101
xStatus Camera 101
xStatus Camera [1..1] Capabilities Options 103
xStatus Camera [1..1] Connected 101
xStatus Camera [1..1] Flip 103
xStatus Camera [1..1] HardwareID 101
xStatus Camera [1..1] IpAddress 102
xStatus Camera [1..1] MacAddress 102
xStatus Camera [1..1] Manufacturer 102
xStatus Camera [1..1] Model 102
xStatus Camera [1..1] Position Focus 103
xStatus Camera [1..1] Position Pan 102
xStatus Camera [1..1] Position Tilt 102
xStatus Camera [1..1] Position Zoom 103
xStatus Camera [1..1] SerialNumber 102
xStatus Camera [1..1] SoftwareID 102

会議ステータス 103
xStatus Conference 103
xStatus Conference DoNotDisturb 106
xStatus Conference Multipoint Mode 106
xStatus Conference Presentation LocalSource 104
xStatus Conference Presentation Mode 103
xStatus Conference Presentation Protocol 104
xStatus Conference Presentation Resolution Height 104
xStatus Conference Presentation Resolution Width 104
xStatus Conference Presentation SiteId 104
xStatus Conference Site [1..n] BlackScreenCause 106
xStatus Conference Site [1..n] BookingId 106
xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Mode 105
xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC NumberOfPresets 104
xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC NumberOfSources 104
xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Source [1..n] Name 105
xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Source [1..n] Options 105
xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Source [1..n] SourceId 104
xStatus Conference Site [1..n] Capabilities Presentation 105
xStatus Conference Site [1..n] ConferenceExtended 106
xStatus Conference Site [1..n] Manufacturer 105
xStatus Conference Site [1..n] MicrophonesMuted 105
xStatus Conference Site [1..n] SoftwareID 105

診断ステータス 107
xStatus Diagnostics 107
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Bytes 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Drop 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Jitter 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Loss 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Packets 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Bytes 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate 110

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Drop 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Jitter 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Loss 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Packets 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Bytes 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Drop 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Jitter 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Loss 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Packets 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Bytes 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Drop 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Jitter 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Loss 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Packets 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Bytes 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Drop 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Jitter 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Loss 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter 111
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Packets 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Bytes 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Drop 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Jitter 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived 109
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Loss 108
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter 110
xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Packets 108

H323 ステータス 111
xStatus H323 111
xStatus H323 Gatekeeper Address 111
xStatus H323 Gatekeeper Port 111
xStatus H323 Gatekeeper Reason 112
xStatus H323 Gatekeeper Status 111

HttpFeedback ステータス 112
xStatus HttpFeedback 112
xStatus HttpFeedback [1..4] Expression [1..15] 113
xStatus HttpFeedback [1..4] URL 112

MediaChannels ステータス 113
xStatus MediaChannels 113
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Audio Channels 116
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Audio Mute 115
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Audio Protocol 115
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Encryption Status 115
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port 117
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress 116
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local Port 117
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress 117
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress 116
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local Port 116
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress 116
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote Port 116
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] ChannelRole 117
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Encryption Status 117
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port 119
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress 118
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local Port 119
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress 119
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress 118
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local Port 118
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress 118
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote Port 118
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video FrameRate 117
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video Protocol 117
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video ResolutionX 118
xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video ResolutionY 118
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Audio Channels 119
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Audio Protocol 119
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Encryption Status 119
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port 121
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress 120
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local Port 120
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress 121
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress 120
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local Port 120
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress 120
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote Port 120
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] ChannelRole 121

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Encryption Status 121
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port 123
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress 122
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local Port 123
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress 123
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress 122
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local Port 122
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress 122
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote Port 122
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video FrameRate 121
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video Protocol 121
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video ResolutionX 121
xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video ResolutionY 122

ネットワーク ステータス 123
xStatus Network 123
xStatus Network 1 Ethernet MacAddress 123
xStatus Network 1 Ethernet Speed 124
xStatus Network 1 IPv4 Address 124
xStatus Network 1 IPv4 DNS Domain Name 124
xStatus Network 1 IPv4 DNS Server [1..5] Address 124
xStatus Network 1 IPv4 Gateway 124
xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask 124
xStatus Network 1 IPv6 Address 124
xStatus Network 1 IPv6 Gateway 124
xStatus Network 1 MTU 125
xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId 125

プリセット ステータス 125
xStatus Preset 125
xStatus Preset [1..15] Defined 125
xStatus Preset [1..15] Description 126
xStatus Preset [1..15] Type 125

プロビジョニング ステータス 126
xStatus Provisioning 126
xStatus Provisioning Reason 127
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt 128
xStatus Provisioning Software Current URL 128
xStatus Provisioning Software Current VersionId 128
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange 127
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message 127
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase 127
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId 127
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status 127
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL 127
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId 127
xStatus Provisioning Status 126

セキュリティ ステータス 128
xStatus Security FIPS Mode 128

SIP ステータス 129
xStatus SIP 129
xStatus SIP Profile 1 Authentication 131
xStatus SIP Profile 1 Proxy [1] Address 130
xStatus SIP Profile 1 Proxy [1] Status 130
xStatus SIP Profile 1 Registration [1..n] Reason 131
xStatus SIP Profile 1 Registration [1..n] Status 131
xStatus SIP Profile 1 Registration [1..n] URI 131
xStatus SIP Profile 1 Secure 131
xStatus SIP Profile 1 Verified 131
xStatus SIP Proxy [1] Address 129
xStatus SIP Proxy [1] Secure 129
xStatus SIP Proxy [1] Status 129
xStatus SIP Proxy [1] Verified 129
xStatus SIP Registration [1..n] Authentication 130
xStatus SIP Registration [1..n] Reason 130
xStatus SIP Registration [1..n] Status 130
xStatus SIP Registration [1..n] URI 130

スタンバイ ステータス 132
xStatus Standby Active 132

SystemUnit ステータス 132
xStatus SystemUnit 132
xStatus SystemUnit ContactInfo 137
xStatus SystemUnit Hardware BootSoftware 135
xStatus SystemUnit Hardware MainBoard Identifier 135
xStatus SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber 135
xStatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel 135
xStatus SystemUnit Hardware Module Identifier 135
xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber 134
xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [1..n] Status 135
xStatus SystemUnit Hardware MonitoringSoftware 135
xStatus SystemUnit Hardware Temperature 136
xStatus SystemUnit Notifications Notification [1..n] Text 137
xStatus SystemUnit Notifications Notification [1..n] Type 137
xStatus SystemUnit ProductId 133
xStatus SystemUnit ProductPlatform 133
xStatus SystemUnit ProductType 133

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SystemUnit Software Application ... 133
xStatus SystemUnit Software MaxAudioCalls ... 134
xStatus SystemUnit Software MaxVideoCalls ... 134
xStatus SystemUnit Software Name ... 133
xStatus SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay ... 134
xStatus SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition ... 134
xStatus SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter ... 134
xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution ... 134
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate ... 133
xStatus SystemUnit Software ReleaseKey ... 134
xStatus SystemUnit Software Version ... 133
xStatus SystemUnit State MaxNumberOfActiveCalls ... 136
xStatus SystemUnit State MaxNumberOfCalls ... 136
xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls ... 136
xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls ... 136
xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls ... 136
xStatus SystemUnit State Subsystem Application ... 137
xStatus SystemUnit State System ... 136
xStatus SystemUnit Uptime ... 133

時間ステータス ... 138
xStatus Time ZoneOlson ... 138

ビデオ ステータス ... 138
xStatus Video Input ... 138
xStatus Video Input DVI [2] Connected ... 139
xStatus Video Input DVI [2] SignalState ... 140
xStatus Video Input HDMI [1] Connected ... 139
xStatus Video Input HDMI [1] SignalState ... 139
xStatus Video Input LastConnectedSource ... 138
xStatus Video Input Source [1..2] Resolution FormatStatus ... 139
xStatus Video Input Source [1..2] Resolution FormatType ... 139
xStatus Video Input Source [1..2] Resolution Height ... 139
xStatus Video Input Source [1..2] Resolution RefreshRate ... 139
xStatus Video Input Source [1..2] Resolution Width ... 139
xStatus Video Layout ... 140
xStatus Video Layout PresentationView ... 141
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] FamilyName ... 141
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Filename ... 142
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Height ... 141
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] InputNumber ... 142
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Layer ... 142
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] PositionX ... 141
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] PositionY ... 141
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] VideoSourceId ... 142
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] VideoSourceType ... 142
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Width ... 141
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] FullFamilyName ... 141
xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] GraphicName ... 141
xStatus Video Output ... 140
xStatus Video Output HDMI [1, 2] Resolution Height ... 140
xStatus Video Output HDMI [1, 2] Resolution RefreshRate ... 140
xStatus Video Output HDMI [1, 2] Resolution Width ... 140

試験的ステータス ... 143

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

オーディオ ステータス

xStatus Audio

オーディオ ステータスのトップ レベルの概要を示します。LocalInput、RemoteInput、LocalOutput および RemoteOutput の ID は、他の情報を照会する場合に使用されます。

例：

```
xStatus Audio
xStatus Audio
*s Audio Microphones Mute: Off
*s Audio Volume: 35
** end
```

xStatus Audio Microphones Mute

マイクロフォンのミュート モードを示します。

返される結果の値スペース：

<On/Off>

例：

```
xStatus Audio Microphones Mute
*s Audio Microphones Mute: Off
** end
```

xStatus Audio Volume

拡声器出力の音量レベル（dB）を示します。

返される結果の値スペース：

<0..100>

例：

```
xStatus Audio Volume
*s Audio Volume: 70
** end
```

コール ステータス

xStatus Call

コール ステータスのトップ レベルの概要を示します。コール ID がコールに関する詳細の照会に使用されます。

例：

```
xStatus Call
*s Call 27 Status: Connected
*s Call 27 Direction: Outgoing
*s Call 27 Protocol: "sip"
*s Call 27 CallType: Video
*s Call 27 RemoteNumber: "firstname.lastname@company.com"
*s Call 27 CallbackNumber: "sip:firstname.lastname@company.com"
*s Call 27 DisplayName: "Firstname Lastname"
*s Call 27 TransmitCallRate: 3968
*s Call 27 ReceiveCallRate: 4000
*s Call 27 FacilityServiceId: 0
*s Call 27 Encryption Type: "None"
*s Call 27 PlacedOnHold: False
*s Call 27 Duration: 2354
** end
```

xStatus Call [1..n] Status

コールのステータスを表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

<Idle/Dialling/Ringing/Connecting/Connected/Disconnecting/OnHold>

例：

```
xStatus Call 27 Status
*s Call 27 Status: Connected
** end
```

xStatus Call [1..n] Direction

コール開始の方向を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

<Incoming/Outgoing>

例：

```
xStatus Call 27 Direction
*s Call 27 Direction: Outgoing
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Call [1..n] Protocol

着信または発信コールのコール プロトコルを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

<H323/SIP>

例：

```
xStatus Call 27 Protocol
*s Call 27 Protocol: "h323"
** end
```

xStatus Call [1..n] CallType

着信または発信コールのコール タイプを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

<Video/Audio>

例：

```
xStatus Call 27 CallType
*s Call 27 CallType: Video
** end
```

xStatus Call [1..n] RemoteNumber

着信または発信コールのリモート（遠端）番号または URI を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Call 27 RemoteNumber
*s Call 27 RemoteNumber: "5585232"
** end
```

xStatus Call [1..n] CallbackNumber

コールバック用に、コール プロトコルを含め、着信または発信コールのリモート（遠端）番号または URI を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Call 27 CallbackNumber
*s Call 27 CallbackNumber: "h323:firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [1..n] DisplayName

着信または発信コールでリモート（遠端）参加者の名前を表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Call 27 DisplayName
*s Call 27 DisplayName: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [1..n] TransmitCallRate

コールの送信帯域幅をキロ ビット / 秒（kbps）で示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Call 27 TransmitCallRate
*s Call 27 TransmitCallRate: 768
** end
```

xStatus Call [1..n] ReceiveCallRate

コールの受信帯域幅をキロ ビット / 秒（kbps）で示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Call 27 ReceiveCallRate
*s Call 27 ReceiveCallRate: 4000
** end
```

xStatus Call [1..n] FacilityServiceId

ファシリティ サービスを呼び出すと、ファシリティ サービス ID が表示されます。それ以外の場合、値 0 が返されます。

返される結果の値スペース：

<0..5>

例：

```
xStatus Call FacilityServiceId
*s Call 3 FacilityServiceId: 1
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Call [1..n] Encryption Type

コールの暗号化タイプを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

<"None"/"Aes-128">

例：

```
xStatus Call 27 Encryption Type
*s Call 27 Encryption Type: "None"
** end
```

xStatus Call [1..n] PlacedOnHold

コールの保留中ステータスを表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus Call 27 PlacedOnHold
*s Call 27 PlacedOnHold: False
** end
```

xStatus Call [1..n] Duration

コールの長さを表示します (秒単位)。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Call 27 Duration
*s Call 27 Duration: 2354
** end
```

カメラ ステータス

xStatus Camera

カメラ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xStatus Camera
*s Camera 1 Connected: True
*s Camera 1 HardwareID: "50000000"
*s Camera 1 Manufacturer: "TANDBERG"
*s Camera 1 Model: "PrecisionHD 1080p 12X"
*s Camera 1 SoftwareID: "S01718-4.0FINAL [ID:40063] 2010-10-20"
*s Camera 1 SerialNumber: "B1AB26B00010"
*s Camera 1 IpAddress: ""
*s Camera 1 MacAddress: ""
*s Camera 1 Position Pan: 412
*s Camera 1 Position Tilt: 106
*s Camera 1 Position Zoom: 828
*s Camera 1 Position Focus: 4597
*s Camera 1 Capabilities Options: "ptzf"
*s Camera 1 Flip: "Off"
** end
```

xStatus Camera [1..1] Connected

カメラが接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus Camera 1 Connected
*s Camera 1 Connected: True
** end
```

xStatus Camera [1..1] HardwareID

カメラのハードウェア ID を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 HardwareID
*s Camera 1 HardwareID: "50000000"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Camera [1..1] Manufacturer

カメラの製造業者を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 Manufacturer
*s Camera 1 Manufacturer: "TANDBERG"
** end
```

xStatus Camera [1..1] Model

カメラのモデルを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 Model
*s Camera 1 Model: "PrecisionHD 1080p 12X"
** end
```

xStatus Camera [1..1] SoftwareID

カメラのソフトウェア ID を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 SoftwareID
*s Camera 1 SoftwareID: "S01718-4.0FINAL [ID:40063] 2010-10-20"
** end
```

xStatus Camera [1..1] SerialNumber

カメラのシリアル番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 SerialNumber
*s Camera 1 SerialNumber: "B1AB26B00010"
** end
```

xStatus Camera [1..1] IpAddress

カメラの IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 IpAddress
*s Camera 1 IpAddress: ""
** end
```

xStatus Camera [1..1] MacAddress

カメラの MAC（メディア アクセス コントロール）アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 MacAddress
*s Camera 1 MacAddress: ""
** end
```

xStatus Camera [1..1] Position Pan

カメラの現在のパン（左右移動）位置を示します。値の範囲は、カメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース：

<-65535..65535>

例：

```
xStatus Camera 1 Position Pan
*s Camera 1 Position Pan: 412
** end
```

xStatus Camera [1..1] Position Tilt

カメラの現在のチルト（上下移動）位置を示します。値の範囲は、カメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース：

<-65535..65535>

例：

```
xStatus Camera 1 Position Tilt
*s Camera 1 Position Tilt: 106
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Camera [1..1] Position Zoom

カメラの現在のズーム（拡大縮小）位置を示します。値の範囲は、カメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース：

<0..65535>

例：

```
xStatus Camera 1 Position Zoom
*s Camera 1 Position Zoom: 828
** end
```

xStatus Camera [1..1] Position Focus

カメラの現在の焦点位置を示します。値の範囲は、カメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース：

<0..65535>

例：

```
xStatus Camera 1 Position Focus
*s Camera 1 Position Focus: 4597
** end
```

xStatus Camera [1..1] Capabilities Options

カメラ機能（ptzf = パン、傾斜、ズーム、焦点）を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Camera 1 Capabilities Options
*s Camera 1 Capabilities Options: "ptzf"
** end
```

xStatus Camera [1..1] Flip

Flip モード（垂直反転）では、イメージの上下を逆にできます。

返される結果の値スペース：

<"Auto"/"On"/"Off">

例：

```
xStatus Camera 1 Flip
*s Camera 1 Flip: "Off"
** end
```

会議ステータス

xStatus Conference

会議ステータスのトップ レベルの概要を示します。会議サイト ID はコールの間だけ読み取れます。

例：

```
xStatus Conference
*s Conference Presentation Mode: Off
*s Conference Presentation Protocol: ""
*s Conference Presentation Resolution Height: 0
*s Conference Presentation Resolution Width: 0
*s Conference Presentation SiteId: 0
*s Conference Presentation LocalSource: 0
*s Conference Multipoint Mode: "MultiWay"
*s Conference DoNotDisturb: Inactive
*s Conference Site 26 MicrophonesMuted: True
*s Conference Site 26 Capabilities FECC NumberOfPresets: 15
*s Conference Site 26 Capabilities FECC NumberOfSources: 5
*s Conference Site 26 Capabilities FECC Source 1 SourceId: 6
*s Conference Site 26 Capabilities FECC Source 1 Name: "Main camera"
*s Conference Site 26 Capabilities FECC Source 1 Options: "ptzf"
*s Conference Site 26 Capabilities FECC Source 2 SourceId: 7
*s Conference Site 26 Capabilities FECC Source 2 Name: "PC"
*s Conference Site 26 Capabilities FECC Source 2 Options: ""
*s Conference Site 26 Capabilities FECC Mode: On
*s Conference Site 26 Manufacturer: "Cisco"
*s Conference Site 26 SoftwareID: "TC5"
*s Conference Site 26 BlackScreenCause: None
*s Conference Site 26 ConferenceExtended: NotExtended
*s Conference Site 26 BookingId: "MyConference"
** end
```

xStatus Conference Presentation Mode

セカンダリ ビデオ ストリームのステータスを表示します。

返される結果の値スペース：

<Off/Sending/Receiving>

例：

```
xStatus Conference Presentation Mode
*s Conference Presentation Mode: Off
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Conference Presentation Protocol

プレゼンテーションを伝送するときに使用されるビデオ プロトコルを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Conference Presentation Protocol
*s Conference Presentation Protocol: "H264"
** end
```

xStatus Conference Presentation Resolution Height

プレゼンテーションの高さを示します。

返される結果の値スペース：

<0..3000>

例：

```
xStatus Conference Presentation Resolution Height
*s Conference Presentation Resolution Height: 0
** end
```

xStatus Conference Presentation Resolution Width

プレゼンテーションの幅を示します。

返される結果の値スペース：

<0..4000>

例：

```
xStatus Conference Presentation Resolution Width
*s Conference Presentation Resolution Width: 0
** end
```

xStatus Conference Presentation SiteId

プレゼンテーションを送信するシステムの ID を示します。

返される結果の値スペース：

<0..65535>

例：

```
xStatus Conference Presentation SiteId
*s Conference Presentation SiteId: 0
** end
```

xStatus Conference Presentation LocalSource

プレゼンテーションがローカル サイトから送信される際に使用するローカル ビデオ入力ソースを示します。

返される結果の値スペース：

<1..5>

例：

```
xStatus Conference Presentation LocalSource
*s Conference Presentation LocalSource: 0
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC NumberOfPresets

遠端サイトで入力ソースに使用可能なプリセットの数を示します。

返される結果の値スペース：

<1..15>

例：

```
xStatus Conference Site 2 Capabilities FECC NumberOfPresets
*s Conference Site 2 Capabilities FECC NumberOfPresets: 15
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC NumberOfSources

遠端サイトに接続できる入力ソースの数を示します。

返される結果の値スペース：

<1..5>

例：

```
xStatus Conference Site 2 Capabilities FECC NumberOfSources
*s Conference Site 2 Capabilities FECC NumberOfSources: 5
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Source [1..n] SourceId

遠端サイトに接続できる入力ソースの ID を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Conference Site 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId
*s Conference Site 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId: 6
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Source [1..n] Name

遠端サイトに接続できる入力ソースの名前を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Conference Site 2 Capabilities FECC Source 1 Name
*s Conference Site 2 Capabilities FECC Source 1 Name: "Main camera"
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Source [1..n] Options

遠端のサイトに接続できる入力ソースに使用可能なオプションを示します（カメラ用：p=pan、t=tilt、z=zoom、f=focus）。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Conference Site 2 Capabilities FECC Source 1 Options
*s Conference Site 2 Capabilities FECC Source 1 Options: "ptzf"
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] Capabilities FECC Mode

遠端サイトの入力ソースを制御する権限があるかどうかを示します。

On：遠端入力ソースの制御は許可されています。

Off：遠端入力ソースの制御は許可されていません。

返される結果の値スペース：

<On/Off>

例：

```
xStatus Conference Site 2 Capabilities FECC Mode
*s Conference Site 2 Capabilities FECC Mode: On
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] Capabilities Presentation

会議の他の参加者のプレゼンテーション機能をリストします。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus Conference Site 2 Capabilities Presentation
*s Conference Site 2 Capabilities Presentation: True
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] MicrophonesMuted

会議の他の参加者の音声ミュート ステータスが表示されます。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus Conference Site 2 MicrophonesMuted
*s Conference Site 2 MicrophonesMuted: True
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] Manufacturer

遠端サイトのビデオ システムの製造業者を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Conference Site 2 Manufacturer
*s Conference Site 2 Manufacturer: "Cisco"
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] SoftwareID

遠端サイトのビデオ システムで実行中のソフトウェアの ID を表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Conference Site 2 SoftwareID
*s Conference Site 2 SoftwareID: "TC5"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Conference Site [1..n] BlackScreenCause

CTMS (Cisco TelePresence Multipoint Switch) で管理される会議の間、画面がブラックになる理由を示します。

FirstParticipant : 会議の最初で唯一の参加者です。

LastParticipant : 会議に唯一残った参加者です。

NoResources : 不十分なリソースで会議が開始されました。

EarlyJoin : スケジュールされた会議がまだ開始していません。

HostNotJoined : 会議はホストの参加を待っています。

SecurityIssues : ビデオはセキュリティの問題でブロックされています。

NoVideo : ビデオなしの会議です。

WebexOnly : WebEx だけの会議です。

返される結果の値スペース :

<None/Other/FirstParticipant/LastParticipant/NoResources/EarlyJoin/HostNotJoined/SecurityIssues/NoVideo/WebexOnly>

例 :

```
xStatus Conference Site 2 BlackScreenCause
*s Conference Site 17 BlackScreenCause: None
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] ConferenceExtended

会議延長のステータスを表示します (CTS-MAN (Cisco TelePresence Manager) からスケジュールされた会議だけに適用され、一度だけ延長できます)。

Unsupported : 会議延長はサポートされていません。

NotExtended : 会議は (まだ) 延長されていません。

Extended : 会議は延長され、現在は延長フェーズになっています。

返される結果の値スペース :

<Unsupported/NotExtended/Extended>

例 :

```
xStatus Conference Site 2 ConferenceExtended
*s Conference Site 2 ConferenceExtended: NotExtended
** end
```

xStatus Conference Site [1..n] BookingId

会議の予約 ID を示します (割り当てられている場合)。予約 ID は、コールや会議を簡単に識別するために使用できます。

返される結果の値スペース :

< 文字列 >

例 :

```
xStatus Conference Site 2 BookingId
*s Conference Site 33 BookingId: "MyConference"
** end
```

xStatus Conference Multipoint Mode

マルチポイント ビデオ会議が処理される方法を示します。詳細については xConfiguration Conference Multipoint Mode を参照してください。

返される結果の値スペース :

<"MultiWay"/"Off">

例 :

```
xStatus Conference Multipoint Mode
*s Conference Multipoint Mode: "MultiWay"
** end
```

xStatus Conference DoNotDisturb

DoNotDisturb モードがオンにされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース :

<Active/Inactive>

例 :

```
xStatus Conference DoNotDisturb
*s Conference DoNotDisturb: Inactive
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

診断ステータス

xStatus Diagnostics

診断ステータスのトップ レベルの概要を示します。進行中のコールのステータスの表示を例に示します。追加情報を照会する場合、コールの ID およびチャネルが使用されます。

例:

```
xStatus Diagnostics
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1
Jitter: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1
Packets: 132505
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1 Loss:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1
LastIntervalLost: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1
LastIntervalReceived: 84
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1 Drop:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1 Bytes:
21200960
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1
ChannelRate: 64000
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingAudioChannel 327 Netstat 1
MaxJitter: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1
Jitter: 6
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1
Packets: 133166
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1 Loss:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1
LastIntervalLost: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1
LastIntervalReceived: 148
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1 Drop:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1 Bytes:
122301901
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1
ChannelRate: 506000
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingVideoChannel 330 Netstat 1
MaxJitter: 9
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1 Jitter:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1
Packets: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1 Loss: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1
LastIntervalLost: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1
LastIntervalReceived: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1 Drop: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1 Bytes:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1
ChannelRate: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 335 Netstat 1
MaxJitter: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1
Jitter: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1
Packets: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1 Loss:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1
LastIntervalLost: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1
LastIntervalReceived: 300
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1 Drop:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1 Bytes:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1
ChannelRate: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingAudioChannel 328 Netstat 1
MaxJitter: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1
Jitter: 4
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1
Packets: 123043
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1 Loss:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1
LastIntervalLost: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1
LastIntervalReceived: 351
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1 Drop:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1 Bytes:
94720991
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

```
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1
ChannelRate: 493000
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingVideoChannel 331 Netstat 1
MaxJitter: 4
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1 Jitter:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1
Packets: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1 Loss: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1
LastIntervalLost: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1
LastIntervalReceived: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1 Drop: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1 Bytes:
0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1
ChannelRate: 0
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 336 Netstat 1
MaxJitter: 0
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Jitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Jitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Jitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Jitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Jitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Jitter

RFC 3550 で指定されている、着信 / 発信チャネルでの現時点のジッターを示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
Jitter
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1 Jitter:
0
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Packets

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Packets

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Packets

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Packets

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Packets

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Packets

着信 / 発信チャネルの受信 / 送信パケット数を表示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
Packets
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
Packets: 405
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Loss

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Loss

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Loss

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Loss

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Loss

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Loss

着信 / 発信チャネルの損失パケット数を表示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
Loss
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1 Loss:
96
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalLost

着信 / 発信チャネルの最後のインターバル中の損失パケット数を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 327 Netstat 1
LastIntervalLost
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 327 Netstat 1
LastIntervalLost: 0
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 LastIntervalReceived

着信 / 発信チャネルの最後のインターバル中の受信パケット数を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 327 Netstat 1
LastIntervalReceived
*s Diagnostics Call 27 Channels IncomingDataChannel 327 Netstat 1
LastIntervalReceived: 84
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Drop

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Drop

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Drop

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Drop

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Drop

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Drop

着信 / 発信チャネルでドロップされたパケットの数を表示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
Drop
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1 Drop: 0
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Bytes

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Bytes

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 Bytes

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 Bytes

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 Bytes

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 Bytes

着信 / 発信チャネルの受信 / 送信バイト数を表示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
Bytes
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1 Bytes:
129920
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 ChannelRate

着信 / 発信チャネルの帯域幅を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
ChannelRate
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
ChannelRate: 128000
** end
```

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingAudioChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingVideoChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels IncomingDataChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingAudioChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingVideoChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Diagnostics Call [1..n] Channels OutgoingDataChannel [1..n] Netstat 1 MaxJitter

最後のインターバル（5 秒）の間に測定された最大ジッターを示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
MaxJitter
*s Diagnostics Call 27 Channels OutgoingDataChannel 327 Netstat 1
MaxJitter: 0
** end
```

H323 ステータス

xStatus H323

H323 ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xStatus H323
*s H323 Gatekeeper Status: Registered
*s H323 Gatekeeper Address: "192.0.1.20"
*s H323 Gatekeeper Port: 1719
*s H323 Gatekeeper Reason: ""
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Status

ゲートキーパー登録ステータスが表示されます。

返される結果の値スペース：

<Required/Discovering/Discovered/Authenticating/Authenticated/Registering/Registered/Inactive/Rejected>

例：

```
xStatus H323 Gatekeeper Status
*s H323 Gatekeeper Status: Registered
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Address

システムが登録されているゲートキーパーの IP アドレスが表示されます。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus H323 Gatekeeper Address
*s H323 Gatekeeper Address: "192.0.1.20"
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Port

ゲートキーパーに接続するときに使用されるポートを示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus H323 Gatekeeper Port
*s H323 Gatekeeper Port: 1719
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus H323 Gatekeeper Reason

拒否された登録の理由を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus H323 Gatekeeper Reason
*s H323 Gatekeeper Reason: ""
** end
```

HttpFeedback ステータス

xStatus HttpFeedback

HTTP ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xStatus HttpFeedback
*s HttpFeedback 1 URL: "http://tms.group.company.com/tms/public/feedback/
code.aspx"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/History/CallLog/History"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Status/Call[Status='connected']"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Status/H323/Gatekeeper"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Status/Ethernet"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Event/CallSuccessful"
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
 -
 - continues with HttpFeedback 2-4.
** end
```

xStatus HttpFeedback [1..4] URL

HTTP サーバの URL（ユニフォーム リソース ロケータ）を示します。URL で指定される、最大 3 台の HTTP サーバが存在する場合があります。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus HttpFeedback 1 URL
*s HttpFeedback 1 URL: "http://tms.company.com/tms/public/feedback/code.
aspx"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus HttpFeedback [1..4] Expression [1..15]

HTTP サーバからのフィードバックを示します。各 URL につき最大 15 の表現がある場合があります。詳細については、xCommand HttpFeedback コマンドを参照してください。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus HttpFeedback 1 Expression
*s HttpFeedback 1 Expression: "/History/CallLog/History"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Status/Call[Status='connected']"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Status/H323/Gatekeeper"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Status/Ethernet"
*s HttpFeedback 1 Expression: "/Event/CallSuccessful"
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
*s HttpFeedback 1 Expression: ""
** end
```

MediaChannels ステータス

xStatus MediaChannels

メディア チャネル ステータスのトップ レベルの概要を示します。進行中のコールのステータスの表示を例に示します。追加情報を照会する場合、コールの ID およびチャネルが使用されます。

例：

```
xStatus MediaChannels
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Audio Protocol: AACLD
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Audio Mute: False
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Audio Channels: 1
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTP Local
Port: 16402
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTP Remote
Port: 2334
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTCP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTCP Local
Port: 16403
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTCP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
*s MediaChannels Call 4 IncomingAudioChannel 41 Transport RTCP Remote
Port: 2335
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 ChannelRole: Main
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Video Protocol: H264
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Video FrameRate: 30
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Video ResolutionX: 1920
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Video ResolutionY: 1080
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTP Local
Port: 16404
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTP Remote
Port: 2336
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTCP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

```
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTCP Local
Port: 16405
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTCP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 44 Transport RTCP Remote
Port: 2337
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 ChannelRole: Presentation
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Video Protocol: Off
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Video FrameRate: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Video ResolutionX: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Video ResolutionY: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTP Local
Port: 16406
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTP Remote
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTCP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTCP Local
Port: 16407
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTCP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 47 Transport RTCP Remote
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 ChannelRole: Legacy
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Video Protocol: Off
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Video FrameRate: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Video ResolutionX: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Video ResolutionY: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTP Local
Port: 16410
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTP Remote
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTCP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTCP Local
Port: 16411
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTCP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 IncomingVideoChannel 51 Transport RTCP Remote
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Audio Protocol: AACLD
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Audio Channels: 1
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTP Local
Port: 16402
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTP Remote
Port: 2334
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTCP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTCP Local
Port: 16403
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTCP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
*s MediaChannels Call 4 OutgoingAudioChannel 42 Transport RTCP Remote
Port: 2335
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 ChannelRole: Main
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Video Protocol: H264NIL
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Video FrameRate: 60
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Video ResolutionX: 1280
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Video ResolutionY: 720
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTP Local
Port: 16404
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTP Remote
Port: 2336
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTCP Local
IpAddress: "10.54.86.241"
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTCP Local
Port: 16405
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTCP Remote
IpAddress: "10.54.86.240"
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

```
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 45 Transport RTCP Remote
Port: 2337
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 ChannelRole: Presentation
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Video Protocol: Off
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Video FrameRate: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Video ResolutionX: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Video ResolutionY: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTP Local
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTP Local
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTP Remote
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTCP Local
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTCP Local
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTCP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 48 Transport RTCP Remote
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Encryption Status: Off
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 ChannelRole: Legacy
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Video Protocol: Off
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Video FrameRate: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Video ResolutionX: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Video ResolutionY: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTP Local
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTP Local
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTP Remote
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTCP Local
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTCP Local
Port: 0
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTCP Remote
IpAddress: ""
*s MediaChannels Call 4 OutgoingVideoChannel 52 Transport RTCP Remote
Port: 0
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Encryption Status

着信チャネルの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース：

<On/Off>

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Encryption Status
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Encryption Status: Off
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Audio Protocol

着信オーディオ チャネル用のオーディオ アルゴリズムを示します。

AACLD：AAC-LD は MPEG-4 Low Delay Audio Coder 音声圧縮形式です。

G722：G.722 アルゴリズムは ITU 標準です。

G7221：G.722.1 アルゴリズムはライセンスされたロイヤリティ フリーの ITU-T 標準です。

G711Mu：G.711 Mu-law 圧縮アルゴリズムは、北米と日本で使用されます。

G711A：G.711 A-law 圧縮アルゴリズムは、欧州と世界の他の国々で使用されます

返される結果の値スペース：

<AACLD/G722/G7221/G711Mu/G711A>

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Audio Protocol
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Audio Protocol: AACLD
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Audio Mute

着信オーディオの音声ミュートのステータス。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Audio Mute
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Audio Mute: True
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Audio Channels

着信オーディオ チャネルの数を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Audio Channels
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Audio Channels: 1
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local Port

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP Local
Port: 16404
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote Port

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTP Remote
Port: 50932
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local Port

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP Local
Port: 16405
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingAudioChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port

メディア チャネルの着信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingAudioChannel 327 Transport RTCP Remote
Port: 50933
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Encryption Status

着信チャネルの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

<On/Off>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Encryption Status
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Encryption Status: Off
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] ChannelRole

着信チャネルがメイン ビデオ チャネルか、プレゼンテーション チャネルかを示します。

返される結果の値スペース:

<Main/Presentation>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 ChannelRole
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 ChannelRole: Main
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video Protocol

着信ビデオ チャネル用のビデオ アルゴリズムを示します。

H264:H.264 アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263pp:H.263pp アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263:H.263 アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H261:H.261 アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

返される結果の値スペース:

<H264/H263pp/H263/H261>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video Protocol
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video Protocol: H264
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video FrameRate

着信チャネルのビデオ フレーム レートを示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video FrameRate
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video FrameRate: 25
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video ResolutionX

着信ビデオの幅（X 方向の解像度）を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video ResolutionX
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video ResolutionX: 768
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Video ResolutionY

着信ビデオの高さ（Y 方向の解像度）を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video ResolutionY
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Video ResolutionY: 448
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local Port

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP Local
Port: 16404
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote Port

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTP Remote
Port: 50932
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local Port

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP Local
Port: 16405
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] IncomingVideoChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port

メディア チャネルの着信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 IncomingVideoChannel 330 Transport RTCP Remote
Port: 50933
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Encryption Status

発信チャネルの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

<On/Off>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Encryption Status
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Encryption Status: Off
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Audio Protocol

発信オーディオ チャネル用のオーディオ アルゴリズムを示します。

AACLD:AAC-LD は MPEG-4 Low Delay Audio Coder 音声圧縮形式です。

G722:G.722 アルゴリズムは ITU 標準です。

G7221:G.722.1 アルゴリズムはライセンスされたロイヤリティ フリーの ITU-T 標準です。

G711Mu:G.711 Mu-law 圧縮アルゴリズムは、北米と日本で使用されます。

G711A:G.711 A-law 圧縮アルゴリズムは、欧州と世界の他の国々で使用されます

返される結果の値スペース:

<AACLD/G722/G7221/G711Mu/G711A>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Audio Protocol
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Audio Protocol: AACLD
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Audio Channels

発信オーディオ チャネルの数を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Audio Channels
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Audio Channels: 1
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Local Port

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP Local
Port: 16404
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTP Remote Port

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTP Remote
Port: 50932
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Local Port

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP Local
Port: 16405
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingAudioChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port

メディア チャネルの発信オーディオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingAudioChannel 328 Transport RTCP Remote
Port: 50933
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Encryption Status

発信チャネルの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

<On/Off>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Encryption Status
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Encryption Status: Off
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] ChannelRole

発信チャネルがメイン ビデオ チャネルか、プレゼンテーション チャネルかを示します。

返される結果の値スペース:

<Main/Presentation>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 ChannelRole
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 ChannelRole: Main
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video Protocol

発信ビデオ チャネル用のビデオ アルゴリズムを示します。

H264 : H.264 アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263pp : H.263pp アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263 : H.263 アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H261 : H.261 アルゴリズムはビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

返される結果の値スペース:

<H264/H263pp/H263/H261>

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video Protocol
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video Protocol: "H264"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video FrameRate

発信チャネルのビデオ フレーム レートを示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video FrameRate
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video FrameRate: 30
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video ResolutionX

発信ビデオの幅 (X 方向の解像度) を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video ResolutionX
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video ResolutionX: 768
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Video ResolutionY

発信ビデオの高さ（Y 方向の解像度）を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video ResolutionY
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Video ResolutionY: 448
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local IpAddress

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Local Port

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol(RTP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP Local
Port: 16404
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote IpAddress

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol (RTP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTP Remote Port

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Protocol(RTP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTP Remote
Port: 50932
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local IpAddress

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP
Local IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP Local
IpAddress: "192.168.24.190"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Local Port

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのローカル UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP
Local Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP Local
Port: 16405
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RTCP Remote IpAddress

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP
Remote IpAddress
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP Remote
IpAddress: "192.168.136.130"
** end
```

xStatus MediaChannels Call [1..n] OutgoingVideoChannel [1..n] Transport RCTP Remote Port

メディア チャネルの発信ビデオ用 Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) ポートのリモート UDP ポート番号を示します。

返される結果の値スペース:

< 整数 >

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP
Remote Port
*s MediaChannels Call 27 OutgoingVideoChannel 331 Transport RTCP Remote
Port: 50933
** end
```

ネットワーク ステータス

xStatus Network

ネットワーク ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例:

```
xStatus Network
*s Network 1 Ethernet MacAddress: "00:50:60:02:E7:D3"
*s Network 1 Ethernet Speed: "1000full"
*s Network 1 IPv4 Address: "192.0.2.149"
*s Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"
*s Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.10"
*s Network 1 IPv4 DNS Domain Name: "www.example.com www.example.int"
*s Network 1 IPv4 DNS Server 1 Address: "192.0.2.60"
*s Network 1 IPv4 DNS Server 2 Address: "192.0.2.61"
*s Network 1 IPv4 DNS Server 3 Address: ""
*s Network 1 IPv4 DNS Server 4 Address: ""
*s Network 1 IPv4 DNS Server 5 Address: ""
*s Network 1 IPv6 Address: ""
*s Network 1 IPv6 Gateway: ""
*s Network 1 IPv4 MTU: 1500
*s Network 1 VLAN Voice VlanId: "Off"
** end
```

xStatus Network 1 Ethernet MacAddress

イーサネット インターフェイスの MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

< 文字列 >

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet MacAddress
*s Network 1 Ethernet MacAddress: "00:50:60:02:FD:C7"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Network 1 Ethernet Speed

イーサネット速度を Mbps 単位で示します。速度は、全二重または半二重の場合があります。

返される結果の値スペース：

<"10half"/"10full"/"100half"/"100full"/"1000full">

例：

```
xStatus Network 1 Ethernet Speed
*s Network 1 Ethernet Speed: "100full"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 Address

このシステムを一意に識別する IPv4 アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Network 1 IPv4 Address
*s Network 1 IPv4 Address: "192.0.2.149"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask

IPv4 アドレスが属するサブネットを決定するサブネット マスクを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask
*s Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 Gateway

IPv4 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Network 1 IPv4 Gateway
*s Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.10"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 DNS Domain Name

ドメイン名を表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Network 1 IPv4 DNS Domain Name
*s Network 1 IPv4 DNS Domain Name: "www.example.com www.example.int"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 DNS Server [1..5] Address

DNS サーバの IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Network 1 IPv4 DNS Server 1. Address
*s Network 1 IPv4 DNS Server 1 Address: "192.0.2.60"
** end
```

xStatus Network 1 IPv6 Address

このシステムを一意に識別する IPv6 アドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Network 1 IPv6 Address
*s Network 1 IPv6 Address: ""
** end
```

xStatus Network 1 IPv6 Gateway

IPv6 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Network 1 IPv6 Gateway
*s Network 1 IPv6 Gateway: ""
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Network 1 MTU

ネットワークの MTU（最大伝送単位）サイズを示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus Network 1 MTU
*s Network 1 MTU: 1500
** end
```

xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId

フィードバックは VLAN Voice ID を示します。VLAN Voice Mode がイネーブルでない場合、Off になります。

返される結果の値スペース：

<"Off"/"1".."4094">

例：

```
xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId
*s Network 1 VLAN Voice VlanId: "Off"
** end
```

プリセット ステータス

xStatus Preset

カメラ プリセット ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xStatus Preset
*s Preset 1 Defined: True
*s Preset 1 Type: All
*s Preset 1 Description: "Zoom in"
*s Preset 2 Defined: True
*s Preset 2 Type: All
*s Preset 2 Description: "Zoom out"
 -
 - //continues with Preset 3-15.//
** end
```

xStatus Preset [1..15] Defined

カメラ プリセットがこの位置で保存されるかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus Preset 1 Defined
*s Preset 1 Defined: True
** end
```

xStatus Preset [1..15] Type

カメラ プリセットのタイプを示します。

返される結果の値スペース：

<All/Camera>

例：

```
xStatus Preset 1 Type
*s Preset 1 Type: All
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Preset [1..15] Description

特定のプリセットに設定された名前をリストします。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Preset 1 Description
*s Preset 1 Description: "Zoom in"
** end
```

プロビジョニング ステータス

xStatus Provisioning

プロビジョニング ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xStatus Provisioning
*s Provisioning Status: Provisioned
*s Provisioning Reason: ""
*s Provisioning Software UpgradeStatus SessionId: ""
*s Provisioning Software UpgradeStatus LastChange: "2011-06-07T07:20:03Z"
*s Provisioning Software UpgradeStatus Status: None
*s Provisioning Software UpgradeStatus Phase: None
*s Provisioning Software UpgradeStatus Message: ""
*s Provisioning Software UpgradeStatus VersionId: ""
*s Provisioning Software UpgradeStatus URL: ""
*s Provisioning Software Current VersionId: ""
*s Provisioning Software Current URL: ""
*s Provisioning Software Current CompletedAt: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus Provisioning Status

プロビジョニングのステータスを表示します。

Failed : プロビジョニングが失敗しました。

AuthenticationFailed : 認証に失敗しました。

Provisioned : エンド ポイントはプロビジョニングされています。

Idle : プロビジョニングは非アクティブです。

NeedConfig : エンド ポイントを設定する必要があります。

返される結果の値スペース：

<Failed/AuthenticationFailed/Provisioned/Idle/NeedConfig>

例：

```
xStatus Provisioning Status
*s Provisioning Status: Provisioned
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Provisioning Reason

プロビジョニングに失敗した場合に、原因を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Reason
*s Provisioning Reason: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId

ソフトウェア アップグレードのセッション ID を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus SessionId: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange

最新のソフトウェア アップグレードの日時を表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange
*s Provisioning Software UpgradeStatus LastChange: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status

ソフトウェア アップグレードのステータスを表示します。

返される結果の値スペース：

<None/InProgress/Failed/Succeeded>

例：

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status
*s Provisioning Software UpgradeStatus Status: None
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase

ソフトウェア アップグレードのステータスを示します。

返される結果の値スペース：

<None/DownloadPending/Downloading/Installing>

例：

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase
*s Provisioning Software UpgradeStatus Phase: None
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message

ソフトウェア アップグレードのシステム メッセージを表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message
*s Provisioning Software UpgradeStatus Message: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId

現在アップロードおよびインストールされているソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus VersionId: "s52000tc5_1_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL

現在アップロードおよびインストールされている新しいソフトウェアの URL を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL
*s Provisioning Software UpgradeStatus URL: "http://.../s52000tc5_1_0.
pkg"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Provisioning Software Current VersionId

現在のソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software Current VersionId
*s Provisioning Software Current VersionId: "s52000tc5 _ 1 _ 0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software Current URL

現在のソフトウェアのアップロード元の URL を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software Current URL
*s Provisioning Software Current URL: "http://.../s52000tc5 _ 1 _ 0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software Current CompletedAt

現在のソフトウェア アップグレードが完了した日時を表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt
*s Provisioning Software Current CompletedAt: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

セキュリティ ステータス

xStatus Security FIPS Mode

FIPS モードのステータスを表示します。

返される結果の値スペース：

<On/Off>

例：

```
xStatus Security FIPS Mode
*s Security FIPS Mode: Off
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

SIP ステータス

xStatus SIP

SIP ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xStatus SIP
*s SIP Proxy 1 Status: Active
*s SIP Proxy 1 Address: "192.0.2.50"
*s SIP Proxy 1 Secure: True
*s SIP Proxy 1 Verified: False
*s SIP Registration 1 Status: Registered
*s SIP Registration 1 Reason: ""
*s SIP Registration 1 URI: "anyname@company.com"
*s SIP Registration 1 Authentication: Off
*s SIP Profile 1 Proxy 1 Status: Active
*s SIP Profile 1 Proxy 1 Address: "192.0.1.50"
*s SIP Profile 1 Secure: True
*s SIP Profile 1 Verified: False
*s SIP Profile 1 Authentication: Off
*s SIP Profile 1 Registration 1 Status: Registered
*s SIP Profile 1 Registration 1 Reason: ""
*s SIP Profile 1 Registration 1 URI: "anyname@company.com"
** end
```

xStatus SIP Proxy [1] Status

エンド ポイントと SIP プロキシ サーバ間の通信のステータスを表示します。

Active：エンド ポイントと SIP プロキシ間の通信はアクティブです。

DNSFailed：DNS サーバへの通信の確立試行が失敗しました。

Off：エンド ポイントと SIP プロキシ間に通信がありません。

Timeout：SIP プロキシへの通信の確立試行がタイムアウトになりました。

UnableTCP：システムは転送方式として TCP を使用できません。

UnableTLS：システムは転送方式として TLS を使用できません。

Unknown：通信のステータスは不明です。

返される結果の値スペース：

<Active/DNSFailed/Off/Timeout/UnableTCP/UnableTLS/Unknown>

例：

```
xStatus SIP Proxy 1 Status
*s SIP Proxy 1 Status: Active
** end
```

xStatus SIP Proxy [1] Address

システムが通信する SIP プロキシのアドレスを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SIP Proxy 1 Address
*s SIP Proxy 1 Address: "192.0.2.50"
** end
```

xStatus SIP Proxy [1] Secure

SIP プロキシ サーバとのシグナリングの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus SIP Proxy 1 Secure
*s SIP Proxy 1 Secure: True
** end
```

xStatus SIP Proxy [1] Verified

このソフトウェア バージョンではサポートされていません。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus SIP Proxy 1 Verified
*s SIP Proxy 1 Verified: False
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SIP Registration [1..n] Status

SIP プロキシ サーバへの登録ステータスを表示します。

Deregister : システムは SIP プロキシへの登録の解除処理中です。

Failed : システムは SIP プロキシへの登録に失敗しました。

Inactive : システムはどの SIP プロキシにも登録されていません。

Registered : システムは SIP プロキシに登録されています。

Registering : システムは SIP プロキシへの登録処理中です。

返される結果の値スペース :

<Deregister/Failed/Inactive/Registered/Registering>

例 :

```
xStatus SIP Registration 1 Status
*s SIP Registration 1 Status: Registered
** end
```

xStatus SIP Registration [1..n] Reason

SIP 登録が失敗した理由を説明するメッセージを表示します。

返される結果の値スペース :

< 文字列 >

例 :

```
xStatus SIP Registration 1 Reason
*s SIP Registration 1 Reason: "404 Not Found"
** end
```

xStatus SIP Registration [1..n] URI

SIP プロキシ サーバへの登録に使用する URI を示します。

返される結果の値スペース :

< 文字列 >

例 :

```
xStatus SIP Registration 1 URI
*s SIP Registration 1 URI: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus SIP Registration [1..n] Authentication

SIP プロキシ サーバに登録するときに、どの認証メカニズムが使用されるかを示します。

Digest : RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方式を使用します。

NTLM : Microsoft の認証プロトコルである NTLM 認証メソッドを使用します。

Off : 認証メカニズムは使用されません。

返される結果の値スペース :

<Digest/NTLM/Off>

例 :

```
xStatus SIP Registration 1 Authentication
*s SIP Registration 1 Authentication: Off
** end
```

xStatus SIP Profile 1 Proxy [1] Status

エンド ポイントと SIP プロキシ サーバ間の通信のステータスを表示します。

Active : エンド ポイントと SIP プロキシ間の通信はアクティブです。

DNSFailed : DNS サーバへの通信の確立試行が失敗しました。

Off : エンド ポイントと SIP プロキシ間に通信がありません。

Timeout : SIP プロキシへの通信の確立試行がタイムアウトになりました。

UnableTCP : システムは転送方式として TCP を使用できません。

UnableTLS : システムは転送方式として TLS を使用できません。

Unknown : 通信のステータスは不明です。

返される結果の値スペース :

<Active/DNSFailed/Off/Timeout/UnableTCP/UnableTLS/Unknown>

例 :

```
xStatus SIP Profile 1 Proxy 1 Status
*s SIP Profile 1 Proxy 1 Status: Active
** end
```

xStatus SIP Profile 1 Proxy [1] Address

システムが通信する SIP プロキシのアドレスを示します。

返される結果の値スペース :

< 文字列 >

例 :

```
xStatus SIP Profile 1 Proxy 1 Address
*s SIP Profile 1 Proxy 1 Address: "192.0.2.50"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SIP Profile 1 Secure

SIP プロキシ サーバとのシグナリングの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus SIP Profile 1 Secure
*s SIP Profile 1 Secure: True
** end
```

xStatus SIP Profile 1 Verified

このソフトウェア バージョンではサポートされていません。

返される結果の値スペース：

<True/False>

例：

```
xStatus SIP Profile 1 Verified
*s SIP Profile 1 Verified: False
** end
```

xStatus SIP Profile 1 Authentication

SIP プロキシ サーバに登録するときに、どの認証メカニズムが使用されるかを示します。

Digest：RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方式を使用します。

NTLM：Microsoft の認証プロトコルである NTLM 認証メソッドを使用します。

Off：認証メカニズムは使用されません。

返される結果の値スペース：

<Digest/NTLM/Off>

例：

```
xStatus SIP Profile 1 Authentication
*s SIP Profile 1 Authentication: Off
** end
```

xStatus SIP Profile 1 Registration [1..n] Status

SIP プロキシ サーバへの登録ステータスを表示します。

Deregister：システムは SIP プロキシへの登録の解除処理中です。

Failed：システムは SIP プロキシへの登録に失敗しました。

Inactive：システムはどの SIP プロキシにも登録されていません。

Registered：システムは SIP プロキシに登録されています。

Registering：システムは SIP プロキシへの登録処理中です。

返される結果の値スペース：

<Deregister/Failed/Inactive/Registered/Registering>

例：

```
xStatus SIP Profile 1 Registration 1 Status
*s SIP Profile 1 Registration 1 Status: Registered
** end
```

xStatus SIP Profile 1 Registration [1..n] Reason

SIP 登録が失敗した理由を説明するメッセージを表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SIP Profile 1 Registration 1 Reason
*s SIP Profile 1 Registration 1 Reason: "404 Not Found"
** end
```

xStatus SIP Profile 1 Registration [1..n] URI

SIP プロキシ サーバへの登録に使用する URI を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SIP Profile 1 Registration 1 URI
*s SIP Profile 1 Registration 1 URI: "firstname.lastname@company.com"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

スタンバイ ステータス

xStatus Standby Active

システムがスタンバイかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

<On/Off>

例：

```
xStatus Standby Active
*s Standby Active: Off
** end
```

SystemUnit ステータス

xStatus SystemUnit

システム ユニット ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xstatus SystemUnit
*s SystemUnit ProductType: "Cisco TelePresence Codec"
*s SystemUnit ProductId: "Cisco TelePresence Codec C20"
*s SystemUnit ProductPlatform: "C20"
*s SystemUnit Uptime: 788940
*s SystemUnit Software Application: "Endpoint"
*s SystemUnit Software Version: "TC4.2.0"
*s SystemUnit Software Name: "s52000"
*s SystemUnit Software ReleaseDate: "2011-06-03"
*s SystemUnit Software MaxVideoCalls: 1
*s SystemUnit Software MaxAudioCalls: 2
*s SystemUnit Software ReleaseKey: "true"
*s SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter: "true"
*s SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution: "true"
*s SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition: "true"
*s SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay: "true"
*s SystemUnit Hardware Module SerialNumber: "F9AA99A00090"
*s SystemUnit Hardware Module Identifier: "0"
*s SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel: "0"
*s SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber: "PH0999999"
*s SystemUnit Hardware MainBoard Identifier: "101551-2 [02]"
*s SystemUnit Hardware BootSoftware: "U-Boot 2010.06-81"
*s SystemUnit Hardware MonitoringSoftware: "39"
*s SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status: "locked on 1096 rpm"
*s SystemUnit Hardware Monitoring Fan 2 Status: "locked on 1096 rpm"
*s SystemUnit Hardware Temperature: "64.0"
*s SystemUnit State System: InCall
*s SystemUnit State MaxNumberOfCalls: 2
*s SystemUnit State MaxNumberOfActiveCalls: 1
*s SystemUnit State NumberOfActiveCalls: 1
*s SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls: 0
*s SystemUnit State NumberOfInProgressCalls: 0
*s SystemUnit State Subsystem Application: Initialized
*s SystemUnit ContactInfo: "anyname@company.com"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SystemUnit ProductType

製品タイプを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit ProductType
*s SystemUnit ProductType: "Cisco TelePresence Codec"
** end
```

xStatus SystemUnit ProductId

製品の識別情報を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit ProductId
*s SystemUnit ProductId: "Cisco TelePresence Codec C90"
** end
```

xStatus SystemUnit ProductPlatform

製品プラットフォームを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit ProductPlatform
*s SystemUnit ProductPlatform: "C90"
** end
```

xStatus SystemUnit Uptime

コーデックの最後の再起動以降の秒数を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus SystemUnit Uptime
*s SystemUnit Uptime: 597095
** end
```

xStatus SystemUnit Software Application

どのソフトウェア アプリケーションがコーデックで実行されているかを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software Application
*s SystemUnit Software Application: "Endpoint"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Version

コーデックにインストールされたソフトウェアのバージョンを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software Version
*s SystemUnit Software Version: "TC5.1.0"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Name

コーデックにインストールされているソフトウェアの名前を表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software Name
*s SystemUnit Software Name: "s52000"
** end
```

xStatus SystemUnit Software ReleaseDate

コーデックにインストールされているソフトウェアのリリース日を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate
*s SystemUnit Software ReleaseDate: "2012-02-22"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SystemUnit Software MaxVideoCalls

サポートされる同時ビデオ コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software MaxVideoCalls
*s SystemUnit Software MaxVideoCalls: 1
** end
```

xStatus SystemUnit Software MaxAudioCalls

サポートされる同時オーディオ コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース：

< 整数 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software MaxAudioCalls
*s SystemUnit Software MaxAudioCalls: 2
** end
```

xStatus SystemUnit Software ReleaseKey

コーデックにインストールされているソフトウェア バージョンの有効なリリース キーがあるかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software ReleaseKey
*s SystemUnit Software ReleaseKey: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter

システムにインストールされたオプション キーが、NaturalPresenter 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter
*s SystemUnit Software OptionKeys NaturalPresenter: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution

システムにインストールされたオプション キーが、PremiumResolution 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution
*s SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition

システムにインストールされたオプション キーが、HighDefinition 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition
*s SystemUnit Software OptionKeys HighDefinition: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay

システムにインストールされたオプション キーが、DualDisplay 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay
*s SystemUnit Software OptionKeys DualDisplay: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber

コーデックのハードウェア モジュールのシリアル番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber
*s SystemUnit Hardware Module SerialNumber: "F9AA99A00090"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SystemUnit Hardware Module Identifier

コーデックのハードウェア モジュールのリビジョンを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Hardware Module Identifier
*s SystemUnit Hardware Module Identifier: "1"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel

Cisco TelePresence エンドポイントは、通常の保存用に NAND フラッシュ メモリを使用しています。TC ソフトウェアを実行しているエンドポイントは、フラッシュ メモリに新しいバージョンが添付されます。フラッシュ メモリに新しいバージョンを持つエンドポイントは、ソフトウェア TC4.2.1 以降を実行する必要があります。以前の TC ソフトウェア バージョンの一部は、新しいフラッシュ メモリをサポートするように更新されます。フラッシュ メモリの新しいバージョンがサポートされているかどうかは、リリース ノートを確認してください。エンドポイントに CompatibilityLevel コマンドがない場合、新しいフラッシュ メモリがインストールされていません。

コマンドの実行時に返される結果は 0 と 1 のいずれかです。

0 = システムには新しいフラッシュ メモリがインストールされていません。

1 = システムには新しいフラッシュ メモリがインストールされています。ダウングレードされた場合、フラッシュ メモリの新しいバージョンをサポートするこれまでの TC ソフトウェア バージョンだけにダウングレードできます。

返される結果の値スペース：

<"1"/"0">

例：

```
xstatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel
*s SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel: 1
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber

コーデックのメイン ボードのシリアル番号を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber
*s SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber: "PH0999989"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware MainBoard Identifier

コーデックのメイン ボードのリビジョンを示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Hardware MainBoard Identifier
*s SystemUnit Hardware MainBoard Identifier: "101400-5 [06]"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware BootSoftware

コーデックにインストールされているブート ソフトウェアのバージョンを表示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus SystemUnit Hardware BootSoftware
*s SystemUnit Hardware BootSoftware: "U-Boot 2010.04-30"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware MonitoringSoftware

フィードバックはモニタリング ソフトウェア ID を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xstatus SystemUnit Hardware MonitoringSoftware
*s SystemUnit Hardware MonitoringSoftware: "39"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [1..n] Status

フィードバックは指定したファンの速度 (rpm) を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xstatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status
*s SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status: "locked on 1096 rpm"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SystemUnit Hardware Temperature

フィードバックはコーデック / システムで測定された現在の最高温度（摂氏）を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xstatus SystemUnit Hardware Temperature
*s SystemUnit Hardware Temperature: "64.0"
** end
```

xStatus SystemUnit State System

システムがどのステータスにあるかを示します。

InCall：システムはコール中です。

Initialized：システムは使用可能です。

Initializing：システムは初期化中です。

Multisite：システムは、Multisite 会議中です。

Sleeping：システムはスリープ モードです。

返される結果の値スペース：

<InCall/Initialized/Initializing/Multisite/Sleeping>

例：

```
xStatus SystemUnit State System
*s SystemUnit State System: Initialized
** end
```

xStatus SystemUnit State MaxNumberOfCalls

同時コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース：

<0..5>

例：

```
xStatus SystemUnit State MaxNumberOfCalls
*s SystemUnit State MaxNumberOfCalls: 3
** end
```

xStatus SystemUnit State MaxNumberOfActiveCalls

同時アクティブ コールの最大数を示します。保留 / 転送に設定されたコールはアクティブとしてカウントされません。

返される結果の値スペース：

<0..5>

例：

```
xStatus SystemUnit State MaxNumberOfActiveCalls
*s SystemUnit State MaxNumberOfActiveCalls: 3
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls

アクティブなコールの数を示します。

返される結果の値スペース：

<0..5>

例：

```
xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls
*s SystemUnit State NumberOfActiveCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls

一時停止中のコールの数を示します。

返される結果の値スペース：

<0..5>

例：

```
xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls
*s SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls

進行中のコールの数を示します。

返される結果の値スペース：

<0..5>

例：

```
xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls
*s SystemUnit State NumberOfInProgressCalls: 0
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus SystemUnit State Subsystem Application

サブシステム アプリケーションのステータスを表示します。

Initialized : サブシステム アプリケーションは初期化されています。

Initializing : サブシステム アプリケーションは初期化中です。

返される結果の値スペース :

<Initialized/Initializing>

例 :

```
xStatus SystemUnit State Subsystem Application
*s SystemUnit State Subsystem Application: Initialized
** end
```

xStatus SystemUnit ContactInfo

このシステムに到達するために別のシステムがダイヤルできるアドレスを示します。

返される結果の値スペース :

< 文字列 >

例 :

```
xStatus SystemUnit ContactInfo
*s SystemUnit ContactInfo: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus SystemUnit Notifications Notification [1..n] Type

システム通知のタイプをリストします。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにシステムが再起動したときや、ファクトリ リセットが実行されたときなどに発行されます。

FactoryResetOK : この値は、ファクトリ リセットの成功後に返されます。

FactoryResetFailed : この値は、ファクトリ リセットの試行失敗後に返されます。

SoftwareUpgradeOK : この値は、ソフトウェア アップグレードの成功後に返されます。

SoftwareUpgradeFailed : この値は、ソフトウェア アップグレードの試行失敗後に返されます。

RebootRequired : この値は再起動が必要な場合に返されます。

Other : この値は、他のすべての通知に返されます。

すべての通知は、xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値スペース :

<FactoryResetOK, FactoryResetFailed, SoftwareUpgradeOK, SoftwareUpgradeFailed, RebootRequired, Other>

例 :

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Type
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Type: SoftwareUpgradeOK
** end
```

xStatus SystemUnit Notifications Notification [1..n] Text

重要なシステム通知に関連するテキストをリストします。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにシステムが再起動したときや、ファクトリ リセットが実行されたときなどに発行されます。

すべての通知は、xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値スペース :

< 文字列 >

例 :

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Text
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Text: "OK"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

時間ステータス

xStatus Time ZoneOlson

Olson 形式の現在の時間帯を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Time ZoneOlson
*s Time ZoneOlson: Europe/Berlin
** end
```

ビデオ ステータス

xStatus Video Input

ビデオ入力ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例：

```
xStatus Video Input
*s Video Input LastConnectedSource: 0
*s Video Input Source 1 Resolution Height: 1080
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
*s Video Input Source 1 Resolution RefreshRate: 60
*s Video Input Source 1 Resolution FormatType: Digital
*s Video Input Source 1 Resolution FormatStatus: Ok
*s Video Input Source 2 Resolution Height: 0
*s Video Input Source 2 Resolution Width: 0
*s Video Input Source 2 Resolution RefreshRate: 0
*s Video Input Source 2 Resolution FormatType: Unknown
*s Video Input Source 2 Resolution FormatStatus: Error
*s Video Input HDMI 1 Connected: True
*s Video Input HDMI 1 SignalState: OK
*s Video Input DVI 2 Connected: False
*s Video Input DVI 2 SignalState: Unknown
** end
```

xStatus Video Input LastConnectedSource

最後に接続されたビデオ入力ソースを示します。

返される結果の値スペース：

<1..1>

例：

```
xStatus Video Input LastConnectedSource
*s Video Input LastConnectedSource: 0
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Video Input Source [1..2] Resolution Height

ビデオ入力ソースの解像度の高さ（ピクセル単位）を示します。

返される結果の値スペース：

<0..3000>

例：

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Height
*s Video Input Source 1 Resolution Height: 1080
** end
```

xStatus Video Input Source [1..2] Resolution Width

ビデオ入力ソースの解像度の幅（ピクセル単位）を示します。

返される結果の値スペース：

<0..4000>

例：

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Width
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
** end
```

xStatus Video Input Source [1..2] Resolution RefreshRate

ビデオ入力ソースの解像度のリフレッシュ レート（Hz）を示します。

返される結果の値スペース：

<0..300>

例：

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution RefreshRate
*s Video Input Source 1 Resolution RefreshRate: 50
** end
```

xStatus Video Input Source [1..2] Resolution FormatType

ビデオ入力ソースの解像度フォーマットのタイプを示します。

返される結果の値スペース：

<Unknown/AnalogCVTBlanking/AnalogCVTReducedBlanking/AnalogGTFDefault/AnalogGTFSecondary/AnalogDiscreteTiming/AnalogDMTBlanking/AnalogCEABlanking/Digital>

例：

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution FormatType
*s Video Input Source 1 Resolution FormatType: Digital
** end
```

xStatus Video Input Source [1..2] Resolution FormatStatus

ビデオ入力ソースの解像度フォーマットのステータスを示します。

返される結果の値スペース：

<Ok/AnalogOutOfRange/AnalogNotFound/Interlaced/Error/Unknown>

例：

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution FormatStatus
*s Video Input Source 1 Resolution FormatStatus: Ok
** end
```

xStatus Video Input HDMI [1] Connected

HDMI のコネクタに何かが接続されているかどうかを示します。すべての接続を検出することはできません。

返される結果の値スペース：

<True/False/Unknown>

例：

```
xStatus Video Input HDMI 1 Connected
*s Video Input HDMI 1 Connected: True
** end
```

xStatus Video Input HDMI [1] SignalState

HDMI 入力の信号状態を示します。

Unknown：信号フォーマットが不明です。

OK：信号が検出され、信号フォーマットはサポートされています。

Unsupported：信号は検出されましたが、信号フォーマットがサポートされていません。

返される結果の値スペース：

<Unknown/OK/Unsupported>

例：

```
xStatus Video Input HDMI 1 SignalState
*s Video Input HDMI 1 SignalState: OK
** end
```

xStatus Video Input DVI [2] Connected

DVI コネクタに何かが接続されているかどうかを示します。すべての接続を検出することはできません。

返される結果の値スペース：

<True/False/Unknown>

例：

```
xStatus Video Input DVI 2 Connected
*s Video Input DVI 2 Connected: False
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Video Input DVI [2] SignalState

DVI-I 入力の信号状態を示します。

Unknown : 信号フォーマットが不明です。

OK : 信号が検出され、信号フォーマットはサポートされています。

Unsupported : 信号は検出されましたが、信号フォーマットがサポートされていません。

返される結果の値スペース :

<Unknown/OK/Unsupported>

例 :

```
xStatus Video Input DVI 2 SignalState
*s Video Input DVI 2 SignalState: OK
** end
```

xStatus Video Output

ビデオ出力ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例 :

```
xStatus Video Output
*s Video Output HDMI 1 Resolution Height: 768
*s Video Output HDMI 1 Resolution Width: 1024
*s Video Output HDMI 1 Resolution RefreshRate: 60
*s Video Output HDMI 2 Resolution Height: 720
*s Video Output HDMI 2 Resolution Width: 1280
*s Video Output HDMI 2 Resolution RefreshRate: 60
** end
```

xStatus Video Output HDMI [1, 2] Resolution Height

ビデオ出力 HDMI の解像度の高さ (ピクセル単位) を示します。

返される結果の値スペース :

<120..3000>

例 :

```
xStatus Video Output HDMI 1 Resolution Height
*s Video Output HDMI 1 Resolution Height: 720
** end
```

xStatus Video Output HDMI [1, 2] Resolution Width

ビデオ出力 HDMI の解像度の幅 (ピクセル単位) を示します。

返される結果の値スペース :

<176..4000>

例 :

```
xStatus Video Output HDMI 1 Resolution Width
*s Video Output HDMI 1 Resolution Width: 1280
** end
```

xStatus Video Output HDMI [1, 2] Resolution RefreshRate

ビデオ出力 HDMI の解像度のリフレッシュ レート (Hz) を示します。

返される結果の値スペース :

<1..300>

例 :

```
xStatus Video Output HDMI 1 Resolution RefreshRate
*s Video Output HDMI 1 Resolution RefreshRate: 60
** end
```

xStatus Video Layout

ビデオ レイアウト ステータスのトップ レベルの概要を示します。

例 :

```
xStatus Video Layout
*s Video Layout PresentationView: "full"
*s Video Layout Site 1 Output 1 FamilyName: "speaker"
*s Video Layout Site 1 Output 1 FullFamilyName: "speaker-sv-on"
*s Video Layout Site 1 Output 1 GraphicName: "1top-1small"
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 PositionX: 1333
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 PositionY: 59
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Width: 7334
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Height: 7334
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Layer: 1
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 VideoSourceType: "site"
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 VideoSourceId: 27
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 InputNumber: 1
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Filename: ""
 -
 - continues with the video layout status for the Sites [1..n], Outputs [1..
n] and Frames [1..n].
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Video Layout PresentationView

プレゼンテーション ビュー モードに関する情報を返します。

返される結果の値スペース：

<Default/Maximized/Minimized>

例：

```
xStatus Video Layout PresentationView
*s Video Layout PresentationView: "Default"
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] FamilyName

ビデオ レイアウト ファミリの名前が表示されます。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 FamilyName
*s Video Layout Site 1 Output 1 FamilyName: "fullscreen"
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] FullFamilyName

セルフビューのオン / オフについての情報が含まれる、ビデオ レイアウト ファミリの名前を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 FullFamilyName
*s Video Layout Site 1 Output 1 FullFamilyName: "fullscreen-local-single-
camctrl"
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] GraphicName

グラフィック レイアウトの名前が表示されます。名前は、指定した出力で現在使用されているレイアウトを識別します。

注：システム上のコンフィギュレーションが変わらない限り FamilyName は固定されるのに対し、GraphicName はシステム状態（たとえばインスタンスの参加者数）によって異なることに注意してください。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 GraphicName
*s Video Layout Site 1 Output 1 GraphicName: "full-pip"
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] PositionX

フレームの左上隅の水平位置を示します。

返される結果の値スペース：

<0..10000>

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 PositionX
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 PositionX: 0
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] PositionY

フレームの左上隅の垂直位置を示します。

返される結果の値スペース：

<0..10000>

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 PositionY
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 PositionY: 0
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Width

フレームの幅を示します。

返される結果の値スペース：

<0..10000>

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Width
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Width: 10000
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Height

フレームの高さを示します。

返される結果の値スペース：

<0..10000>

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Height
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Height: 10000
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Layer

フレームのレイヤを示します。

返される結果の値スペース：

<1..6>

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Layer
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Layer: 1
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] VideoSourceType

フレーム内のビデオ ソースのタイプについて説明します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 VideoSourceType
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 VideoSourceType: "graphic"
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] VideoSourceId

フレームの追加または更新に使用されるビデオ ソース ID を示します。xCommand Video Layout Frame Add および xCommand Video Layout Frame Update を参照してください。

返される結果の値スペース：

<1..2>

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 VideoSourceId
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 VideoSourceId: 0
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] InputNumber

レイアウト入力番号を示します。

返される結果の値スペース：

<1..2>

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 InputNumber
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 InputNumber: 0
** end
```

xStatus Video Layout Site [1..n] Output [1..2] Frame [1..6] Filename

レイアウト フレームのファイル名を示します。

返される結果の値スペース：

< 文字列 >

例：

```
xStatus Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Filename
*s Video Layout Site 1 Output 1 Frame 1 Filename: "/user/posters/
wallpaper.png"
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

試験的ステータス

試験的ステータスは、テストのためだけのもので、シスコと同意したのでない限り使用できません。これらの設定は記載されておらず、以降のリリースで変更されます。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

6 章

付録

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

起動スクリプト

コーデックに起動スクリプトを追加して、起動中に API から特定のコマンドを実行できます。

起動スクリプトの追加

起動スクリプトは、起動中に API から特定のコマンドを実行するために使用できます。この機能をイネーブルにするには、ルートとしてコーデックにログインし、次のポイントに従う必要があります。

コーデックへのログイン

1. コマンドライン インターフェイス (ssh,telnet または scp) を使用し、`root` としてログインしてネットワークを介してコーデックに接続します。
2. 次のコマンドを使用してユーザ ディレクトリを作成します。
   `mkdir /user/scripts.d`
3. このディレクトリに実行可能ファイルを置きます (権限を実行可能に変更する必要があります)。

このようなファイルのテキストの例:

```
#!/usr/bin/env tsh
xCommand Audio LocalInput Update InputId: 1 MixerMode:Fixed
```

起動スクリプト ファイル

- ファイルは、次のシーケンスで始まる必要があります。
  `#!/usr/bin/env tsh`
- ファイルには、任意の xCommand または xConfiguration を含めることができます
- システムはコマンド / 設定を順番に実行します。
- ファイルには、このディレクトリに格納されている限り、任意の名前を付けることができます。
- 複数のコマンドについては、Unix の行末 (LF) を使用する必要があります。Windows の行末は機能しません。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

Cisco TelePresence リモート コントロール

機能キー：ショートカットや高度な機能を表します。
各キーが画面のソフト キーを反映します。

マイクロフォン：マイクロフォンのオンとオフを切り替えるには、キーを押します。

音量：コーデックの音量を調節するには、キーの + または – を押します。

ミュート：着信コール中に音量をミュートにするには、キーの – を押します。

OK/ 選択：選択を確定するには、✓ キーを押します。

電話帳：ローカルの電話帳を表示するには、キーを押します。

ホーム：画面にメニューを表示するには、キーを押します。

コール：次の機能に キーを使用します。
コールの開始：名前を電話帳から選択するか、名前、番号または URI を入力し、コール キーを押すとコールが開始します。
最近のコールへのショートカット：コール メニューが表示されていないときは、最近のコールへのショートカットとしてコール キーを使用します。

クリア：テキスト フィールドの文字を削除するには、C キーを押します。

システムの復帰
リモコンを持ち、手がリモコンの両側に沿ったゴム製ライン センサーに触れるようにします。
または：リモコンのいずれかのキーに触れます。

プレゼンテーション：プレゼンテーションを表示または非表示にするには、キーを押します。

ズーム：カメラをズーム イン、ズーム アウトするには、キーの + または – を押します。

矢印：

- 上下:メニューをナビゲートするには、▲ および ▼ 矢印キーを使用します。
- 右矢印：選択したメニュー項目を展開する、またはテキスト フィールドで右に移動するには、▶ 矢印キーを押します。
- 左矢印：メニューで 1 つ前のステップに戻る、またはテキスト フィールドで左に移動するには、◀ 矢印キーを押します。

レイアウト：レイアウト メニューを表示してビューを選択するには、キーを押します。

コール終了 / スタンバイ：通話を終了するには、キーを押します。または、アイドル状態のときに押し続けてスタンバイ モードに入ります。

英数字キー パッド：携帯電話と同様に、キー パッドを使用します。

- 0-9、a-z、ピリオド (.)、@、スペース、*：キーを繰り返し押して、表示されるオプションを切り替えます。
- abc/123 #：タッチ トーン モード (長押し)、小文字および数字を切り替えるには、# キーを押します。

IR トランスミッタの範囲 (DIP スイッチ設定)

IR トランスミッタには短距離と長距離があります。電池カバーを開けて電池を取り出し、DIP スイッチを設定します。

- 短距離 (1 m)：DIP スイッチを下に移動します。
- 長距離：DIP スイッチを上に移動します。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

リモコン キー マップ

Cisco TelePresence リモート コントロール 5 には、次のボタン コードと IR 信号パラメータがあります。

次のページに、リモコンについての 1 ページの概要を示します。

ボタン コード : リモコン 5

数値	*16 進*	*アドレス*	*ボタン名*
0	0		
1	1	0	数字 1
2	2	0	数字 2
3	3	0	数字 3
4	4	0	数字 4
5	5	0	数字 5
6	6	0	数字 6
7	7	0	数字 7
8	8	0	数字 8
9	9	0	数字 9
10	0A	0	数字 0
11	0B	0	*
12	0C	0	#
13	0D		
14	0E		
15	0F		
16	10		
17	11	0	プレゼンタ
18	12		
19	13		
20	14		
21	15		
22	16	0	ズームアウト
23	17	0	ズームイン
24	18		
25	19	0	音量小
26	1A	0	音量大
27	1B	0	マイクロフォン オフ
28	1C		
29	1D	0	上矢印
30	1E	0	下矢印
31	1F	0	左矢印
32	20	0	右矢印
33	21	0	Ok

ボタン コード : リモコン 5

数値	*16 進*	*アドレス*	*ボタン名*
34	22	0	コール
35	23	0	コール終了
36	24	0	電話帳
37	25	0	レイアウト
38	26	0	クリア
39	27		
–	–		
41	29		
42	2A	0	ソフト キー 1
43	2B	0	ソフト キー 2
44	2C	0	ソフト キー 3
45	2D	0	ソフト キー 4
46	2E	0	ソフト キー 5
–	–		
–	–		
–	–		
–	–		
51	33	0	ホーム

IR 信号パラメータ

名前	*説明*
プロトコル	Siemens SDA2208
基準周波数	485 kHz
アドレス	4 および 7
IR 波長	940 nm
IR キャリア周波数	30 kHz

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

接続解除原因タイプについて

コールが切断された場合、次のパラメータが記録されます。接続解除原因タイプは、接続解除イベント（xEvent）で使用され、xHistory CallLogs にも記録されます。

CauseValue	独自仕様。CauseType および CauseCode の使用を推奨します。
CauseType	コールが切断された理由を示します。値スペースは {OtherLocal, LocalDisconnect, UnknownRemoteSite, LocalBusy, LocalReject, InsufficientSecurity, OtherRemote, RemoteDisconnect, RemoteBusy, RemoteRejected, RemoteNoAnswer, CallForwarded, NetworkRejected} です。
CauseString	原因コードを記録します。
CauseCode	接続解除の原因コードは SIP および Q.850 で定義されています。
CauseOrigin	SIP、Q.850、internal

例：

```
xHistory CallLogs Call 694
...
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCauseValue: 2
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCause: “Normal”
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCauseType: RemoteDisconnect
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCauseCode: 16
*h xHistory CallLogs Call 694 DisconnectCauseOrigin: Q850
...
** end
```

xEvent DisconnectEvent

```
*e CallDisconnect CauseValue: 1
   CauseType: “LocalDisconnect”
   CauseString: “”
   OrigCallDirection: “outgoing”
   RemoteURI: “firstname.lastname@company.com”
   CallId: 89
   CauseCode: 0
   CauseOrigin: SIP
** end
```


© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.

シスコの Web サイトでは、シスコの世界各地のお問い合わせ先を確認できます。
URL: http://www.cisco.com/web/siteassets/contacts

シスコシステムズ合同会社
〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先 : シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS 含む)
電話受付時間 : 平日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

TANDBERG はシスコの一部です。TANDBERG® は Tandberg ASA に帰属する登録商標です。

© 2010-2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Copyright © 2010-2012, シスコシステムズ合同会社 . All rights reserved.